

新津市文化財調査報告書

# 上 浦 A 遺 跡

新津市工業団地第2期工事地内発掘調査報告書

1997

新津市教育委員会

## 例 言

- 1 本書は、新潟県新津市大字北上字上浦地内に所在する上浦A遺跡の発掘調査に係わる報告書である。
- 2 当発掘調査は、同地内に開発されることになった、新津市工業団地造成に基づいて発見された遺跡の事前調査である。
- 3 調査は、新津市教育委員会が行なった確認調査結果に基づき、川上が新津市教育委員会の調査依頼を受けてこれを代行した。
- 4 調査体制は次のとおりである。

調査 主体	新津市教育委員会教育長	川瀬敏夫
調査担当者	川上貞雄	(日本考古学協会々員)
調 査 員	杉本恵子	(新潟県考古学会々員)
	佐藤友子	
事 務 局 (1993年度)		
	榎本泰伸	(生涯学習課 課長)
	吉沢 功	(生涯学習課 課長補佐)
	上沼 茂	(生涯学習課 係長)
	渡辺朋和	(生涯学習課 主事)
	川崎昌晃	(生涯学習課 主事)
	阿達哲二	(生涯学習課 技士)
同 (1996年度)		
	中村 博	(教育委員会教育長)
	松井 弘	(生涯学習課 課長)
	吉沢 功	(生涯学習課 課長補佐)
	小栗 正	(生涯学習課 主幹係長)
	渡辺朋和	(生涯学習課 主査)
	川崎昌晃	(生涯学習課 主事)
	阿達哲二	(生涯学習課 技士)
整理作業員	田中順子	(笹神村郷土資料館)
協 力 者	笹神村郷土資料館	

- 5 調査は、1992年3月及び4月に於ける確認調査と、同年8月20日から12月5日までの本調査、1993年8～9月間の一部整理作業や、1995年2月から3月までの整理作業をもって終了した。なお報告書の執筆は調査担当者の都合によって96年度事業となった。また整理作業に当たっては、諸般の事情により、笹神村郷土資料館の研究室を借用して行った。
- 6 本書の執筆は川上が担当し、作図をはじめ編集作業は、杉本、佐藤、田中が分担した。
- 7 発掘作業から報告書作成に至るまで、多くの方々の御指導、御支援を賜った。記して謝意を示す。  
戸根与八郎 横山勝栄 宇野隆夫 四柳嘉章 赤沼英男 増子正三 遠藤孝司 木村康祐  
渡辺十二 山本忠雄 亀井 功 北沢昭松 金子 正 本間敏則 永井 忠 笹神村教育委員会  
笹神村郷土資料館

# 目 次

I	はじめに	
1	遺跡と周辺の遺跡	1
2	発掘調査に至る経緯	2
3	グリッドの設定と地層序列	3
4	出土土器の分類	5
	須恵器	5
	土師器	7
II	A地点の遺構と遺物	
1	A地点の調査範囲と結果	9
2	遺構	9
3	遺物	11
	A 遺構内出土の遺物	12
	B 遺構外出土の遺物	14
	C 柱根と墨書土器	15
	D A地点掲載遺物一覧表	27
III	B地点の遺構と遺物	
1	B地点の調査範囲と結果	35
2	遺構	35
3	遺物	38
	A 遺構内出土の遺物	38
	B 遺構外出土の遺物	40
	C 墨書土器	42
	D B地点掲載遺物一覧表	56
IV	ま と め	
1	上浦遺跡とその時代	68
2	おわりに	69
V	報告書抄録	
VI	参加者名簿	
VII	写真図版	

## 凡 例

- 1 遺構は下記の記号とした SB=建物 SD=溝 SK=土坑 P<sub>1</sub>…P<sub>n</sub>=柱穴
- 2 遺物に対する割付け番号は、一覧表番号・図版割付け番号と一致する。但し遺物番号ではない
- 3 図版に付した番号の内、☆印の付くものは遺物番号である。
- 4 遺物実測図の内、断面が白抜きのは土師器であり、黒塗りのものは須恵器である。
- 5 遺物実測図の中のスクリーン・トーンが示すものは次のとおりである。



黒色処理



墨付き



付着炭化物



焼け木炭

## 挿 図 目 次

第1図 遺跡と周辺の古代遺跡分布図…………… 1	第23図 その他の出土土器 VI……………24
第2図 開発区域と発掘調査地点…………… 3	第24図 その他の出土遺物 VII……………25
第3図 確認調査トレンチ位置図…………… 3	第25図 墨 書……………25
第4図 上浦遺跡発掘調査位置図…………… 4	第26図 柱残根……………26
第5図 グリット図…………… 4	第27図 上層の遺構……………35
第6図 小グリット模式図…………… 4	第28図 遺構全測図……………36
第7図 出土土器模式図…………… 6	第29図 溝遺構断面図……………36
第8図 遺跡地層図…………… 4	第30図 土坑断面図……………38
第9図 A地点グリット図…………… 8	第31図 遺構土坑出土土器 I……………43
第10図 A地点遺構全測図…………… 8	第32図 遺構土坑出土土器 II……………44
第11図 掘立柱建物推測図…………… 9	第33図 遺構土坑出土土器 III……………45
第12図 掘立柱建物柱穴断面図…………… 10	第34図 遺構土坑出土土器 IV……………46
第13図 SD-1号内土器出土状況…………… 10	第35図 遺構土坑出土土器 V……………47
第14図 SD-1号上層部土器出土状況…………… 12	第36図 その他の出土土器 I……………48
第15図 柱穴出土の土器…………… 16	第37図 その他の出土土器 II……………49
第16図 SD-1号出土土器 I…………… 17	第38図 その他の出土土器 III……………50
第17図 SD-1号出土土器 II…………… 18	第39図 その他の出土土器 IV……………51
第18図 その他の出土土器 I…………… 19	第40図 その他の出土土器 V……………52
第19図 その他の出土土器 II…………… 20	第41図 その他の出土土器 VI……………53
第20図 その他の出土土器 III…………… 21	第42図 その他の出土土器 VII……………54
第21図 その他の出土土器 IV…………… 22	第43図 その他の遺物 他……………55
第22図 その他の出土土器 V…………… 23	第44図 墨 書……………56

## 表 目 次

表1 分布遺跡一覧表……………	1
表2 柱穴高低表……………	11
表3 A地点掘載遺物一覧表……………	27
表4 柱残穴一覧表……………	34
表5 溝状遺構一覧表……………	37
表6 土坑遺構一覧表……………	37
表7 B地点掘載遺物一覧表……………	56
表8 出土遺物総数……………	69

## 図 版 目 次

図版 1	遺跡全景……………	1	図版19	A地点 土器 XII……………	19
図版 2	A地点 土器出土状況……………	2	図版20	A地点 その他の遺物……………	20
図版 3	A地点 掘立建物柱穴群……………	3	図版21	B地点 全景 他……………	21
図版 4	A地点 柱穴……………	4	図版22	B地点 溝遺構……………	22
図版 5	A地点 柱穴……………	5	図版23	B地点 溝遺構……………	23
図版 6	A地点 柱根……………	6	図版24	B地点 土坑遺構……………	24
図版 7	A地点 柱根……………	7	図版25	B地点 土器 I……………	25
図版 8	A地点 土器 I……………	8	図版26	B地点 土器 II……………	26
図版 9	A地点 土器 II……………	9	図版27	B地点 土器 III……………	27
図版10	A地点 土器 III……………	10	図版28	B地点 土器 IV……………	28
図版11	A地点 土器 IV……………	11	図版29	B地点 土器 V……………	29
図版12	A地点 土器 V……………	12	図版30	B地点 土器 VI……………	30
図版13	A地点 土器 VI……………	13	図版31	B地点 土器 VII……………	31
図版14	A地点 土器 VII……………	14	図版32	B地点 土器 VIII……………	32
図版15	A地点 土器 VIII……………	15	図版33	B地点 土器 IX……………	33
図版16	A地点 土器 IX……………	16	図版34	B地点 土器 X……………	34
図版17	A地点 土器 X……………	17	図版35	B地点 墨書土器……………	35
図版18	A地点 土器 XI……………	18			

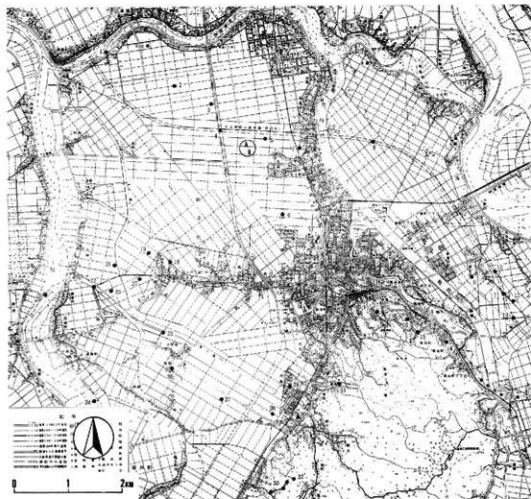
# I はじめに

## 1 遺跡と周辺の遺跡

上浦遺跡は新潟県新津市大字川口字乙 790-1 番地他に所在する古代に属する遺跡である。越後平野のほぼ中央部に位置する新津市は、越後山脈の支脈の一つである南から北に延びる新津丘陵の先端部に発展した都市であり、西側に信濃川、東側には阿賀野川の2大大河に接し、さらに北側には阿賀野川から信濃川に通じる小阿賀野川を隔てて、新潟市と横越町とに接している。また市街地内の東側には阿賀野川に平行して流れる能代川があり、別名九十九曲り川と言われた暴れ川が越後山脈を源として遺跡の近くを流れている。1979年(54年)発刊の最終版である『新潟県遺跡地図』[1979; 新潟県教育委員会]に上浦遺跡は登録されていない。この遺跡の発見の経緯は詳らかではないが、1985年(60年)、

表1 分布遺跡一覧表

1	川原畑	8	神の羽 (寺嶋)	13	細池	20	長左衛門	27	中郷
2	長沼		14	草水須恵窯址	21	川根 A	28	北郷	
3	結	9	寺道 (西江浦)	15	滝谷須恵窯址	22	川根 B	29	桜大門
4	上浦		16	七本松須恵窯址	23	川根 C	30	古津駅前	
5	上浦団地 I	10	寺道上 B	17	秋葉ブドー園	24	浦興野	31	大坪
6	山谷北	11	寺道上 A	18	小戸下組	25	下梅ノ木	32	大入製鉄址
7	川口甲	12	木津橋	19	西沼	26	曾根	33	居村製鉄址群



第1図 遺跡と周辺の古代遺跡分布図

新潟県教育委員会による、この地域の遺跡詳細分布調査によって発見、登録された遺跡であり、おそらくこの地域に建設される事になった、磐越自動車道工事に伴う事前の遺跡分布調査によって、発見されたものと推測されるものである。遺跡はまた国道403号と磐越自動車道が交わる辺りから、南東にかけて1km、南北500m程の広大な広がりを見る。また後述する結遺跡と400mの距離である事からこれに連続する可能性も占めている。言うまでもなくここは越後平野特有の沖積平野の低湿地帯で、地盤沈下が叫ばれている現在の標高は3.5m前後である。西方の信濃川までは3km、東側1kmには能代川が流れ、この左岸の自然堤防上に市街地から続く北上・川口・結・荻川などの近世以降の町並みが見られる。

この自然堤防の西側に当たる低湿地に、第1図に示したように6山谷北遺跡、7川口甲遺跡、4・5上浦遺跡、3結遺跡、やや離れて2長沼遺跡などの古代の遺跡が点在する。山谷北遺跡は丸木舟の出土と、「親子溝」の悲しい伝説を秘め古くから市民に馴染みの深い遺跡である。川口甲遺跡は当遺跡に近接しており今後の調査では同一の遺跡の範疇になる可能性もある。1991年宅地造成工事に関連して極小規模の発掘調査が実施され報告されている[1992：川上]。ここでは遺構などの検出は見なかったが8～9世紀の遺物を報告した。結遺跡は、過去の採集資料に基づけば、古代の須恵器を中心として、古墳時代の土師器の良好な資料とがある。またの中に縄文中期の土器片を見る。長沼遺跡はかつての沼地で標高2m強と最も低い地帯で、須恵器と土師器が採集された古代の遺跡である。能代川を挟んだ東側には、8沖の羽遺跡がある。かつては蛙川遺跡或いは寺嶋遺跡と称されていた遺跡である。また金屋地区には9～13の遺跡がある。この内、前記の蛙川遺跡と共に、10寺道上B遺跡、11寺道上A遺跡、13細池遺跡が、磐越自動車道工事に伴い1992～1993年にかけて発掘調査が行われている。これらの内、寺道上遺跡と細池遺跡については詳細な報告がなされ[1994：小池ほか]、古代と中世の複合遺跡である。一方、金津川、朝日川を源流とする東大通川の自然堤防上の微高地に発達したと考えられる21～30(但し24を除く)の遺跡群の内、21川根遺跡出土の北方文化博物館に展示されている丸木舟は著名である。一方、この時代で特に新津市を代表する遺跡に、金津地区の製鉄関連遺跡群と草水地区の須恵器窯址群との生産遺跡がある。金津丘陵の製鉄関連遺跡群の内、33居村遺跡のA～E地区と32大入遺跡の一部は、1989～1990年にかけて発掘調査が行われ、この内の一部が報告されている[1996：川上]。ここでは古代に於ける製鉄と、中世の製鉄と精鉄とが行われていた。須恵器窯址群は新津丘陵の北東向き先端部に立地する。この内1954年に16七本松窯址が発掘調査され報告された[1956年：中川ほか]。また1994年宅地造成工事に関連して14草水窯址とその周辺に広がる関連遺跡などが発掘調査された。この時点で14草水窯址は草水2丁目遺跡と改名された。

当遺跡はこの様な遺跡群を周辺に持ち、第1図の4～5と〇印内のA～Bとの範囲に跨がるものと考えられている。この内4は磐越自動車道予定地であり事前調査として1991～1992年にかけて発掘調査が行われた。

## 2 発掘調査に至る経緯

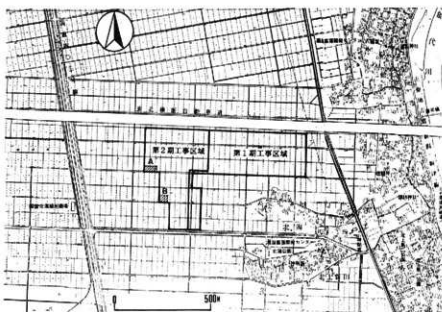
1990年頃になって北潟地区の西北区域の一角に工業団地造成計画が持ち上がり、新津市の単独事業として実施される事になった。この区域は第2図に太線で示した範囲であり、第1期工事区域の13.9ha、第2期工事区域の11.4haの合計25.3haに及ぶ2次に亘る工事計画が示された。これに伴って、市教育委員会では、この地域が上浦遺跡や川口甲遺跡に隣接していることから、確認調査を実施することにし、さらにこの西側に当たる水田のパイプ灌漑工事関連区域も含めた広範囲の調査が行うことにした。第1期工事区域とパイプ灌漑工事関連区域の確認調査と、第2期工事区域の調査の2次に亘る調査が市教育委員会専門職員によって行なわれた。調査では小トレンチをもって行ない、第1期工事区域では94トレンチ、パイプ灌漑工事関連区域で70トレンチ、第2期工事区域で79トレンチの合計243トレンチをもって調査した。この結果についての具体的な内容は知らされていないが、この2次に亘るそれぞれのトレンチ設定図を合わせて作成したものが第3図である。この図によれば西側の農道に沿って設置されるパイプ灌漑工事関連区域では、その北側にかんり密度で遺物が検出たと報告され、第1期工事区域の中央部分も同様である事がわかる。第2期工事区域では、北側中央部分と中央部以南の西側に遺物が検出されている。しかしながらここでの発掘調査区域が第4図のDに示した2ヶ所になった事は、北側中央部分での遺物の検出が極小であったものと考えられる。いずれにせよ工業団地造成に関しては、第4図に示したC・D区域内を発掘調査することとなった。なお同図に示したA・B区域は、磐越自動車道予定地であり、県教育委員会が担当するA区域は1991年11月に本調査を終え、1992年4月より引き続きB区域の調

査に入っていた。市教育委員会では第1期工事区域内のC区域に付いて1992年4月より市教育委員会専門調査職員渡辺明和氏を担当者として発掘調査に入った。第1期工事区域の造成工事は同年8月に入って調査区域を残しては終了した。D区域に付いては同年の後半より引き続き調査に取り掛かる予定であったが、C区域の調査が結果的には12月まで持ち越す事になり、急遽予定を変更して調査担当者を外部に求める事になり、川上がこの依頼を受けることになった。しかしこの時点で新津市内ではこのB・C区域の発掘調査の他、さらに磐越自動車道予定地関連の沖の羽遺跡・細池遺跡・寺道上遺跡の大規模な発掘調査が行われており、これらに従事する作業員に限界をきたし、安田町、亀田町、横越町などの近隣町村の動員を求めている有様で、D区域の調査はB区域の調査の終了を待って、この方々によって行うこととなり、実際の調査に取り掛かったのは9月に入ってからの事である。

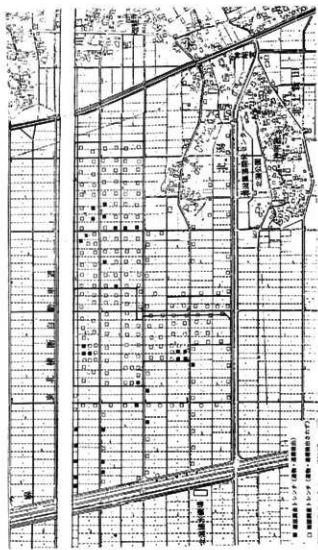
### 3 グリッドの設定と 地層序列

当調査範囲は第2期工事区域内に於ける南北に別れた2か所、即ち第5図のA・B地点と定められた。A地点は南北25m、東西65mの1625㎡であり、B地点は南北35m、東西40mの1400㎡である。私たちが現地に着いた時、市教育委員会によってこの調査区域の周囲に深さ140cm程の排水溝が完成していた。この地域には遺跡調査のための15m四方のグリッドが設定されていると聞き及び、その詳細に就いてや起点などは不明であるが、第2期工事区域内に於けるグリッドは最大で南北のQ～Z、さらに続いてa～o、東西に52～74区に範疇である。

私たちに示されたのはT・U-54～56、



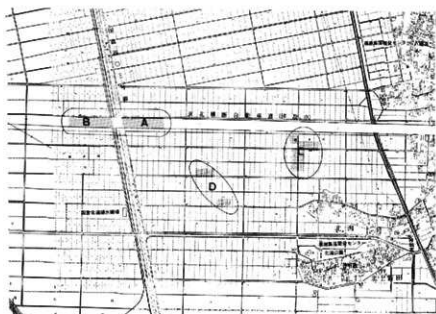
第2図 開発区域と発掘調査地点



第3図 確認調査トレンチ位置図

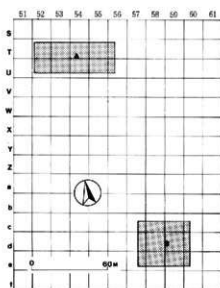
(新津市教育委員会 確認調査報告書より)





第4図 上浦道跡発掘調査位置図

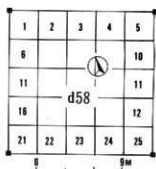
(A 1991.9～ B 1992.4～ C 1992.4～  
D 1992.8～)



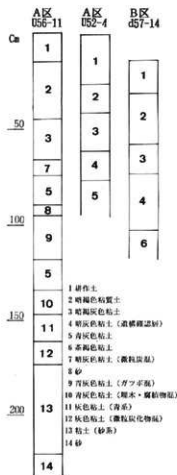
第5図 グリット図

d・e-59～60の都合10本の基本杭である。この杭を基に15m四方のグリットを打杭によってA地点はT～U-52～56、B地点はc～e-57～60の都合22区のグリットを復元した。これは大グリットであり、それぞれの杭の南東側を例えばT-52区と呼称した。この大グリットを3m四方に細分して25の小グリットを設定した。小グリットは第6図に示した如く、北西に位置する基本杭より東に向かって1～5…20～25区とし、それぞれ大グリットの後に小グリットの数字を付し、例えばT-52-25区と呼称した。このグリットの方位はT・U及びd・eラインはN12°E(磁北)である。

調査区域における地層は、耕作土、暗褐色粘質土、暗褐色粘質土、暗褐色粘土、青灰色粘土或いは茶褐色粘土で安定しているが、地点によってそれらの深度に異なりがある。この内第4層の暗褐色粘土が遺物包含層であり遺構検出面である。調査の結果A地点ではT-53の第1列以東には遺構・遺物の検出は全く見られず第4層は確認できない。B地点では第4層である遺構確認層が厚く、その下層はA地点には見られない茶褐色粘土層となる。この厚い遺構確認層では一部に上下2層に亘っての遺構が見られたが上層の遺構には遺物は伴わない。



第6図 小グリット模式図



第8図 遺跡地層図

調査に先立ちバックホーとクローラードンプを動員して、60～70cmの表土と堆積土を削除した。その後ベルトコンベアーを導入して人力を以て掘削に入った。調査はA地区より開始して適時にB地区に移動したが、A地区の遺構の処理が最終の仕事として長引いた。

#### 4 出土土器の分類

今後の調査を待たねばならないが調査区域のA・Bの2地点がその性格及び時期的な相違があると考えられ、このため当報告はA・Bの2地点を区別して行いたいと思う。従って出土遺物の項も分離するため、同類の遺物が多い事から重複を避けるべく、ここで出土遺物の分類を行なっておきたい。

出土遺物はA地点、B地点とも須恵器と土師器である。出土遺物に就いてはそれぞれの項で図示または特徴などを表示したが、逐一記述し難いのである程度分類をし、これを模式図として第8図に示したのでこれに照合されたい。なお表示の中でX類としたものは破損などにより分類出来ないものである。

##### 須恵器

須恵器の器種分類では坏蓋・壺蓋・坏・高台坏・碗・横瓶・壺・甕がある。これらをそれぞれ次のように細分した。

**坏蓋** 言うまでもなく坏の蓋である。器高の高低や胴部又は縁の形態など様々であるが、ここでは縁部の立上がり(折り返し)の形態の異なりによって4分した。

- 1類 器体より垂直に下がるもの。
- 2類 その断面が逆三角形を呈しているものと、内側に向かって折れるものを集めた。
- 3類 外側に向かっていているもの。
- 4類 極少量であるが折り返し部分を持たないもの。

**壺蓋** 短頸壺に用いられる蓋である。極少量で分類するに至らない。

**坏** それぞれ全体の器形によって5分した。

- 1類 やや丸みを帯びた形態で、底部と器壁の立上がり部分の境に角をもたないもの。
- 2類 底部が平らか又は上げ底状に盛り上がり、底部と器壁の立上がり部分の境に角を持ち立上がり角度の強いもの。
- 3類 2類と同様であるが立上がり角度の緩いもの。
- 4類 底径が小さく口径が開いたもの。
- 5類 器高が特に低いもの。

**高台坏** 高台をもつ坏で全体の器形によって3分した。

- 1類 底部と器壁の立上がり部分の境に角をもたず丸みのあるもの。立上がり器壁の薄いものが多い。
- 2類 器壁が強い角度を以て立上がり、腰部が角張るもの。
- 3類 口縁部が内湾状に開いて受口状を呈しているもの。器壁の厚いものが多い。

**碗** 大型をA類、小型をB類と2分し、さらにそれぞれを高台の形態によって細分した。

A-1類・B-1類 高台が外側に張り出すもので、量付(接地点)がくびれており高台の外周部分のみが接地するものが多い。

A-2類・B-2類 高台が内側に向いているものである。1類同様に量付にくびれを持つ。

A-3類・B-3類 高台がほぼ垂直に付くものを集めた。量付も水平なものが多い。

**横瓶** 少量の出土であり改めて分類するまでに及ばない。

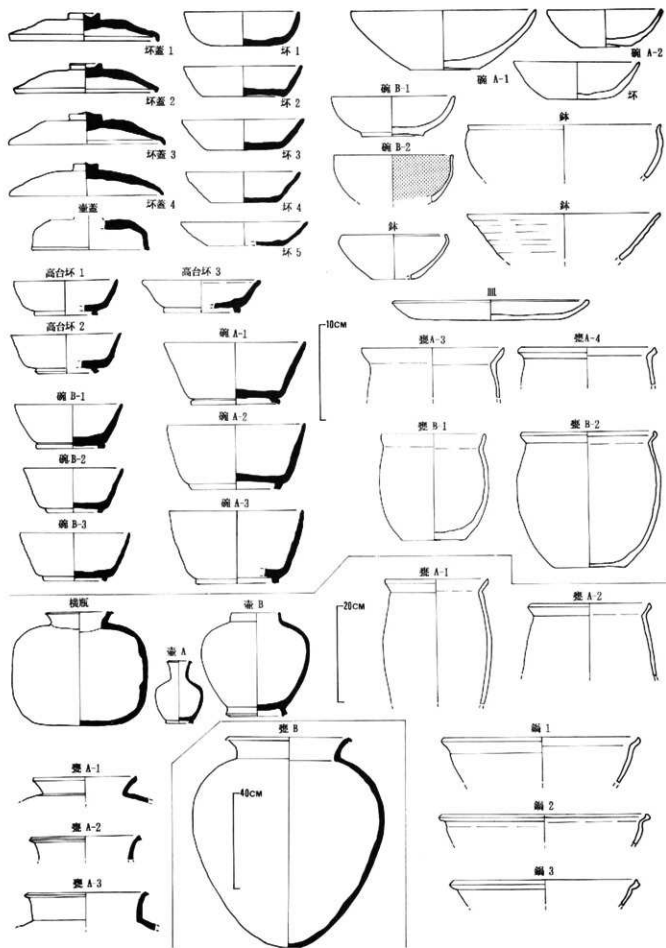
**壺** 形態の異なりによって2分した。

A類 長頸壺を分類した。大小がある。

B類 短頸壺をまとめた。

**甕** 大小によって3分した。その内の一部を口縁部の造りによって細分した。

A類 小型のものをA類とし、口径は20～30cmほどのものである。



第 7 图 山土土器模式图

- 1類 口縁部が大きく外反し口唇部が単純なもの。
- 2類 口縁部が緩く外反し、口唇部が強く押さえられて引き出されたもの。
- 3類 口縁部がやや直立気味で、口唇部が強くつまみ出されたもの。

B類 大型のもので、最大径80cm以上と推定されるもの。

C類 唯一のものであるが鉢形のものをもC類とした。

#### 土師器

土師器は全てロクロ土師器と呼称している8世紀以降のもので古墳時代の古式土師器と区別されるものである。これらの器種には碗・杯・鉢・壺・埴類がある。これらをそれぞれ次のように分類した。

碗 器形の異なりによって2分し、それぞれを細分した。

A類 回転糸切の底部から内湾ながら器壁が大きく広がる形態のもので、器壁にロクロ痕を残す。これらを大小に分けた。

- 1類 大型のもので、口径15cm以上のもの。
- 2類 通常のもので、口径12～14cm前後のものである。

B類 腰部に丸みを持つものである。

- 1類 やや器高の低いものを分けた。量的には少なく、一部に微かな高台を削り出すものがある。
- 2類 器高の高いものを集めた。内黒土器もここに部類した。

杯 不安定なものを含めても少量であり分類するに至らない。なお脚類の範疇にするべきかも知れないが、その形態が須恵器の杯写しである所から敢て杯とした。

鉢 総数6点程の検出であり、形態的には3分されるがその内の2種がそれぞれ1点のみであることで敢て分類しない。それぞれの項で記す。

皿 唯一のもので分類には及ばないがここに示した。

壺 形態によって3分し、それぞれを口縁部の異なりによって細分した。

A類 器形の全体を見るものは検出されていないが、口径に対して器高が2倍になるものでいわゆる胴長壺である。最大径を口径に持つものと胴部を持つものがあるが、繁雑になるので敢て分類していない。大小があり、この内口径20cm以上のものを大型とし、それ未満のものを小型とした。小型の口径は15cm以下で10cm未満のものも多い。

B類 大型の器体で外反する口縁部が丸みを持つ自然体の口唇部であるもの。

- 1類 大型の器体で外反する口唇部が丸みを持つ自然体の口唇部であるもの。
- 2類 大型の器体で口唇部を強く押さえたり、上部へつまみ上げたもの、或いは内側へ折り返したものの調整を加えたもの。
- 3類 小型で外反する口縁部が丸みを持つ自然体の口唇部であるもの。
- 4類 小型で口唇部を強く押さえたり、上部へつまみ上げたもの、或いは内側へ折り返したものの調整を加えたもの。
- 5類 大小の区分が出来ないが口縁部が丸みを持つ自然体の口唇部であるもの。
- 6類 大小の区分が出来ないが口縁部を強く押さえたり、上部へつまみ上げたもの、或いは内側へ折り返したものの調整を加えたもの。

B類 器高と最大径がほぼ同一のもので、胴部と口径がほぼ同一の計値を呈するものである。口縁部はA類に比較してやや内湾する。ここでも口唇部の造りによって細分した。

- 1類 口縁部の造りがA-1類と同一である。
- 2類 口縁部の造りがA-2類と同一である。

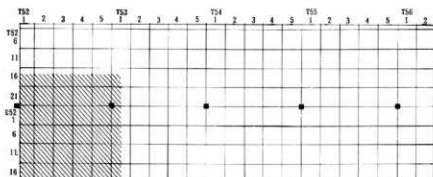
X類 その他に形態を把握出来ないもの数点を無分類でXとした。本項で記述する。

埴 浅い反円形で緩く外反する口縁部に最大径を持つ。口縁部の調整によって3分した。

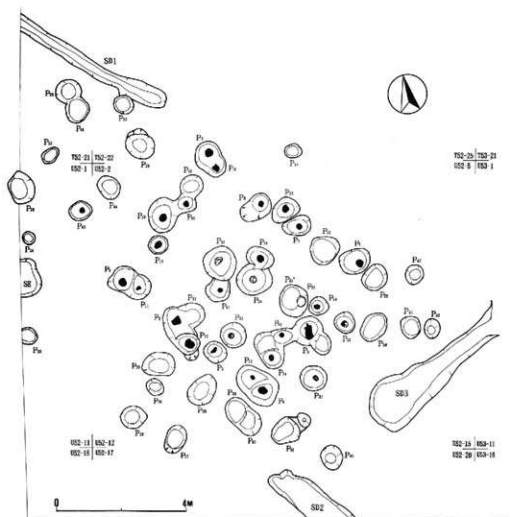
1類 口唇部に余り変化が見られないもの。

- 2類 口唇部を上部へつまみ上げたもの。  
 3類 口唇部を工具などで強く押さえ付けたもの。

以上出土土器の分類を示した。出土遺物は土器の他に土製品・石製品・木製品・鉄製品・自然遺物のほか、時代の異なる中世陶器などがある。



第9図 A地点グリッド図



第10図 A地点遺構全測図

## II A地点の遺構と遺物

### 1 A地点の調査範囲と結果

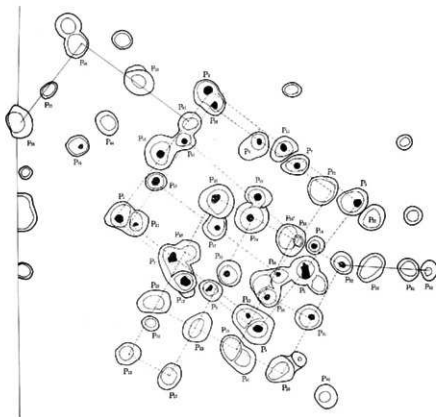
A地点の調査範囲は指定されている大グリットT-52~65、U-52~65の範囲内の東西65m、南北24mの1,560㎡であった。この内T-53、U-53の第4列以東には遺物の出土は皆無であり、また遺構が検出されたのは第9図に斜線で示した256㎡の範囲に止まった。遺構の一部はなおも開発区域外の西側に繋がっており、南側へも延びている事は疑いもない所である。第10図はここで検出された遺構の全てである。多数の大型の柱穴群と溝状遺構及び確証は無いが井戸遺構である。この内大型の柱穴群の幾つかは重複する掘立柱建物跡(高床式建物跡)であることが分かる。同図中にS Bの記号を付さなかったが、掘立柱建物跡(SB)・溝(SD)・井戸(SE)の記号を用いて示した。

### 2 遺 構

#### 掘立柱建物址(第11・12図 図版3~7)

遺構検出範囲の中央部に掘立柱建物跡が検出された。第10図に示した柱穴群から少なくとも3通りの建物が重複していることが分かり、これを第11図に示したが検討次第ではなおもその数を増す可能性もあり得る。しかしこの柱穴群は40数基からなり平面図上から関連する柱穴を選別する事はすこぶる困難な事であるが、幸いな事に初期の検出時点のものとその後の低いレベルでの検出のものとがあり、さらに相互の柱穴底部の高低差、残存する柱根の樹種やその形態、或いはその残存度などを加味して第12図に示した最低3基の建物を推定した。これらを指摘する前に第10図に示した柱穴群の高低差などを表2に示しておいた。なお柱穴番号は無意味なものである。

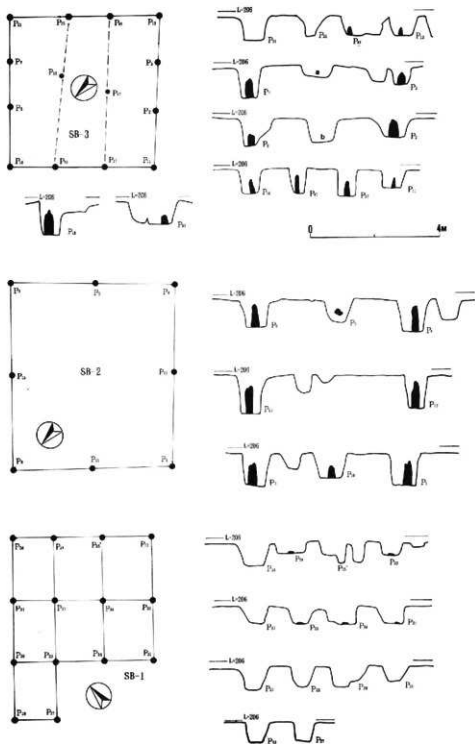
ところで3基の建物址は最も上層部で検出したものをSB1号とし下層のものをSB2号・SB3号としたが、この前



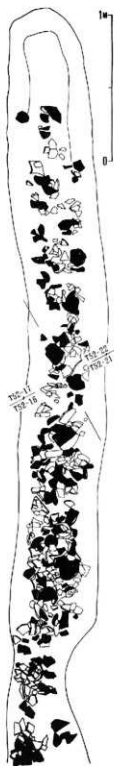
第11図 掘立柱建物推測図

後関係は極めて複雑もあるが柱穴の切合いなどからSB 2号がSB 3号に先行するものと考えられる。ここでは前後するようだが新しいものから記述する。

SB 1号は最も上層部で検出した柱穴群から選出したもので確実なところでは  $P_{1a}$ 、 $P_{1b}$ 、 $P_{1c}$ 、 $P_{1d}$  を隅柱とする2間×3間の総柱建物で  $400 \times 450\text{cm}$  を測る。 $P_{1a}$ 、 $P_{1b}$ も同レベルの検出であり、これに付随する南側の柱穴が検出出来ないが南側に張り出す可能性がある。これらの総柱のうち薄基で示した $P_{1a}$ 、 $P_{1b}$ 、 $P_{1c}$ 、 $P_{1d}$ の柱はその残痕で蝕化している。一方 $P_{1e}$ 、 $P_{1f}$ 、 $P_{1g}$ もそれぞれの柱穴の延長上に位置し検出レベルは低いが関連性は否定出来ない。なお柱根を残さない柱穴を主体としていることから $P_{1e}$ 及び $P_{1f}$ 、 $P_{1g}$ 間は重複するものと考えられる。従って前記の2間×3間が3間×3間、あるいは4間×3間の総柱建物になる可能性も占めている。2間×3間と仮定すると



第12図 掘立柱建物柱穴断面図



第13図 SD-1号内土器出土状況

梁間は東西向きでありその他と仮定するならば南北向きとなる。なお今後の検討に委ねたい。

SB2号はP<sub>1</sub>、P<sub>2</sub>を隅柱とする広い柱間の2間×2間で500×580cmの建物で、それぞれ良好な柱根を残している。しかしこれに付随する内部の柱穴を特定出来ない。柱根については遺物の項で記述するが、素材としては栗、チャンチン（俗称リウガウ又はリウガウガン）でそのほとんどはハツリによる面取りが施されている。

SB3号はSB2号に接して検出した。従ってSB3号は敢然なる建替建物である。P<sub>11</sub>、P<sub>12</sub>、P<sub>21</sub>、P<sub>22</sub>を隅柱とする2間×3間で450×460の建物である。床下の柱穴を特定出来ないが図示したものがその一部であろう。なお第12図の柱穴断面図に記したa・bはそれぞれP<sub>21</sub>、P<sub>22</sub>であるがこれらを掠めただけのものである。これらの多くは柱根を残しており、それらはSB2号同様で素材としては栗、チャンチンを用いている。かなり腐蝕が進み加工の手法が明らかなものは少ない。

以上3基の建物を示したが周辺をも含めて多数の柱穴がある。そしてこの中には柱根を残しているP<sub>11</sub>もある。

このP<sub>11</sub>に連結する柱穴を見い出せないが、唯一の杉を材質にしている事から補修或いは補強などの後補の可能性を指摘しておきたい。一方P<sub>10</sub>～P<sub>9</sub>～P<sub>8</sub>またはP<sub>10</sub>～P<sub>9</sub>～P<sub>8</sub>、P<sub>9</sub>～P<sub>8</sub>～P<sub>7</sub>が関連していることは言うまでもない。

#### その他の遺構

溝遺構 建物址群の近辺に3本の溝状遺構を検出しそれぞれ1～3号とした。

SD1号（第13・14図 図版2） 建物址群の北西側に接して位置しその一端はP<sub>9</sub>の西北2m地点から北西に向かって調査予定地外へと延びている。遺構は幅60cm、深さ20cm前後でその断面は浅いU字形を成し、検出出来た長さは5.2mである。図示した如く遺構内は須恵器と土師器の土器片で埋め尽くされており、さらにその上部にも多量の土器が散乱していた。恐らく排水用の暗渠的な性格を占めた溝であったと考えられる。

SD2号（第10図参照） 改めて図示していないが、建物址群の南側に位置しその一端はP<sub>9</sub>の南側から始まり南西に向かって調査予定地外へ延びている。幅1m深さ18cmから45cmと徐々に深くなる。検出出来た長さは2.8mである。建物址からやや離れているが建物の辺に平行であり、従って後述するSD3号に直角に対峙することから相互関連も考えられる。少量の土器が出土している。

SD3号（第10図参照） 建物址群の南西側に位置している。その一端はP<sub>9</sub>の西北西地点から北北西に向かって延び4mで消滅する。この方向は建物址に平行するものであり、最大幅1.6mで次第に細まり70cmとなる。深さは18～11cmと浅い。建物に係わる排水溝的のものであろう。少量の土器が出土した。

SE1号（第10図参照） 建物址群の西側に接して位置しその一部は調査用の排水溝と未掘地に掛り極一部分を確認したに過ぎない。従って内部の実測はおろか底部までの掘削に至っていない。掘削可能な深度は110cmであり、より深い柱穴もあるが推定の外周径は約120cmであることなどから井戸と推定した。内部施設などは検出されない素掘である。

### 3 遺物

遺物の出土状況は前述した如くごく限られた範囲に止まり、しかも建物址の北西側に集中した。この地点には前述したSD1号とした溝があり、この溝が土器片で埋め尽くされていたことと、さらにこの上部の覆土内に大量の土器が出土した。この一部分を第13・14図及び図版2に示した。なお同図中で黒塗りのものは須恵器、白抜きのは土師器である。一方柱穴群からも少量の土器が検出されているのでこれから報告したい。

表2 柱穴高低表（単位cm）

柱穴番号	地表標高	抗底標高	深 度	柱穴番号	地表標高	抗底標高	深 度
1	189	94	95	26	183	126	57
2	190	137	53	27	193	135	58
3	187.5	132	55.5	28	185.5	122	63.5
4	189	90.5	98.5	29	192	139	52
5	193	122.5	70.5	30	190	136.5	53.5
6	188	102.5	85.5	31	192.5	134	58.5
7	180	94.5	85.5	32	192	158	34
8	189	101	88	33	186	130	56
9	193	90	103	34	192	138	54
10	191	109	82	35	194	125.5	68.5
11	188	133	55	35	194	148.5	45.5
12	189	89.5	99.5	36	189	114	75
13	189.5	115	74.5	37	190	130.5	59.5
14	192.5	109	83.5	38	194	153	41
15	188	69.5	118.5	39	188	119.5	68.5
16	195	117	78	40	188	140	48
17	190	114	76	41	187	148.5	38.5
18	194	89.5	104.5	42	190	139	51
19	194	127	67	43	195	142	53
20	186	112	74	44	193	119	74
21	193	116.5	76.5	45	186	150	36
22	185	110.5	74.5	46	191	160	31
23	189	119.5	69.5	47	189	119	70
24	189	122	67	48	192	127	65
25	189	119	70	49	195	111	84



## A 遺構内出土の遺物

### P<sub>1</sub>号出土遺物 (1)

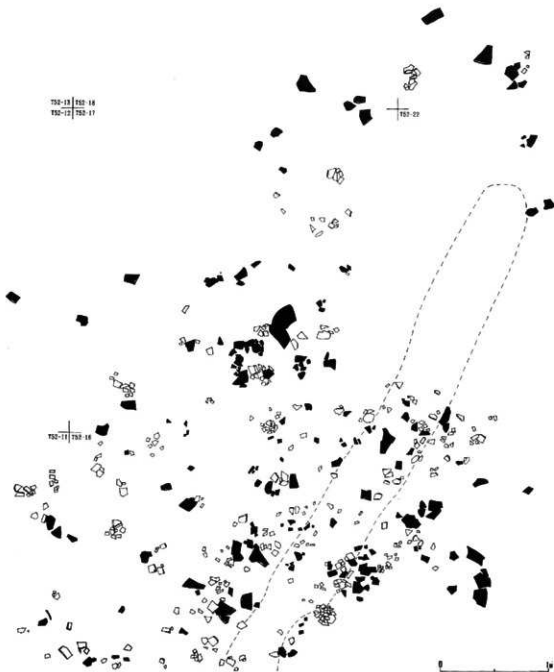
第1図は遺物の縮尺の関係で遺物の掲載Naが前後することを断って置く。P<sub>1</sub>号(柱穴番号以下同じ)出土遺物はNa 1(以下Naを省略する)の1点のみである。須恵器の甕胴部片である。比較的細かな器表の格子叩目文と器内の青海波文を見る。

### P<sub>1</sub>号出土遺物 (2~13)

須恵器では坏2・3類、甕は細分はできないがA類、土師器の甕も細分はできないがA類の胴長甕である。2の場は口縁部が強く押さえ付けられた3類である。13はスサ入り粘土の焼土塊でありその目的は不明であるので、ここでは一応土製品とした。

### P<sub>1</sub>号出土遺物 (14~17)

土師器では場2類と甕の細片で、前者は40cm近い口径を測る。須恵器は坏の細片である。



第14図 SD-1号上層部土器出土状況

#### P<sub>a</sub>号出土遺物 (18)

土師器碗A-1類1点のみの検出である。

#### P<sub>u</sub>号出土遺物 (19~20)

須恵器の坏、土師器の甕各1点が検出されたが、いずれも細片である。

#### P<sub>o</sub>号出土遺物 (21~29)

いずれも土師器で碗、甕A類、甕B類、埴3類などがある。21の埴以外は細片で全容は把握出来ない。

#### P<sub>h</sub>号出土遺物 (30~31)

須恵器の査蓋、坏2類である。査蓋は頂部の撮部分を欠き、肩部に癒着物をみる。全体として希少の器種である。坏はやや肉厚である。

#### P<sub>u</sub>号出土遺物 (32~35)

須恵器甕の細片4点が検出された。この内34は外周を細かく欠き取ったものでオハジキ(又はメンコ)などと呼ばれるものである。

#### SD1号出土遺物 (36~128)

図示出来たもので93点がある。器形の大小により第16~18図に分けて示し、それぞれの縮尺が異なる。須恵器では坏査、坏、碗、査、横瓶、甕があり、土師器には甕、碗、皿、土製品土鍾がある。

#### 須 恵 器

坏査 15点を図示した。分類形態では1類が多く、撮の頂部が高いものと低いものとがほぼ同数である。36は胎土に気泡を含み大きく歪みがある。46は肩部を持たない唯一の撫で肩を呈している。39は器内面を硯として転用している。

坏 23点を図示した。分類形態では2類が多い。製作的にはいわゆるヘラオコシによるものであるがログロ回転が左回りの多い中で唯一57の右回転によるものがある。

碗 A類、B類とも4点ずつを示す事が出来た。はからずもその細分の1・2類が同数である。碗類には表示した如く高温焼成のものが多く自然軸を見るものが多い。

査 縮尺の関係で第17図に示した。88、89の2点で共にB類の短頸査である。前者はやや長めの葉査形を呈している。後者は刷毛目文を持つ長形の器であることから欠失している底部は平底のものであろう。

甕 縮尺の関係で第17図と第18図に分けて13点を図示したが多くは細片である。この内90~92、123~125の口縁部は小型のA類に所属することが分かり、さらに126~128の胴部や底部もA類である。大型のB類は120~122があり、94の底部も分類していないがB類であろう。125は底部に歪みと剥離を見るがほぼ全形を知ることが出来る。

横瓶 5点を図示した。この内94はかろうじて全形を知ることが出来るがその他は側の閉口部と口縁部の細片である。94は焼き歪みも大きい横瓶としては器高が高い形態を呈している。また腰部に焼台の陶片が癒着している。

#### 土 製 品

土鍾 スペースの都合から土製品が最初になった土鍾である。両端部をわずかに欠くが6cmに満たない小型のものである。

#### 土 師 器

第16図と第17図に分けて図示したがそれぞれ縮尺が異なる。

碗・皿 それぞれ1点ずつの検出である。碗は大きく開口する浅形でA-2類であり、かなり磨耗している。皿は深さ2cmと浅く口径20cmを超える大きなものであり或いは盤と呼称すべきかも知れないものである。

甕 細片で無分類としたものも多いがA類が4点で大勢を占め、B類は1点に止まった。全体に磨耗の進んでいるものが多い。

#### SD2号出土遺物 (129~146)

須恵器では坏査、坏、甕がある。坏査には16cm余の大型のものが見られる。甕は細片1点のみである。土師器は甕の細片のみで138が唯一A-1類に分類出来るに止まった。

#### SD3号出土遺物 (147~148)

土師器甕B-2類と須恵器坏3類の出土である。いずれもスガが付着し前者は口縁部で煮沸用具として使用したものであり、後者は器内に見られ灯明皿に転用されたものである。

## B 遺構外出土遺物

### 須恵器 (149~266)

#### 壺類

A類 1~3と分類した。A-1類 A-2類 A-3類ともそれぞれ1点ずつの検出である。A-1類は159で口縁部から肩部に至る細片である。A-2類は157、A-3類には156でいづれも口縁部の細片である。

B類はスペースの都合から前後したが149がある。器高85cm、最大径80cm弱の大型でほぼ完形のものである。

C類 158が唯一のものである。口縁部に45cmの最大径をもつ鉢状の壺である。

無分類 170~173、160~165 はそれぞれ甕胴部片であるが、A類 B類の区別は出来ない。器面には平行線状叩目文、格子状叩目文、器内面には青海波文、同心円文などの当具痕をのこしている。また169~171もこの部類である。

#### 壺蓋

173~176は遺構外出土としては唯一の壺蓋である。壺 B類の短頸壺に使用される事が多い。頂部の撮を欠き絵にならない細片であるが、自然軸の浮き出た良い器である。

#### 壺類

173~189はA類で長頸壺あるいは長頸瓶と呼ばれるものでその口縁部と頸部の残片である。この他 172に高台をもつ底部がある。

#### 坏蓋

177~189があるが、図版14に示した如く細片が主である。ここでは口径が割り出せるものを図示した。このうち177は口径158mmと大形である。また表示したように1類6点、2類5点、3類1点である。

#### 坏

墨書のある細片をも含めて190~247までの51点を図示した。1類13点、2類19点、3類19点、無分類1点である。改めて指摘するまでもない事だが204は胴部に太い筋線が巡らされている。214は口縁部内側に炭化物が付着しており灯明皿に転用された事が伺える。成型手法としては全てヘラオコシと呼ぶ筈によってロクロ切り離しが行われている。この内13点に墨書が見られる。墨書に関しては後述したい。

#### 碗類

A類 大型の碗で242~247の6点を図示した。細分では1類・2類共3点づつである。

B類 小型の碗で248~261の14点を示した1類が8点、2類が6点である。その他の形態的には249の内湾する器壁を持つ者、257の口径114mmに対して器高44mmと器高の低いもの、260の胴部に2条の筋線文が巡らされているものなどがある。なお底部高台内に墨書が見られるものが3点ある。墨書に関しては坏と同様に後述したい。

#### その他

262はコップ形容器である。上部を欠き全容を知り得ない事から適格な判断が出来ないが花瓶であろうか。これに類似する形態の器に「今池遺跡」の小型長首頸瓶 [1984; 坂井ほか] を見ることが出来る。底径38mm残存高100mm残存上口72mmで底部に静止糸切痕を見る特異なものである。263~266はオハジキである。壺の破片を二次的に欠いて丸くしたもので、最大径26~28mmである。時にはメンコなどと呼称することもあり遊具と考えられているものである。

#### 土師器 (267~354)

#### 蓋

267は唯一の蓋である。やや肉厚で深みのあるもので、ポツリした撮を頂部にもち、須恵器の坏蓋と同形態のものである。土師器では通常見られないものであり、須恵器写しと考えられよう。焼成が悪く磨耗が進んでいる。

#### 坏

268~270の3点を坏とした。完形のものには1点に過ぎないが底部が口径に対して大きい事から碗A 2類とわけた。いわゆる須恵器写しの器である。

#### 碗類

A 1類 大型のもので283~286の4点がある。やや浅めのものに対し286の深めの器形もある。284のスリップ（化粧土）の施されたもの、285、286の磨きの施されたものなどがある。

A 2類 一連の小型のもので271～277がある。1類と同様にスリップや磨きの技法にその特色を見る。

無分類 278～282は口縁部を欠き大小を区分出来ないので無分類とした。

#### 壺類

分類と挿図の割付けにバランスを欠き、相前後するが下記の如くである。また全容を知ることの出来るものはなく表示した如く全て細片である。

A 1類 321、329で口縁部或いは胴部に至るもので口唇部をやや押さえたかに見える。

A 2類 322～325 327がある。322は口唇部を強く押さえたものであり、323、324は口唇部を強くつまみ上げている。327は内側へ折り返している。

A 4類 288、292～294、326、328がある。この内口唇部を強く押さえたもの288、326、328内側へ折り返したものの292～294がある。

A 5類 295、296がそれである。

A 6類 301～306でいずれも口唇部を内側へ折り返したものである。

A X類 330、331の底部を無分類とした。

B 1類 287はやや口唇部に手を加えられた様子も伺えるが一応1類とした。

B 2類 289～291、297～300の殆どが口縁部の細片であるが B類にする事ができる。290、291の口唇部を強くつまみ上げているもの他はいずれも口唇部を強く押さえたものである。

B X類 307～320が B類の腰部と底部であり無分類とした。

#### 埴類

1類 337、339、340がある。口唇部を緩く押さえたものである。

2類 333、334～336、338、342～346がそれでつまみ上げた口唇部を持つ。

3類 332、341で口唇部を強く押さえられたものである。

X類 その他347～353は腰部と底部であり無分類とした。

#### 鉢

354は浅鉢である。口縁部を深く内側へ折り返した形態を呈し、スリップの手法を見る。

#### その他

土製品 (355～370)

355～361は土管である。この内 355は筒状工具によって半截されたいわゆる半截土管であり、用途としては連結される暗渠土管等の始点に使用されるものであろう。その他は円筒であり、この内36は受口部分に当たり、その他は挿入口にあたるものである。いずれも輪積痕を残す。

362～370は土鍾である。言うまでもないが魚網の鍾であり、最大径1～1.5cmの小型品である。

木製品 (371～377)

371～377はヒダである。松明の小型のもので室内での灯明具である。老松の芯や枝を細かく割って両端を尖らせたものである。油以前の燃料であり近現代まで一部で使用された。未使用のもの4点と使用痕のあるもの3点を図示したが多量の出土である。

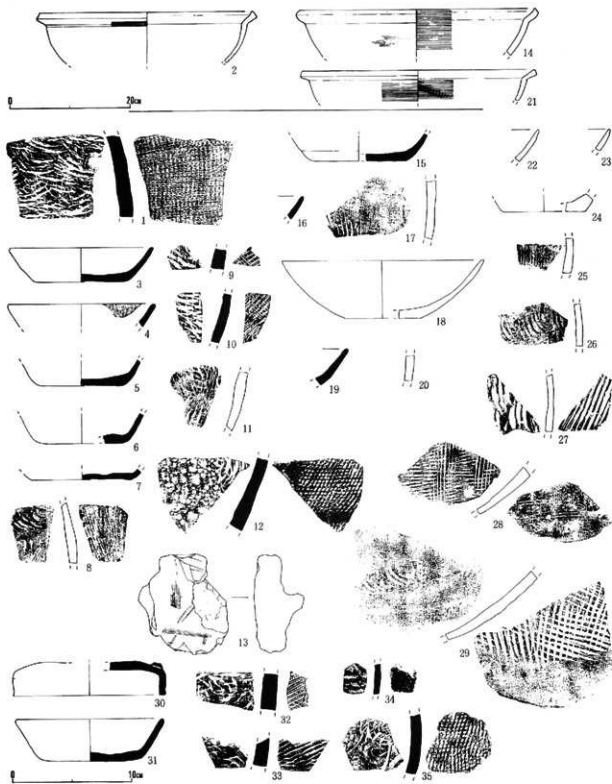
石製品 (378～380)

378～379は時代を異にする原始時代の石片でいわゆるフレークであろう。380は軽石の自然石である。

#### C 柱根と墨書土器

381～401は建物址出土の柱の残根である。それぞれの出土関係は表示した如く柱穴1～18、47～49までである。材質及び数量はチャンチン13、栗6、杉1、不明雑木1である。面取りのものが9点あり、10～12面を見る。その他383は半截の割りものであり、400の雑木は残存率が少ないが樹皮を残す丸物を使用され、394の杉材のものには片面に切り込みがある。

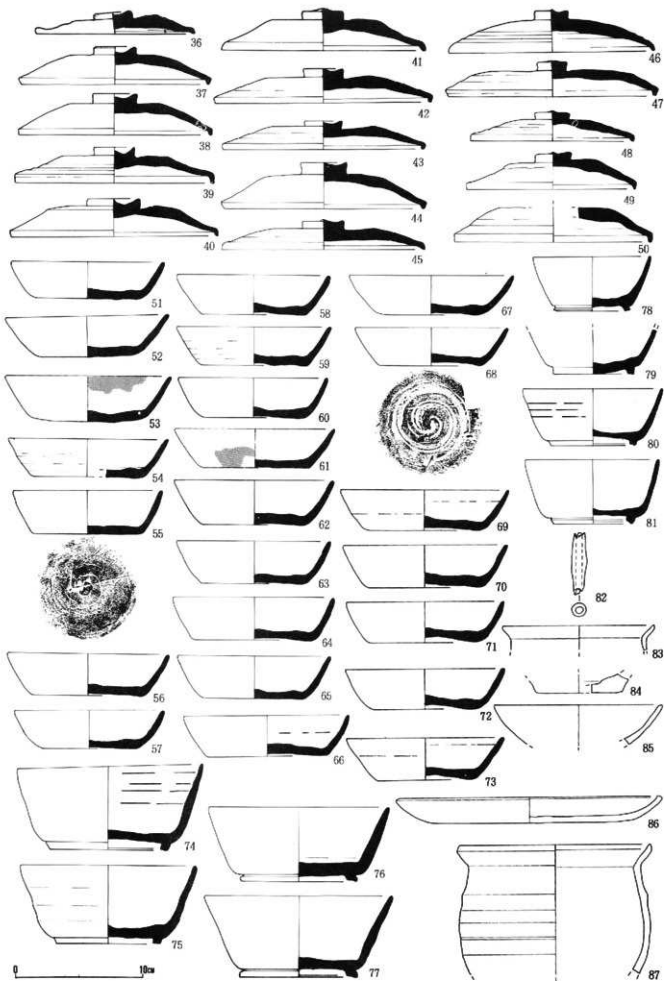
これまでに報告した土器（須恵器）の内に墨書土器と呼ばれる器面に墨書がなされたものがある。それらを重複するが第26図にまとめた。ここに示した1以外は前記したものである。墨書は文字と記号の2種類があり、器種は坏と碗の食器に限られ12、15、17が碗である。また記された位置は坏、碗共に底部外面である。これらの文字のうち確実な読みを示せないが2は「教」、3は「桜井」であろうか。4～6は「川」、7～9は「小」であろうか。16、17は部分であるが15と共に記号であろう。その他のものは不明である。



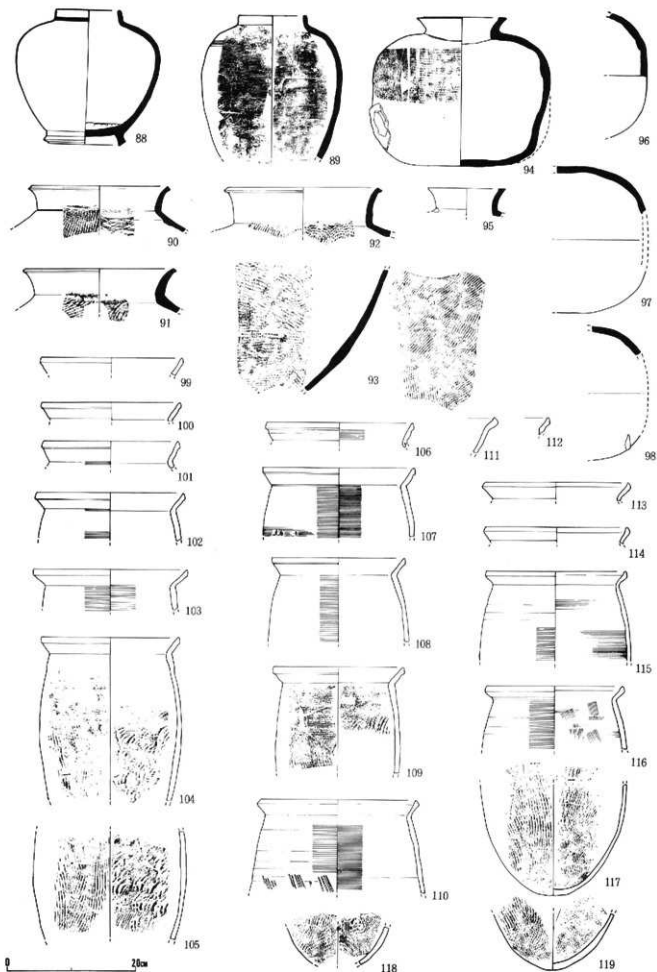
第15図 柱穴出土の土器

(1=P1. 2~13=P2. 14~17=P3. 18-P8. 19・20=P16.

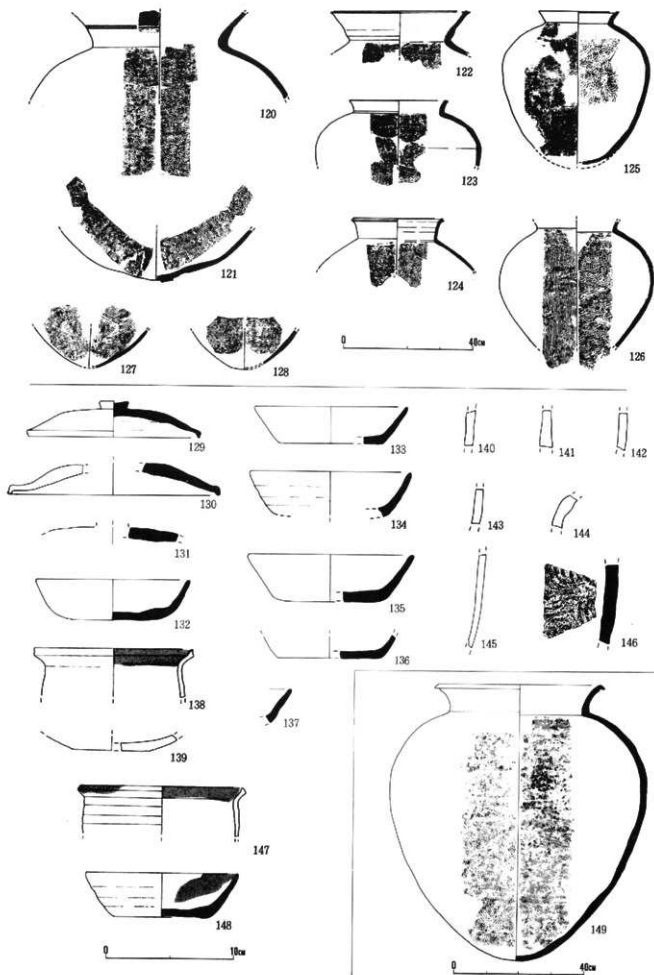
21~29=P20. 30・31=P22. 32~35=P26)



第16图 SD-1号出土土器 I



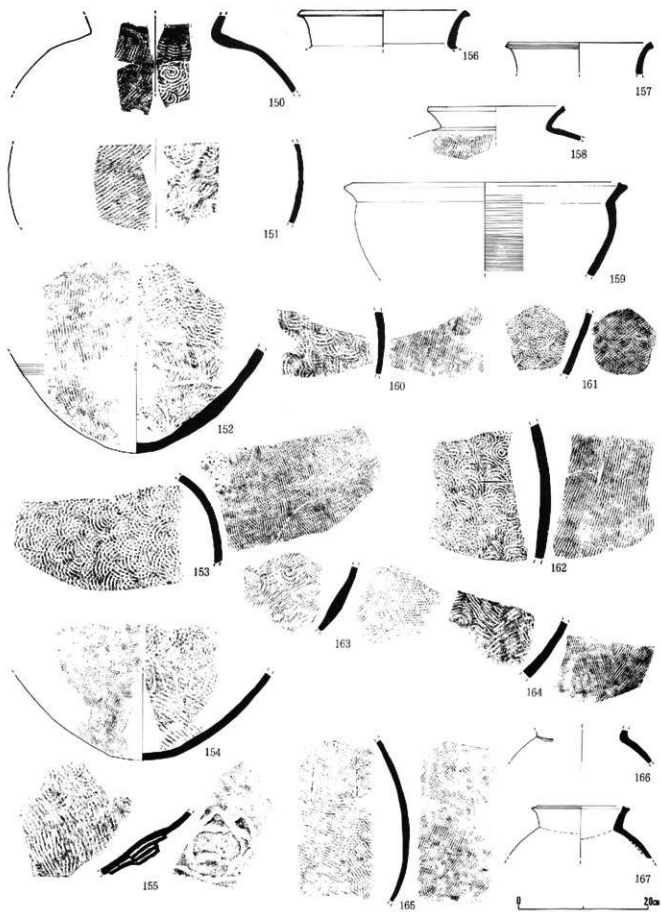
第17图 SD-1号出土土器 II



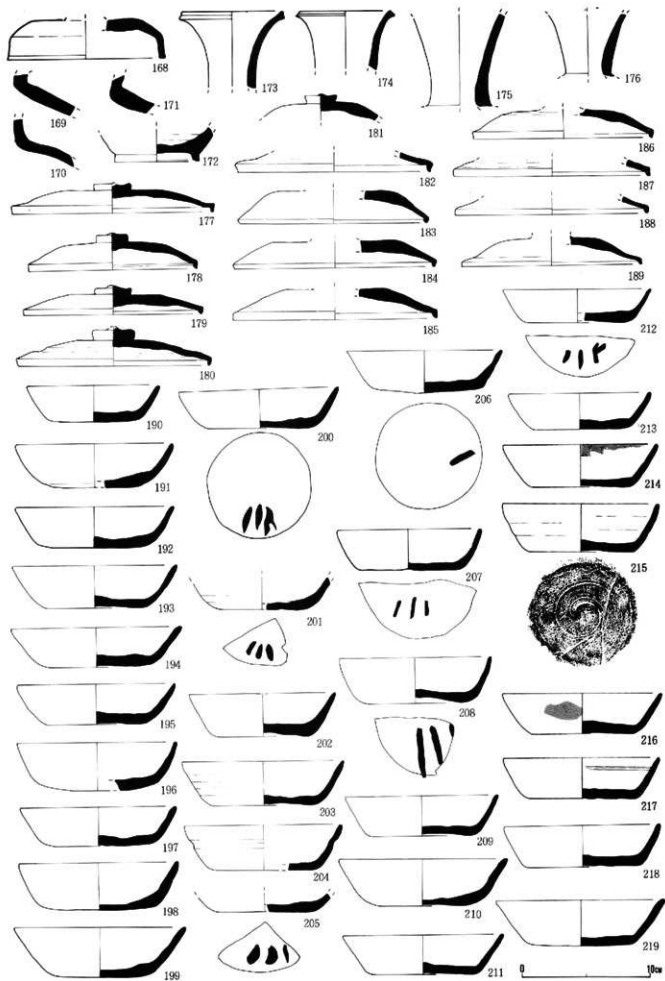
第 18 図 SD-1号・SD-2号・その他の出土土器

(120～128=SD-1, 129～146=SD-2, 147～=グリット)

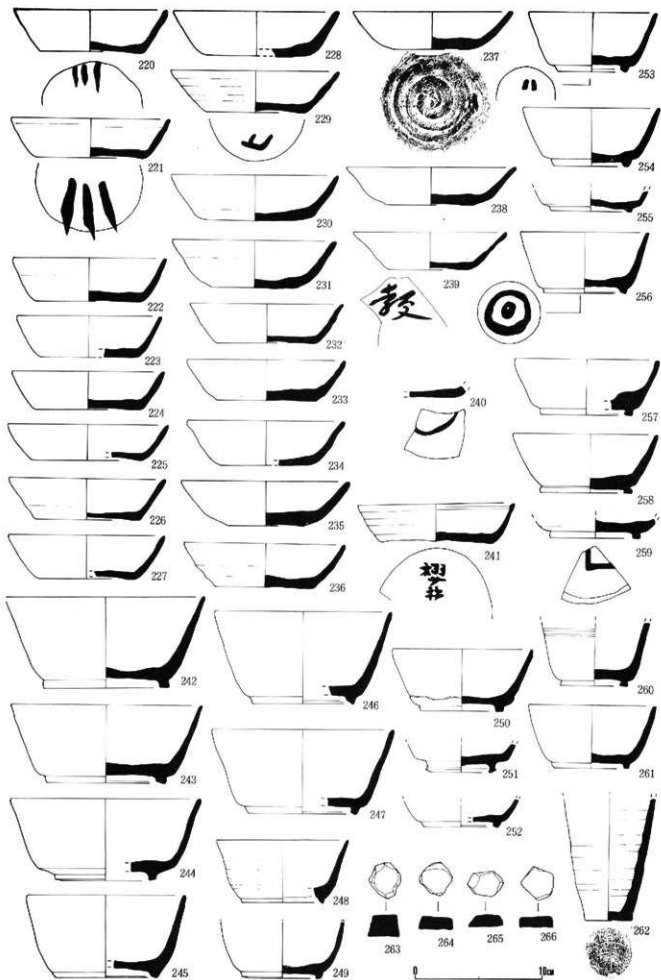




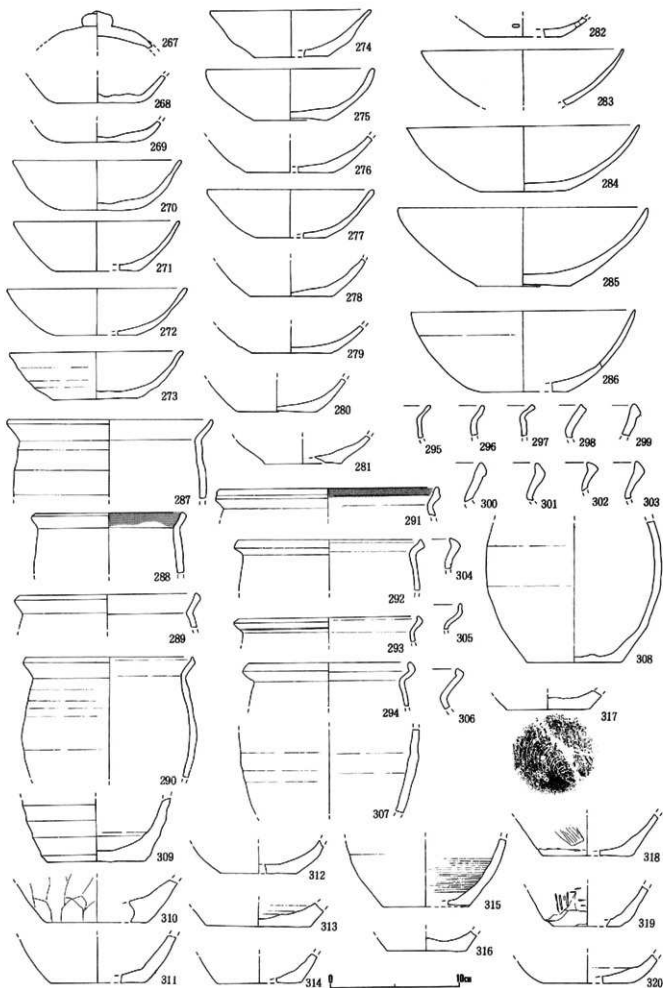
第19図 その他の出土土器 II



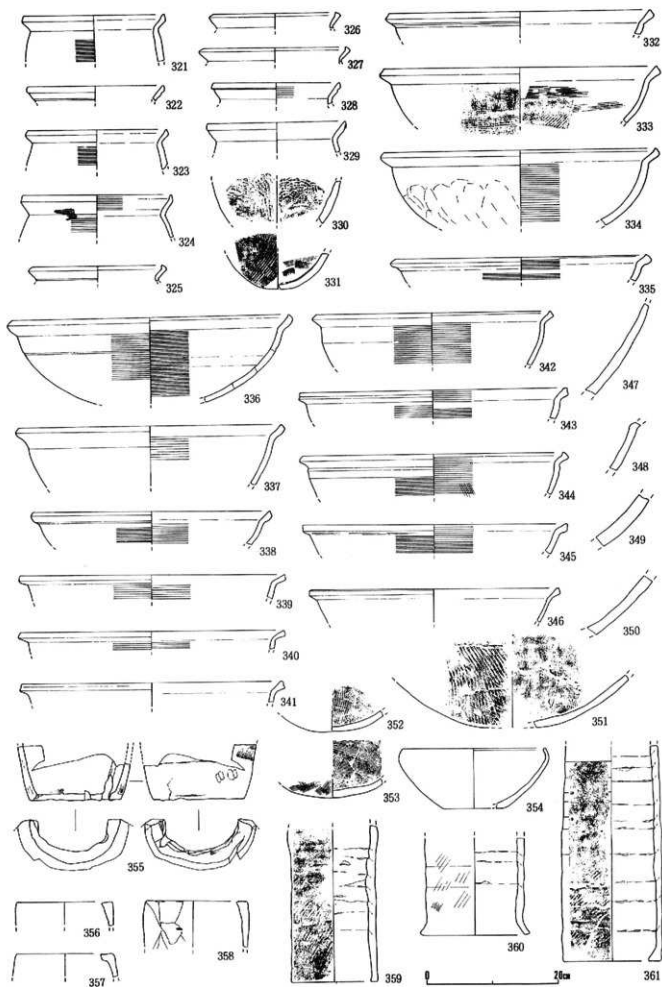
第20図 その他の出土土器 III



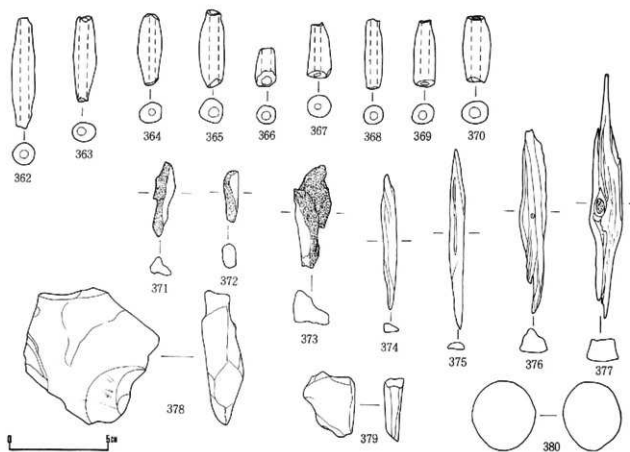
第 21 図 その他の出土土器 IV



第22図 その他の出土土器 V



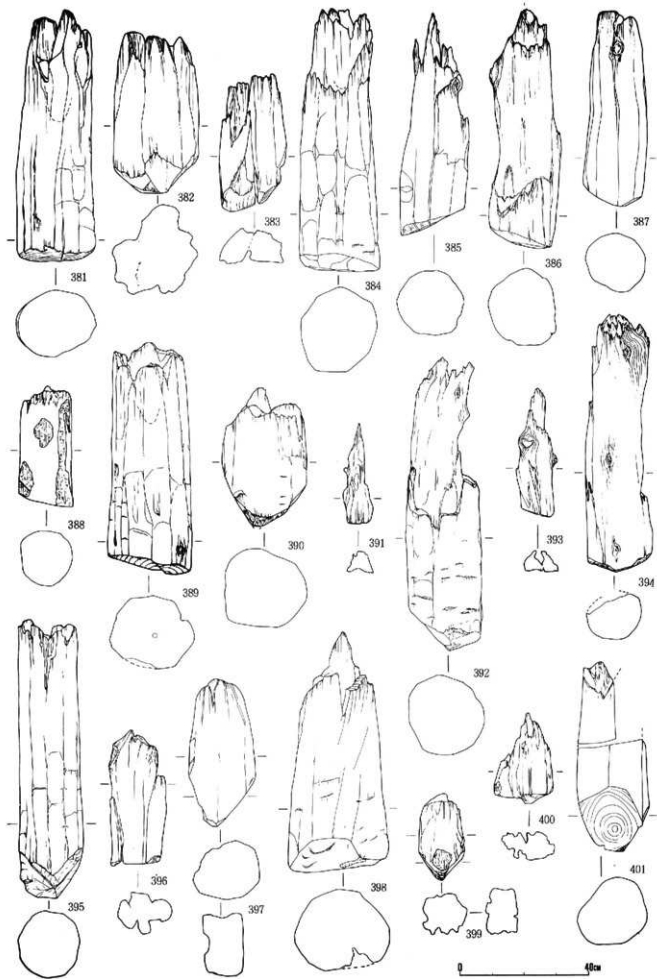
第23圖 その他の山土土器 VI・土製品



第24図 その他の出土遺物  
 (362~370=土垂、371~377=ヒデ、 378~380=石製品)



第25図 墨書



第26圖 柱 殘 根

D 遺物一覧表

図示した遺物を割付順に一覧表に示し、個々の遺物に付いて押印番号、割付番号(通し番号)、出土位置、種別、器種及び分類記号、計測、成型、胎土、色彩などを示した。計測では器高・口径・底径・最大径を記し、残存円周率ではある部分に就いての残存度を12分法で示した。胎土では粘土に混合された砂粒を示し、この中で「石」は石英、「長」は長石、「雲」は雲母であり、それぞれ比率の多い順に記した。なお「微」は微粒、「粗」は粗粒、「荒」は荒粒である。焼成ではその度合を良・中・不の3段階に分けた。成型ではその造りや調整などの主とする事を記し、またハケメは刷毛による条痕、ナデは撫で、水挽はロクロによる水挽である。

表3 A地点掲載遺物一覧表(単位mm)

押印 No	遺物 No	出土位置	種別	器種	計 測			残存率 12分法	手 法	胎 土	焼 成	色		備 考
					器高	口径	底径					最大径	表	
15	1	356 柱穴1	須恵器	カメ					格子印目文・青海波文	長微	良	灰	灰	内割離あり
	2	317 柱穴2	土師器	ナベ3類		360		1	水 挽	長・雲散	不	黄土	黄土	磨耗
	3	80	須恵器	坏3類	29	120	78	4	"	長粗	良	灰	灰	
	4	355	"	"			124	1	"	長・石粗	"	"	"	
	5	145	"	"	"	2期		70	3	"	長微	中	"	
	6	146	"	"	"	2期		72	2	"	"	"	"	
	7	144	"	"	"			80	4	"	"	"	"	
	8	319	土師器	カメAX類					ハケメ・青海波文	長・石・雲散	良	黄白	黄白	
	9	354	須恵器	"					格子印目文	長・石微	"	灰・緑	灰	
	10	363	"	"					"	"	"	"	"	
	11	318	土師器	"					平行印目文・ハケメ	"	不	灰白	黄白	
	12	352	須恵器	"					格子印目文・青海波文	"	良	灰	青灰	自然釉
	13	380	土師器	焼土塊					"	"	"	"	"	スッ入り
	14	320 柱穴4	土師器	ナベ2類		396			ハケメ・ハケメ	長微	良	灰白	黄白	
	15	147	須恵器	坏3類			80	3	水 挽	"	"	灰	灰	
	16	357	"	"					"	"	"	"	"	
	17	321	土師器	カメ					ハケメ・青海波文	長・石・雲散	中	"	黄白	
	18	318 柱穴8	"	胸A-1類	49	170	63	4	水 挽	長微	良	不	薄青	緑色
	19	358 柱穴16	須恵器	杯					"	長・石微	良	暗灰	暗灰	
	20	367	土師器	カメ					"	長・石・雲散	不	黄白	黄白	
	21	322 柱穴20	"	ナベ3類		390			ハケメ・ハケメ	長・石微	良	"	"	
	22	327	"	碗					"	長・石・雲散	不	茶	茶	
	23	328	"	"					"	長・石・雲散	不	黄土	黄土	
	24	330	"	カメBX類			70		"	長・石微	良	赤黄	黄白	
	25	329	"	"					ハケメ	雲・長・石微・中	中	黄土	黒	
	26	324	"	カメAX類					ハケメ・青海波文	長微	良	灰	黄白	
	27	325	土師器	カメAX類					平行印目文・青海波文	石・雲散	良	灰白	灰白	
	28	323	"	ナベX類					ハケメ・ハケメ	長・雲散	"	黒	黄白	スス
	29	326	"	ナベX類					格子印目文・ハケメ・青海波文	"	中	"	"	
	30	126 柱穴22	須恵器	壺 壺		126		1	水挽・ヘラ調整	長・石微	良	灰	緑	自然釉
	31	77	"	坏2類	37	125	85	9	水挽・右ロクロ	長粗	中	灰白	灰白	
	32	363 柱穴26	カメ	"					平行印目文・青海波文	長微	良	灰緑	灰	自然釉
	33	365	"	"					"	"	"	灰	"	
	34	366	"	メンコ					"	"	"	薄青	黄灰	
	35	364	"	カメ					格子印目文	"	"	暗灰	暗灰	
16	36	140 SD 1	"	坏産3類	18	126		5	水挽・ヘラ調整	"	"	灰	灰	歪み、気泡
	37	141	"	坏産2類	30	147		3	"	"	"	中	"	歪み
	38	138	"	坏産1類	33	150			"	長・石微	良	暗灰	暗灰	
	39	131	"	坏産1類	29	154		10	"	長粗	"	灰	灰	転用痕
	40	130	"	坏産1類	30	160		12	"	長・砂微	"	灰白	灰白	歪み
	41	139	"	坏産3類	33	160		4	"ナデ	長微	"	灰	灰	
	42	133	"	坏産1類	27	170		7	"	長粗	"	"	"	
	43	129	"	坏産1類	23	156		12	"	砂微	"	暗灰	暗灰	歪み
	44	142	"	坏産2類	36	157		12	"ナデ	長微	"	灰	灰	
	45	143	"	坏産3類	29	160		11	"	長・石粗	中	"	"	
	46	132	"	坏産4類	32	160		10	"	長粗	良	暗灰	"	



探 測 No	遺 物 No	出土位置	種別	器種	計 測				残存率 12分法	手 法	胎 土	燒 成	色		備 考	
					器高	口径	底径	最大径					表	内		
16	47	128	SD 1	須恵器	坏重 2 類	28	160		8	水洗・ヘア調整	長粗	中	灰	灰		
	48	136	"	"	坏重 2 類	24	128		11	" " 強土	長微	良	灰白	灰白		
	49	137	"	"	坏重 2 類	29	131		11	" " "	"	"	灰	灰	器蓋しもふり	
	50	134	"	"	坏重 1 類		154		5	" " "	"	"	"	"	"	
	51	54	"	"	坏 2 類	29	120	80	6	" ナデ	長・石微・薄	中	灰白	灰白		
	52	61	"	"	坏 3 類	32	128	78	3	" ナデ	長粗	良	灰	灰		
	53	75	"	"	坏 1 類	35	130	90	10	水洗・ナデ	長粗	"	"	"	内炭化物付着	
	54	55	"	"	坏 3 類	30	126	84	4	"	長微	中	灰白	灰白		
	55	63	"	"	坏 2 類	34	118	84	1	"	長微	良	暗灰	灰		
	56	56	"	"	坏 2 類	33	126	85	6	" ナデ	"	"	灰	"		
	57	57	"	"	坏 2 類	30	118	78	4	" 右ロクロ	"	中	"	"		
	58	59	"	"	坏 2 類	31	120	82	12	" 左ロクロ	長粗	良	黒灰	暗灰		
	59	70	"	"	坏 3 類	30	122	84	5	"	長微	"	灰	"		
	60	67	"	"	坏 1 類	31	118	80	1	" 左ロクロ	"	中	"	灰		
	61	64	"	"	坏 3 類	30	125	84	10	"	長粗	良	"	"	炭化物付着	
	62	73	"	"	坏 2 類	35	126	80	5	"	"	不	赤灰	"		
	63	72	"	"	坏 2 類	33	120	80	5	" ナデ	長微	良	暗灰	暗灰		
	64	53	"	"	坏 2 類	33	127	90	8	" "	長・石粗	中	灰白	灰白	火たつき	
	65	68	"	"	坏 2 類	34	120	80	1	" "	長微	良	暗灰	灰		
	66	52	"	"	坏 2 類	33	123	75	2	" 左ロクロ	"	不	"	"		
	67	51	"	"	坏 3 類	31	128	82	7	" "	"	"	"	暗灰赤		
	68	62	"	"	坏 3 類	30	120	80	10	"	長粗	良	"	暗灰		
	69	69	"	"	坏 2 類	32	130	86	7	" ナデ	石・長微	中	體々	薄茶		
	70	58	"	"	坏 2 類	33	126	86	5	" 左ロクロ	長・石微	良	灰白	灰白		
	71	65	"	"	坏 2 類	32	122	86	6	" "	"	不	薄茶	薄茶		
	72	71	"	"	坏 2 類	32	123	78	7	" "	長微	良	灰白	灰白		
	73	66	"	"	坏 3 類	33	120	80	5	" ナデ	"	"	暗灰	暗灰		
	74	107	"	"	碗A-2類	62	145	92	9	"	長粗	"	黄茶	灰	自然物	
	75	106	"	"	碗A-2類	63	140	80	9	"	長微	"	灰	灰	"	
	76	105	"	"	碗A-1類	60	142	90	3	"	"	中	"	"		
	77	108	"	"	碗A-1類	65	148	93	8	"	長粗	"	"	"		
	78	103	"	"	碗B-1類	43	92	60	12	"	長微	不	灰白	灰白		
	79	101	"	"	碗B-2類		63		12	水洗	長・石微	中	灰	灰		
	80	102	"	"	碗B-2類	45	110	66	10	" 右ロクロ	長微	良	黒	暗灰	自然物	
	81	104	"	"	碗B-1類	50	104	60	6	"	"	"	灰	灰		
	82	332	"	土師器	土 鉢				12	手ひねり	"	"	灰白	"		
	83	311	"	"	カメA-4類		118		1	"	石・長・雲微	不	黄土	黄土		
	84	291	"	"	カメB類			62	4	回転糸切	石・雲微	"	黄白	黄白	平底	
	85	208	"	"	碗A-2類		130		2	"	石微	"	"	"	磨耗	
	86	221	"	"	皿	20	205	158	10	水洗・ヨコナデ	長・砂微	中	赤茶	黄土		
	87	237	"	"	カメB-1類		148		6	" ハケメ	石・砂微	良	明茶	明茶		
17	88	151	"	須恵器	壺 B類	212	100	110	224	7	" ヨコナデ	長・雲微	"	黄茶	灰	
	89	157	"	"	壺 B類		106		222	8	ハケメ刷毛取・ハケメ	"	"	灰	"	
	90	161	"	"	カメA-1類		222		8	平行線目文・同心円文	長微	"	黒	暗灰		
	91	162	"	"	カメA-3類		230		2	" "	長・砂粗	"	"	"	器蓋剝離	
	92	160	"	"	カメA-3類		250		6	" "	長微	"	緑・茶	灰	自然物	
	93	182	"	"	"				2	" 青海波文	"	"	灰	灰白		
	94	190	"	"	繪瓶	235	140		275	4	" ハケメ	"	"	黄茶	灰	焼台付着跡み
	95	193	"	"	"		120		4	水洗	長粗	"	黒灰	黒灰	剝離	
	96	194	"	"	"				"	" ハケメ	"	"	黒地	灰		
	97	191	"	"	"				3	平行線目文・ハケメ・雲 カゴ目・同心文・ハケメ	"	"	"	"		
	98	195	"	"	"				"	"	"	"	黒	"		
	99	245	"	土師器	カメA-1類		220		1	水洗	長・雲・砂微	中	黄白	黄白	磨耗	
	100	248	"	"	カメA-2類		216		1	" ハケメ	長・石・雲微	"	"	"		
	101	244	"	"	カメA-2類		209		1	" "	長・石微	良	體々	"		
	102	241	"	"	カメA-2類		226		1	" "	長・石・雲微・薄	"	黄白	"		
	103	230	"	"	カメA-1類		236		2	" ハケメ	長・石・雲粗	"	明茶	明茶		
	104	226	"	"	カメA-1類		215		225	5	ハケメ刷毛取・輪紋	長粗・薄	"	黄土	黄土	

海 關 No.	No.	遺物 No.	出土位置	種別	器種	計 測				残存率 12分法	手 法	胎 土	燒 成	色		備 考	
						器高	口径	底径	最大径					表	内		
17	105	235	SD 1	土師器	カメA-X類					3	平行印目文・ハケメ	長・石・雲粗	中	灰・土	茶		
	106	255	"	"	カメA-2類		226			4	水洗・ハケメ	"	不	黄土	黄土	磨耗	
	107	229	"	"	カメA-2類		240			1	ハケメ	"	良	"	"	"	
	108	228	"	"	カメA-1類		210		222	6	" 水洗	"	中	"	"	"	
	109	227	"	"	カメA-1類		205			3	" 平行印目文	"	良	"	"	"	
	110	232	"	"	カメA-2類		255			3	" 青海波文	長・雲粗	中	"	"	磨耗	
	111	280	"	"	ナベ 2 類					1	"	長・雲・砂散	良	"	"	"	
	112	281	"	"	ナベ 1 類					2	ハケメ	"	中	黄白	黄白	"	
	113	247	"	"	カメA-2類		220			1	水洗	長散	"	白色	"	磨耗	
	114	254	"	"	カメA-2類		218			1	" ナデ	長・石・雲粗	不	黄土	"	"	
	115	233	"	"	カメA-2類		215			3	ハケメ・ハケメ	長・石散	中	"	"	"	
	116	231	"	"	カメA-2類		212			3	"	長・石・雲散	"	"	黄土	"	
	117	234	"	"	カメA-X類				240	4	平行印目文・青海波文	長・石・雲粗	良	黄白	黄白	磨耗	
	118	288	"	"	カメA-X類					1	平行印目文・ハケメ・黒点文	石・長粗	"	"	茶	"	
	119	287	"	"	カメA-X類					1	"	"	"	"	"	薄茶	
18	120	180	"	須臾器	カメB類				820		縁線散・平行印目文・黒点文	長散	"	灰	暗灰		
	121	181	"	"	カメB類					2	ナデ・縁線散・黒点文・平行印目文	長粗	"	"	"	轆台付着	
	122	166	"	"	カメB類		430			2	平行印目文・赤子目目文	長散	"	黒	灰		
	123	169	"	"	カメA類				506		" 同心円・ハケメ	長・石・雲	"	暗灰	灰茶	自然釉	
	124	158	"	"	カメA-2類		273			5	"	長・石散	"	黄茶	暗灰	"	
	125	159	"	"	カメA-1類	(480)	246	451		6	"	長・雲散	"	青灰	"	歪み	
	126	168	"	"	カメB類				470		"	長粗	"	灰	暗灰		
	127	184	"	"	"					2	格子印目文	長散	"	"	灰	自然釉	
	128	183	"	"	"					2	"	長粗	"	灰	灰白	歪み	
	129	124	SD 2	"	坏蓋 2 類	38	132			9	水洗・ヘラ調整	"	"	灰	灰	自然釉	
	130	125	"	"	坏蓋 3 類		165			8	"	"	"	"	暗灰	暗灰	歪み
	131	359	"	"	坏蓋						水洗	長粗	"	灰	灰		
	132	78	"	"	坏 1 類	32	120	73		7	"	"	中	"	"	"	
	133	127	"	"	坏 3 類		120	80		3	"	長粗	良	暗灰	暗灰		
	134	360	"	"	坏 1 類		126				"	長・石散	"	灰・黒	灰	自然釉	
	135	76	"	"	坏 3 類	37	130	86		5	" ナデ	長散	"	灰	灰		
	136	148	"	"	坏 2 類			81			"	"	"	"	"	"	
	137	361	"	"	"						"	長・石粗	"	灰白	灰白		
	138	369	"	土師器	カメA-4類		103				"	長・石・雲散	"	黒茶	黄土	炭化物	
	139	368	"	"	坏			58			ミガキ・ミガキ	"	不	灰白	灰白		
	140	374	"	"	カメ						ハケメ	"	良	黄白	黄白		
	141	371	"	"	"						"	散砂粒	"	"	"	"	
	142	372	"	"	"						" ハケメ	長・石散	"	"	"	"	
	143	373	"	"	"						"	"	"	"	"	"	
	144	370	"	"	"						"	"	"	"	"	"	
	145	375	"	"	"						平行印目文・青海波文	"	中	"	"		
	146	362	"	須臾器	"						"	長・石・雲粗	良	黒	灰		
	147	307	SD 3	土師器	カメB-2類		136			1	水洗・ナデ	長粗	不	"	黄土		
	148	79	"	須臾器	坏 3 類	35	118	74		7	"	良	暗灰	暗灰			
	149	379	T52-12	"	カメB類	850	500	796		7	平行印目文・同心円文	長石散	"	"	"	"	
19	150	170	T52-3	"	"				450		" ハケメ	長散	"	黒灰	"		
	151	171	T52-19	"	"				460		"	長粗	"	"	灰		
	152	185	U53-1	"	"					2	" 青海波文	長散	中	灰白	灰白		
	153	172	U53-16	"	"						"	長粗	良	灰茶	灰	自然釉	
	154	189	T52-21	"	"						" 同心円	長・雲散	"	灰	"		
	155	173	T52-19	"	"						"	"	"	"	"	轆台付着同一	
	156	163	T52-16	"	カメA-3類		256			4	水洗	"	"	"	"	自然釉	
	157	165	U53-6	"	カメA-2類		220			1.5	水洗	長粗	"	黒灰	灰		
	158	164	T52-12	"	カメA-1類		210			3	平行印目文・ハケメ・ナデ	長粗	中	灰	"		
	159	167	T52-16	"	カメC類		450				水洗・ハケメ	長・砂質	中	"	"	"	
	160	176	T52-21	"	"						平行印目文・青海波文	長散	良	"	"		
	161	175	U53-16	"	"						格子印目文	"	"	灰白	"		
	162	177	U52-16	"	"						平行印目文・同心円文	"	"	黒灰	"		

掛図 No.	遺物 No.	出土位置	種別	器種	計 測				残存率 12分法	手 法	胎 土	焼 成	色		備 考	
					器高	口径	底径	最大径					表	内		
19	163	178	U52-1	須恵系	カノ					斜切・板取・折切	長・砂粒粗	良	暗灰	暗灰		
	164	174	U52-16	"	"					平行切目文・同心切文	長粗	"	灰	灰		
	165	179	"	"	"					斜切板取・折切	石・長粗	"	"	"		
	166	196	T52-17	"	横 瓶					折切板取・折切	長微	"	暗灰	"		
	167	192	T52-12	"	"		152		3	カゴ切目文・同心切文	石微	"	灰	"	自然釉	
20	168	123	T52-16	"	壺重1類		122		2	水洗・ヘラ調整	"	"	黒	緑	"	
	169	186	U52-2	"	カノ					斜切板取・折切	長粗	中	灰	灰		
	170	188	"	"	"					"	長微	良	"	"	剥離・被熱	
	171	187	U53-18	"	"					水洗・青海波文	長・石微	"	妙切	暗灰	自然釉	
	172	152	T52-12	"	壺		66		6	ナデ・ヘラ調整	長微	"	暗灰	灰		
	173	154	U52-12	"	壺A類		80		3	水洗	長・石微	"	黒	灰黒	自然釉	
	174	153	T52-10	"	"		78		3	"	長微	"	黒灰	"	"	
	175	156	T52-16	"	"				12	"	長微・確	"	灰	青緑	"	
	176	155	"	"	"				3	"	"	"	黒	灰	"	
	177	120	U52-6	"	坏重1類 (24)	158			6	"ヘラ調整	長微	"	暗灰	"	"	
	178	119	U52-1	"	"	29	132		5	"	"	"	灰	灰	自然釉	
	179	118	T52-17	"	坏重2類	23	140		2.5	"	長粗	中	"	"	"	
	180	121	U53-14	"	坏重1類 (31)	150			7	"	長微	良	灰白	灰白	転用磁	
	181	117	T52-16	"	"				"	"	"	"	灰黒	灰		
	182	111	T52-22	"	坏重2類	152			1	"	"	"	灰	"	"	
	183	116	T52-16	"	坏重2類	146			3	"	長微	"	"	"	"	
	184	115	"	"	"	158			5	"	長粗	中	"	"	"	
	185	122	T52-1	"	坏重1類	160			10	"	長微	良	"	"	"	
	186	135	"	"	"	138			3	"	"	中	灰	暗灰	"	
	187	113	U52-19	"	"	153			1	"	石・長微	良	暗灰	灰	"	
	188	112	T52-21	"	"	150			1	"	長粗	"	"	暗灰	"	
	189	114	T52-17	"	坏重3類	140			1	"	長・石微	"	"	灰	"	
	190	38	U53-5	"	坏1類	29	105	70		"	長粗	"	"	暗灰	"	
	191	41	T52-22	"	坏1類	34	123	70		2	長粗・確	中	灰	灰	"	
	192	82	T52-9	"	坏1類	32	124	80		3	"	良	"	"	"	
	193	30	U53-17	"	坏3類	33	128	79		8	右口クロ	長微	"	暗灰	"	
	194	25	U52-4	"	坏3類	31	132	80		7	ヘラ起シ	長粗・確	"	灰白	灰白	
	195	32	U52-15	"	坏1類	32	124	80		3	右口クロ	長微	"	暗灰	灰	
	196	50	U53-12	"	坏1類	38	126	80		4	ナデ	"	不	灰白	灰白	
	197	26	U52-16	"	坏2類	31	123	80		9	長粗・小噴	良	灰	灰	"	
	198	17	U52-6	"	坏1類	38	124	90		4	"	中	灰白	灰白	"	
	199	28	T52-17	"	坏1類	40	135	70		4	ナデ	"	"	"	"	
	200	12	U53-18	"	坏2類	30	126	80		9	"	確	良	灰	灰	墨書
	201	6	U52-18	"	坏1類			80		2.5	"	長微	中	明灰	明灰	"
	202	19	"	"	坏2類	33	115	72		6	左口クロ	"	良	暗灰	暗灰	自然釉
	203	15	T52-1	"	坏2類	35	126	80		11	"	"	"	灰	"	"
	204	49	T52-17	"	坏2類	36	124	82		4	ナデ	"	"	"	"	"
	205	7	U53-7	"	坏1類			80		4	"	"	"	"	"	墨書
	206	13	U52-15	"	坏3類	34	122	85		7	"	長粗	中	明灰	明灰	"
	207	2	U53-17	"	坏2類	32	115	80		5	"	長微	良	"	"	"
	208	5	T52-17	"	坏2類	36	120	78		3	"	"	"	"	"	"
	209	20	T52-17	"	坏2類	32	120	81		8	"	"	"	灰	灰	"
	210	29	T52-22	"	坏1類	38	132	80		8	ナデ	長粗	不	"	"	"
	211	47	"	"	坏2類	31	126	84		6	"	長微	良	暗灰	暗灰	"
	212	4	T53-20	"	坏3類	26	115	80		5	"	"	明灰	明灰	墨書	"
	213	45	U52-17	"	坏2類	28	111	77		7	ナデ	"	灰	灰	"	"
	214	31	T56-20	"	坏2類	33	119	74		4	"	長粗	"	暗灰	灰	炭化物付着
	215	16	U53-19	"	坏2類	37	120	82		6	左口クロ	長微	"	"	"	"
	216	46	T52-22	"	坏3類	31	124	80		8	"	"	中	灰	"	"
	217	18	"	"	坏2類	32	120	83		6	左口クロ	"	良	明灰	明灰	"
	218	34	U52-4	"	坏2類	32	122	90		5	ナデ	"	"	暗灰	暗灰	"
	219	33	T53-13	"	坏3類	36	132	80		3	"	"	中	灰	灰	"
21	220	3	T55-25	"	坏3類	34	120	85		11	"	長粗	良	明灰	明灰	墨書

種 別 No.	No.	遺物 No.	出土位置	種別	器種	計 測				残存率 12分法	手 法	胎 土	焼 成	色		備 考
						器高	口径	底径	最大径					表	内	
21	221	11	U53-7	須恵器	坏 2 期	31	124	85		12	水換	長粗	良	暗灰	暗灰	墨書
	222	37	U52-14	"	坏 2 期	34	120	84		6	" ナデ	長粗	"	灰	灰	
	223	48	T52-1	"	坏 2 期	33	116	78		4	"	長微	"	"	"	
	224	40	T52-17	"	坏 3 期	30	120	83		9	" 左口クロ	"	"	"	"	
	225	39	U53-19	"	坏 3 期	29	126	84		5	"	"	"	暗灰	暗灰	
	226	43	U59-23	"	坏 3 期	32	122	82		3	"	"	"	"	"	
	227	36	T52-17	"	坏 2 期	34	123	74		5	"	長微	"	"	"	
	228	35	"	"	坏 3 期	35	131	80		6	"	長粗小微	"	灰	灰	
	229	83	U53-18	"	坏 3 期	33	132	78		7	"	長・石粗	"	暗灰	暗灰	墨書
	230	27	U53-24	"	坏 3 期	36	132	85		9	" ナデ	長粗・微	"	灰白	灰白	
	231	74	U53-7	"	坏 1 期	37	130	64		3	"	長微	良	"	"	
	232	81	U53-18	"	坏 3 期	30	122	80		2	" 底部強土	長粗	"	暗灰	暗灰	
	233	21	T52-16	"	坏 3 期	32	125	80		8	"	長微	"	灰	灰	
	234	42	U53-19	"	坏 1 期	35	125	72		2	" ナデ	長粗	"	灰白	灰白	
	235	23	T52-17	"	坏 3 期	35	133	60		8	" ヘラ起シ	長粗・微	中	灰白	灰白	
	236	22	T52-21	"	坏 3 期	34	128	76		11	" 右口クロ	長微	良	灰	灰	
	237	84	U52-10	"	坏 1 期	30	125	70		9	"	"	"	"	"	
	238	24	U52-4	"	坏 3 期	30	134	68		4	" 左口クロ	"	"	暗灰	"	自然釉
	239	10	U52-13	"	坏 3 期	30	120	64		5	"	長粗	"	明灰	明灰	墨書
	240	8	T52-18	"	坏					2.5	"	長微	"	灰	灰	
	241	1	T52-17	"	坏 2 期	30	124	88		8	"	"	"	明灰	"	
	242	96	"	"	碗A-2期	72	156	98		9	"	長・石粗	"	灰	"	
	243	97	U53-3	"	碗A-1期	62	150	92		2	"	"	"	"	"	
	244	150	U53-16	"	碗A-2期 (65)	150	80			3	"	長微	"	暗灰	"	自然釉
	245	93	T52-22	"	碗A-1期	66	126	80		5	"	長粗	"	黒	"	
	246	94	T52-16	"	碗A-1期	73	140	80		4	"	"	"	黒	"	
	247	95	U53-18	"	碗A-2期	67	142	86		5	"	長・石粗	"	"	"	自然釉
	248	87	U53-7	"	碗B-1期	50	105	64		3	"	長微	"	暗灰	暗灰	
	249	89	T52-21	"	碗B-2期 (47)	98	62			12	"	長・石微	"	"	"	
	250	90	U53-4	"	碗B-2期	49	110	64		2	"	長・石粗	"	灰	灰	
	251	92	T52-5	"	碗B-1期		54			10	"	長粗	"	"	"	自然釉
	252	100	T52-22	"	碗B-2期		56			8	"	長微	"	"	"	
	253	88	T52-17	"	碗B-2期	47	100	53		3	"	長微・微	"	"	"	墨書
	254	91	T52-11	"	碗B-2期	45	106	58		10	"	長粗	"	"	"	
	255	99	U52-22	"	碗B-1期		62			9	"	"	"	暗灰	暗灰	
	256	109	T52-17	"	碗B-1期	48	100	65		3	"	長微	"	"	"	墨書
	257	98	U52-19	"	碗B-1期	44	114	70		3	"	"	"	灰	灰	自然釉
	258	110	U52-14	"	碗B-1期	46	105	64		11	"	長粗	"	"	"	歪み
	259	9	T52-2	"	碗B-1期		70			3.5	"	長粗	不	白	白	墨書
	260	85	U53-18	"	碗B-1期		52			12	"	長・石粗	良	灰	灰緑	自然釉
	261	86	T52-21	"	碗B-2期	50	100	58		6	"	長微	"	黒	"	
	262	149	U53-18	"	"			38			" ナデ・静止め切	密	"	灰白	灰白	
	263	197	U53-12	"	オハジキ				26							
	264	198	"	"	"				27							
	265	199	T52-22	"	"				28							
	266	200	T53-1	"	"				28							
22	267	220	T52-18	土師器	壺					2	水換	密	不	橙々	橙々	磨耗
	268	210	U53-7	"	碗X 類			66		1	" ナデ	"	"	黄土	黄土	"
	269	213	U52-4	"	"			60		3	" スリッパ	長微	"	"	"	薄茶
	270	211	U52-10	"	"			68		6	" ナデ	長・石微	"	"	"	橙々
	271	216	T52-18	"	碗A-2期	39	130	64			"	長微	"	"	"	黄土
	272	205	T52-16	"	碗A-2期	36	140	60		3	" ミガキ	長・石粗	"	"	"	磨耗
	273	218	T52-16	"	碗A-2期	37	135	65		10	" ミガキ・回転車切	密	良	"	"	
	274	204	T53-8	"	碗A-2期	36	126	56		6	" ミガキ・スリッパ	長粗	不	赤茶	橙々	磨耗
	275	206	T52-18	"	碗A-2期	40	130	58		12	" ミガキ・スリッパ・陶板切	長・石微	"	"	"	黄土
	276	212	T52-16	"	"			65		5	" スリッパ・回転車切	"	"	"	"	磨耗
	277	214	T53-19	"	碗A-2期	37	130	56		1	"	密	"	"	"	
	278	209	T53-17	"	碗X 類			62		4	"	石・長微	"	"	"	

採 取 区 画 No	No	遺物 No	出土位置	種別	器種	計 測				残存率 12分法	手 法	胎 土	焼 成	色		備 考	
						器高	口径	底径	最大径					表	内		
22	279	215	T53-19	土師器	前 X 類			62		2	水洗・ミガキ・回転切	砂散	中	黄土	黄土		
	280	217	T52-12	"	"			63		3	" スリッパ "	雲・長粒	"	"	"		
	281	299	T52-1	"	"			60		3	回転糸切	砂散	良	黄白	黄白		
	282	331	T52-1	"	"			60				雲散	不	橙々	赤	穿孔、磨耗	
	283	203	T52-17	"	縄A-1類 (44)	156				1	水洗	雲 "	"	赤茶	赤茶	磨耗	
	284	202	T52-17	"	縄A-1類	50	180	62		6	" スリッパ "	"	"	"	"		
	285	219	U53-18	"	縄A-1類	61	190	75		12	" ミガキ・回転切 "	"	"	良	黄土	黄土	
	286	207	"	"	縄A-1類			60		3	スリッパ・ミガキ "	"	"	不	薄茶	橙々	
	287	239	T52-16	"	カメB-1類		160				水洗	長・雲	"	明茶	薄茶	磨耗	
	288	304	U53-7	"	カメA-4類		114			1	"	石・砂散	良	黒茶	黄白	スス	
	289	308	T52-18	"	カメB-2類		136			1	"	"	"	不	明茶	明茶	磨耗
	290	236	T52-17	"	カメB-2類		130			2	水洗	砂散	良	黄土	"		
	291	310	T52-1	"	カメB-2類		170			1	"	石・長・雲	不	"	黄土	スス	
	292	305	U52-3	"	カメA-4類		141			1	"	石・長・縞	"	良	黄白	薄茶	磨耗
	293	309	T52-21	"	カメA-4類		140			1	"	石・長・雲散	中	黄土	黄土	スス	
	294	306	"	"	カメA-4類		125			1	"	"	不	黄白	"	"	
	295	312	U52-7	"	カメA-5類					"	"	"	"	"	黄土	"	"
	296	315	"	"	カメA-5類					"	"	長・雲散	良	"	"	"	"
	297	313	U52-20	"	カメB-2類					"	"	石・長・雲散	不	"	"	"	"
	298	262	T52-21	"	カメB-2類					"	"	長・石散	"	薄茶	薄茶	磨耗	
	299	260	T52-16	"	カメB-2類					"	"	"	中	黄白	黄白	"	
	300	256	T52-21	"	カメB-2類					"	"	"	"	"	"	"	"
	301	261	"	"	カメA-6類					"	"	長・石・雲散	不	"	"	磨耗	"
	302	259	U53-20	"	カメA-6類					"	"	"	中	明茶	明茶	"	"
	303	257	T52-16	"	カメA-6類					"	"	石・長粒	"	良	黄白	黄白	"
	304	258	U53-7	"	カメA-6類					"	"	長散	良	"	"	"	スス
	305	314	"	"	カメA-6類					"	"	石散	中	黄土	黄土	スス	"
	306	263	T52-22	"	カメA-6類					"	水洗	長・雲散	不	薄茶	薄茶	磨耗	"
	307	253	T52-13	"	カメB X類			140		1	" ナデ	長・石粒	良	黒茶	茶	"	"
	308	238	T52-11	"	カメB X類		72	135		6	"	長・石粒	不	黄土	薄茶	磨耗	"
	309	240	T52-23	"	カメB X類		76			1	" ナデ	長・雲・石粒	"	不	茶	"	"
	310	296	T52-21	"	カメB X類		78			2	ヘラ削り	石・長粒	良	黄白	無茶	"	"
	311	297	"	"	カメB X類		72			2	"	"	不	黄白	"	"	"
	312	293	T53-13	"	カメB X類		60			3	回転糸切	"	中	赤	黄土	"	"
	313	298	U53-9	"	カメB X類		80			3	"	石・長・雲散	良	赤黄	黄土	磨耗	"
	314	302	T52-1	"	カメB X類		65			2	回転糸切	"	"	茶	黒茶	"	"
	315	295	T52-23	"	カメB X類		65			2	底部張土	"	不	黄土	黄白	"	"
	316	294	T52-16	"	カメB X類		60			3	回転糸切	"	良	黄白	"	"	"
	317	292	T52-21	"	カメB X類		62			3	"	"	中	黄土	黄土	"	"
	318	300	U53-18	"	カメB X類		68			2	"	長・石粒	"	茶	"	"	"
	319	301	T52-21	"	カメB X類		52			2	ハケメ	長・石・雲散	"	赤茶	赤茶	"	"
	320	303	T52-23	"	カメB X類		70			2	ヘラ起シ・ナデ	"	不	黄土	黄白	"	"
23	321	265	T52-21	"	カメA-1類		216			"	水洗・ハケメ・ナデ	"	中	"	"	"	"
	322	243	"	"	カメA-2類		210			2	"	長・石・雲散	良	薄茶	薄茶	"	"
	323	264	U52-15	"	カメA-2類		215			"	ハケメ・ナデ	長散	中	黄土	黄土	"	"
	324	242	T52-22	"	カメA-2類		230			2	水洗・ハケメ	長・石・雲散	"	薄茶	黄白	漆付着	"
	325	251	"	"	カメA-2類		200			1	"	"	良	黄土	黄土	"	"
	326	250	T52-23	"	カメA-4類		191			1	"	"	不	黄白	薄茶	磨耗	"
	327	249	U52-20	"	カメA-2類		222			1	"	石散	"	黄土	黄土	"	"
	328	246	T52-11	"	カメA-4類		194			1	"	長・石散	中	黄白	黄白	"	"
	329	252	U52-11	"	カメA-1類		212			1	"	"	"	"	"	"	"
	330	290	T52-14	"	カメA X類					1	羽子目文・青海紋文	長・石・雲散	不	黄土	黄土	"	"
	331	289	T52-17	"	カメA X類					1	" ハケメ・張土 "	"	"	赤茶	赤茶	"	"
	332	277	U52-19	"	ナベ3 類		400			1	ハケメ	"	良	赤黄	赤黄	"	"
	333	269	"	"	ナベ2 類		420			"	羽子目文・ハケメ	"	不	黄白	黄白	"	"
	334	349	T54-5	"	ナベ2 類		420			3	羽子目・羽子目・ハケメ	"	良	黄土	黄土	"	"
	335	271	T52-16	"	ナベ2 類		384			"	"	石・長粒	"	明茶	明茶	"	"
	336	279	U54-5	"	ナベ2 類		425			1	" ヘラ削り "	"	"	黄土	黄土	"	"

種別 No.	No.	遺物 No.	出土位置	種別	器種	計 測				現存率 12分法	手 法	胎 土	焼 成	色		備 考	
						器高	口径	底径	最大径					表	内		
23	337	268	T52-14	土師器	ナベ1類	408					ハケメ・水挽・ハケメ	石・長微	不	黄白	黄白		
	338	276	"	"	ナベ2類	364			1	"	"	石・長・雲微	良	"	黄土		
	339	274	T52-14	"	ナベ1類	409					ハケメ・ハケメ	"	中	黄土	黄土		
	340	278	U52-7	"	ナベ1類	407			1	"	"	石・長微	不	"	黄白	磨耗	
	341	273	T52-22	"	ナベ3類	400					"	長・石・雲微	中	"	黄土	"炭化物付着	
	342	266	U52-18	"	ナベ2類	360					水挽・ハケメ・ハケメ	"	良	明茶	薄茶	"	
	343	270	U53-19	"	ナベ2類	412					"	"	"	黄白	黄白		
	344	267	U52-19	"	ナベ2類	403					"	"	"	黄土	薄茶		
	345	272	U53-7	"	ナベ2類	408					"	長・石微	"	"	黄白		
	346	275	T52-21	"	ナベ2類	384					"	石微	不	"	黄土	磨耗	
	347	282	T52-15	"	ナベX類						平河田文・ハケメ	雲微	良	黒	黄白	炭化物付着	
	348	284	U53-12	"	ナベX類						"	長微	"	茶	黄土	磨耗	
	349	285	T55-17	"	ナベX類						ヘラ調整・ハケメ	"	"	黄土	黄白		
	350	283	U53-18	"	ナベX類						ヘラ削り	長・石・雲微	"	不	黒茶	黒	
	351	350	U53-7	"	ナベX類						平河田文・ハケメ	長・石微	中	黄土	黄土	炭化物付着	
	352	286	U52-2	"	ナベX類				2	"	"	長・石・雲微	良	"	"		
	353	351	U52-14	"	ナベX類						ハケメ	長・石粗	"	黒茶	赤茶		
	354	291	U53-18	"	鉢	93	218	90	6		水挽・スリッパ	密	不	赤茶	黄白	肉厚	
	355	348	T52-2	土製品	半土管	140		140	12		輪盤・平河田文・ナデ	長・石微	良	黄土	黄土	指圧痕	
	356	346	U52-11	"	土 管	150		150	1		ヘラ削り	"	不	黄白	黄白		
	357	347	U52-2	"	"	150		150	3		ヘラ調整	"	中	黄土	黄土		
	358	344	U52-17	"	"	155		155	1		ヘラ削り	"	"	"	"		
	359	345	U52-16	"	"	135		(140)	6		平河田文・ナデ・ハケメ	石・長・雲微	"	黄白	黄白		
	360	343	U52-2	"	"	155			2		"	ヘラ削り	長・石微	不	"	"	
	361	342	U52-21	"	"	150		(156)	12		"	"	中	"	"		
24	362	338	U53-9	"	土 鉢	58			12		手ひねり	"	良	黄土	黄土	孔径 4	
	363	339	U52-11	"	"	44			12		"	"	"	"	"	4	
	364	340	T52-22	"	"	37			12		"	"	"	"	"	3	
	365	333	U53-18	"	"	41			13		"	"	"	"	"	5	
	366	337	U54-11	"	"	(20)			10		"	"	"	"	"	5	
	367	341	T52-16	"	"	28			13		"	"	"	"	"	3	
	368	335	U53-18	"	"	36			9		"	"	"	"	"	4	
	369	336	U53-9	"	"	35			11		"	"	"	"	"	4	
	370	334	T52-17	"	"	35			14		"	"	"	"	"	6	
						縦	横	厚									
24	371	408	U53-18	木製品	ヒ ヂ	40	10	8									
	372	407	"	"	"	27	7	12									
	373	406	"	"	"	43	18	16									
	374	405	"	"	"	70	7	5									
	375	404	"	"	"	94	8	3									
	376	403	"	"	"	95	14	12									
	377	402	"	"	"	126	17	11									
24	378	377	T52-21	石製品	石 片												
	379	378	T52-2	"	"												
	380	379	T58-20	"	軽 石												

表4 柱残欠一覧表(単位mm)

補図 No.	割付 No.	出土位置	計		材質	柱木口の形態	特徴	備 考	
			長さ	径					
25	381	柱穴1	786	280	チャンチン	直角切断	面取カ	軟質	
	382	2	502	265	"	横状切断 緩角		"	
	383	3	430	208	"	" " 鋭角	木面残	"	割柱
	384	4	820	256	栗	直角切断	面取10面	"	斧ハツリ度
	385	5	700	208	"	片面切断 緩角	"	"	
	386	6	744	206	"	" " "	面取カ	"	
	387	7	610	185	チャンチン	横状切断 緩角	"	"	
	388	8	374	182	"	直角切断	一部ケズリ	"	樹皮残欠
	389	9	720	262	"	"	面取11面	"	
	390	10	430	264	"	横状切断 鋭角	一部ケズリ	"	
	391	11	314	86	栗	直角切断			表面腐蝕
	392	12	914	233	"	横状切断 鋭角	面取カ		硬質
	393	13	400	104	チャンチン	片面切断			表面腐蝕
	394	14	800	200	杉	横状切断 緩角	面取11面		切込み
	395	15	870	200	チャンチン	" 鋭角			軟質
	396	16	430	175	"	直角切断			表面腐蝕
	397	17	464	210	"	横状切断 鋭角			軟質
	398	18	752	320	栗	" 緩角	面取12面		ねじれ木
	399	48	286	170	チャンチン	"カ"			腐蝕
	400	47	276	144	榎 木	" 鋭角			樹皮残欠
	401	49	(596)	224	チャンチン	片面切断			軟質

### III B地点の遺構と遺物

#### 1 B地点の調査範囲と結果

B地点の調査区は第1章で記述した如くあらかじめ指定されている大グリッドc57-14区を北西の一端とし南東のe60-23区に至る範囲内の1400㎡である。調査の結果部分的に厚い遺物包含層がありそこに稀薄ではあるが土師器の出土を見る事ができ、またこの遺物包含層で後述する河川状の遺構や土坑と溝状遺構が発見され、一応上層部の遺構として処理したが、さらに下層部の調査の結果この上層部の遺構は遺跡の営みの後のものであることが判断される事と成った。遺跡に係わる遺構としては長短の溝状遺構、土坑、ピットに限られるが、これらの遺構の目的・用途・相互関連などに関しては判断が出来ない。なお遺跡の範囲は調査範囲の四方に広がって展開するものであろう。

#### 2 遺 構

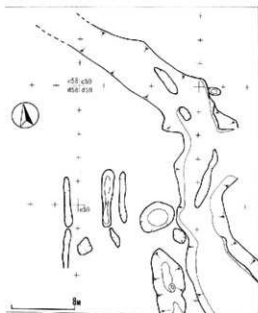
##### A 上層の遺構

前述した如く厚い遺物包含層の上部で河川状の遺構が検出され、合わせて数基の土坑と溝状遺構が発見された(第27図参照)。河川状の遺構は調査区の北西から南東に及び、逆くの字に折れて南南東に至り、幅員は4~10mに至る。この内北側部分は比較的浅く本命の遺構検出レベルで消滅するが、東南側部分は徐々に深くなり遺構検出面を越えた深度に達している。土坑と溝状遺構はこの西南側に位置する。これらの内、河川状の遺構の東南側部分の深い位置より多くの遺物を検出したが、それ以外での遺物検出は見られない。従って遺物を検出した河川状遺構部分の遺物は流入物と判断する事ができ、第27図に示した上層の遺構は当遺跡が廃絶した後の物であろう。従ってこれらの詳細に付いては省略する。

##### B 下層の遺構

検出された遺構は溝状遺構、土坑、小穴(ピット状遺構)のみに限られた。これらの遺構の一部は上層の河川状遺構の下に位置するが、逆に深い部分の河川状遺構に因って消滅した遺構もあったことは否定しがたい。遺構はそれぞれ番号を付して示すが番号は検出順であり他意はない。以下個々に付いては一覧表を以て示すので、溝状遺構は第28図の平面図と第29図の断面図を以て符合されたい。溝状遺構の殆どはN25~60°W前後、即ち北に対して25~60度西に向いた方向にあり、一部はこれに直行する。土坑については第30図に平面断面図を示した。

**溝状遺構** 第28図及び表3で示した如く21基を検出した。これらはその目的や相互の関連を知り得ないが、その内の



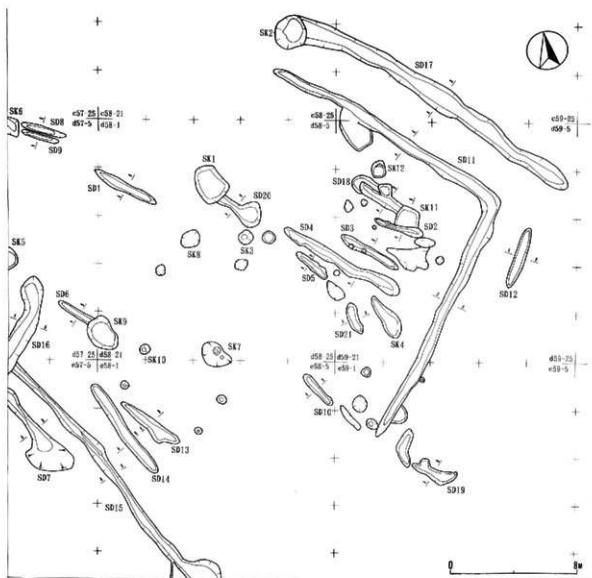
第27図 上層の遺構

幾つかに付いて触れて置こう。SD11号は幅1mに満たないがL字形に屈折する全長34m程の長い溝であり、あたかも何かを囲むかの形態を感じる事ができる。この様な予想を前提にすればやや間隔を置きたその角度に異なりを見るが、SD15号がこれに対応しコの字形を形成するかにも見える。一方SD17号は上層の河川状遺構の下層に位置するものであるが、2.5m程の間隔を保ちながらSD11号の一边に平行する事からあながち無関係とは言えない。またSD12号も同様な関連を伺う事ができる。その他の溝状遺構に関しては全く不明であるが表示した如く殆どから土器が検出されている。

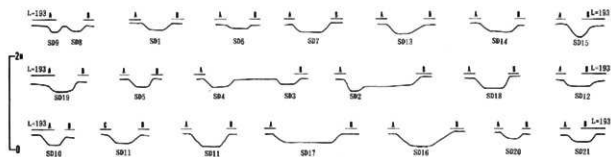
**土坑遺構** 第30図に示した10基の他、土坑とは言い難い浅い窪みを呈する2基をSK11・12号として表示した。これらはいずれもその形態などから見ても一貫性はなくこれらの目的に付いて判断出来ないものであるが、土坑としてその実態をここに報告しておく。図示又は表示した如くSK10号の1基の錐先状に深い他はいずれも浅いもののみである。またこれらの平面的な形態も楕円形、方形、溝状などと様々であ



る。なおSK10号の底部には石を見る。またSK6・SK8号以外には土器を伴った。



第28図 遺構全測図



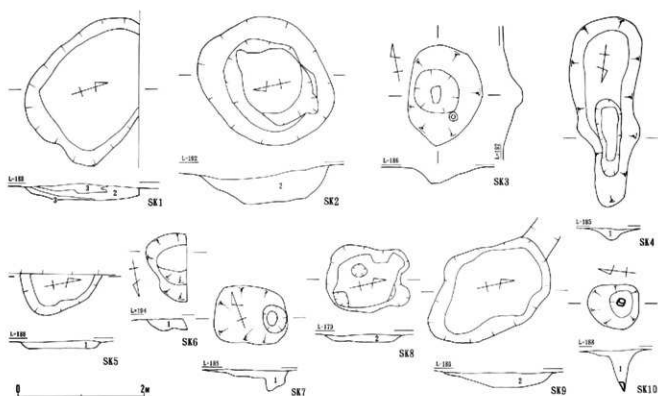
第29図 溝遺構断面図

表5 溝状遺構一覧表(単位cm)

遺構No	位 置	方 位	長 さ	幅	深 さ	遺物の有無		備 考
						実測	未測	
SD 1	d 57-10~d 58- 7	N50° W	440	65	12	3	23	
SD 2	d 59-11~d 59-12	N63° W	320	160	24	20	212	
SD 3	d 59-11~d 59-17	N51° W	420	50	12	1	23	
SD 4	d 58-14~d 58-17	N49° W	836	64	18	6	15	
SD 5	d 58-15~d 58-20	N40° W	154	66	19	4	-	
SD 6	d 57-20~d 57-25	N46° W	240	50	5	7	6	
SD 7	e 57- 4~e 57-15	N29° W	(640)	82	18	3	-	一部未掘
SD 8	d 57- 4~d 57- 5	N62° W	290	30	10	4	36	SD 1 に併行
SD 9	d 57- 4~d 57- 5	N62° W	240	30	10	-	-	
SD 10	e 58- 5	N35° W	260	54	21	1	18	
SD 11	c 58-24~d 59- 9 ~e 59- 6	N48° W N36° E	3380	80	27	21	167	L字形 SD17に関連
SD 12	d 59-14~d 59-19	N29° E	400	70	12	3	-	
SD 13	e 58- 1~e 58- 7	N41° W	450	83	20	8	6	
SD 14	e 57- 5~e 58-12	N24° W	688	83	17	1	-	
SD 15	e 57- 4~e 58-23	N28° W	(1840)	52	24	22	66	SD16に先行
SD 16	d 57-21~e 57- 4	N37° E	(600)	120	30	23	100	一部未掘
SD 17	c 58-20~d 59-10	N50° W	2860	148	18	-	122	
SD 18	d 59- 6~d 59-12	N44° W	348	175	25	28	59	
SD 19	e 59-11~e 59-12	N59° W	296	170	20	-	-	
SD 20	d 58- 8~d 58-14	N49° W	286	47	12	8	22	
SD 21	d 59-16~d 59-21	N10° W	210	62	7	5	20	

表6 土坑遺構一覧表(単位cm)

遺構No	位 置	形 態	長 径	短 径	深 さ	遺物の有無		備 考
						実測	未測	
SK 1	d 58- 7~d 58- 8	楕 円	237	170	25	4	9	
SK 2	c 58-19~c 58-20	楕 円	225	185	50	3	-	
SK 3	d 58-13~d 58-14	楕 円	160	117	30	6	-	
SK 4	d 59-16~d 59-22	溝 状	300	112	20	5	29	
SK 5	d 57-14~d 57-21	半 円	140	(65)	10	6	12	一部未掘
SK 6	d 57- 4	半 円	110	(65)	17	-	-	”
SK 7	d 58-23~e 58- 3	楕 円	115	90	35	7	17	
SK 8	d 58-12	方 形	190	105	14	-	-	
SK 9	d 57-25~d 58-21	楕 円	215	190	25	8	17	
SK 10	d 58-21~d 58-22	円	82	69	65	2	-	
SK 11	d 59- 7~d 59-12	方 形	240	220		1	-	
SK 12	d 59- 1~d 59- 6	円	210	190		7	-	



第30図 土坑平断面図

### 3 遺物

遺物の出土状況は調査区域のほぼ全面から検出された。いわゆる遺物包含層からと表示した所の土坑遺構や溝遺構からである。ここでは各遺構出土の遺物と包含層出土の遺物を分離して報告するが、前述した上層遺構である河川状遺構の深い部分から出土した物は各グリットの出土遺物として報告した。なお土坑遺構や溝遺構から出土した遺物で表示した実測遺物数の全ては紙面の都合上から図示していない。ここでは図示したものに就いてのみ記述するが、個々の詳細に就いては一覧表に示した。なお図示しない遺物数を記す。

#### A 遺構内出土の遺物

##### SK 1号出土遺物 (1~3)

土師器の甕3点である。1は口縁部にかけての細片だが2次調整からA類の胴長甕であることが分かる。他の2点はB類の腰部と底部で細分出来ない。この他に土師器の甕9点、埴1点、軽石1点がある。

##### SK 2号出土遺物 (4~6)

須恵器の坏2点と土師器の甕A類である。甕の口縁部内側には炭化物が付着しており煮沸用具として使用された事が知られる。

##### SK 3号出土遺物 (7~12)

須恵器の坏2点と土師器の甕A・B類がある。この内17は坏3類、土師器の甕は9は歪みが大いだがB類であり、その他はA類である。この他に須恵器の坏12点がある。

##### SK 4号出土遺物 (13~17)

須恵器の坏2点と土師器の甕A・B類がある。この内17の甕は腰部の破片で無分類だが大型の器である。この他に土師器の甕29点がある。

##### SK 5号出土遺物 (18~23)

杯・碗などの食器類である。須恵器では坏類2点、高台杯、碗A類がそれぞれ1点ずつある。22は土師器の坏でその形態は須恵器の坏写しそのものである。この他に土師器で分類できない細片12点がある。

SK 7号出土遺物 (24~30)

いずれも土師器の甕であるが24の残存率が2/12である如く、いずれも細片ばかりであり一応A・B類に分類したが不安なものもある。この他に土師器の甕17点がある。

SK 9号出土遺物 (31~38)

31は唯一の須恵器で坏蓋である。図示した如く内側に墨書があり碗として使用されたいわゆる転用碗である。その他は土師器で32は須恵器の坏写しそのものであり坏とした。その他は碗、甕B類、埴である。この他に土師器の甕8点と、分類できない細片9点がある。

SK 10号出土遺物 (39~40)

土師器甕A類とオハジキである。土師器片によるオハジキへの加工は初見である。

SK 12号出土遺物 (41~47)

須恵器は坏2点でこの内42に墨書がある。ここでは図示していないが、墨書の内容などに関しては次項で触れることにし逐一記述しない(以下同様)。土師器は碗、甕A類・B類がある。45は細片で無分類である。

SD 1号出土遺物 (48~50)

土師器3点でありいずれも残存率が1/12に満たない口縁部の細片であるが、A類の甕2点と埴であることがかろうじて分かる。この他に土師器の甕23点がある。

SD 2号出土遺物 (51~70)

51~54までが須恵器である。51は甕B類であるが細片で云々出来ない。その他は坏であり52の底部に墨書を見る。55以下は土師器である。第32図に示した55~62までと63~70と縮尺が異なり、したがって同類の物が前後する。碗、甕A類・B類、埴がある。この他に土師器の甕4点、埴6点と分類できない細片202点がある。

SD 3号出土遺物 (71)

埴1点である。腰部の器壁に厚みを持つところに特色を持つ。この他に土師器の細片23点がある。

SD 4号出土遺物 (72~77)

須恵器では坏と高台杯がそれぞれ1点ずつあり、土師器は甕A類のみである。76・77の甕には器内に炭化物が見られ煮沸用具とされた事が分かる。この他に土師器の甕15点がある。

SD-5号出土遺物 (78~82)

須恵器坏1点の他は土師器で碗、甕B類、そして細片であるが埴がある。この内82は残存率が8/12だが器形全体を知ることが出来るものである。

SD 6号出土遺物 (83~89)

土師器の甕と埴である。甕は口縁部を示したものはA類で底部を示したものはB類である。89の甕は縮尺が異なり大型である。表示では無分類としたがB類の範疇に入るものと考えている。この他に土師器の甕6点がある。

SD 7号出土遺物 (90~91)

土師器、須恵器各1点ずつである。99は埴、91は須恵器坏で底部に墨書を見る。

SD 8号出土遺物 (92~95)

92は須恵器坏で底部に墨書を見る。その他は土師器甕で大きさに異なりを見るが、A類2点とB類1点がある。この他に土師器の甕35点がある。

SD 10号出土遺物 (96)

小型の土師器の甕A類である。肩部の細片1点である。他に18点の細片が出土しているが輪にならない。この他に土師器の甕18点がある。

SD 11号出土遺物 (97~118)

97~105は須恵器でその他は土師器である。97は坏蓋、坏5点の内3点に墨書があり、101、104は碗である。105の甕は残存率9/12だが歪みが大きくて異様な形態である。土師器は甕A類、B類のみであるがいづれも細片ばかりで

ある。口縁部に炭化物が付着し煮沸用具と見るもの2点がある。溝遺構の中で最も多量の遺物を見た。この他に土師器の甕167点、須恵器の碗2点と多量の出土である。

#### SD12号出土遺物 (119~122)

119の土師器甕類1点は口径21cmと大きい。須恵器は甕類の細片と坏がある。

#### SD13号出土遺物 (123~130)

須恵器では123は壺A類の長頸壺で頸部の細片である。125の坏は口縁部の外部に炭化物が付着しており灯明用具に転用された事が伺われる。この他大小の坏蓋、碗があり、土師器には甕のA類、B類がある。図示しないものに土師器の甕5点がある。

#### SD14号出土遺物 (131)

大型の碗が唯一物である。1/2の破片であるが均整の取れた好資料である。

#### SD15号出土遺物 (132~154)

須恵器では132は短頸壺で黝黒色を呈する。坏蓋は2点共硯に転用された墨痕が残る。137の高台坏は側壁外面に墨書を持つが高台内にもそれらしい墨痕が見られる。この他に坏、碗類がある。土師器では碗、甕A類、B類、146は細片だが塙であろう。また152はやや大きいのがその形態から碗とした。この他に土師器の甕62点、坏4点がある。

#### SD16号出土遺物 (155~177)

須恵器4点と多数の土師器を図示した。115は須恵器の円面硯である。部分的な破片を集めて1/2程で全体の形態は分かるものの細部の装飾などを完全に掴み得ない。上部の硯の使命であるいわゆる陸・海部分を失い立上がり部分の肩部から裾部に至るものである。肩部には円孔の透かしがあり、脚部には2条の鋭い刻線と短冊形の透かしが交互にある。156は壺の高台部分のみの残片で外開きの力強い形態を示している。157は断面図にトーンを被せて区別した様に瓦質の器である。やや丸みを持った形態ではあるがロクロ手法は須恵器の物であり一覽表では須恵器とした。須恵器の焼成不良に見られるものである。なお口縁部の内外に炭化物の付着を見るが、焼成不良のもの故に灯明皿として専用されたものであろう。158は浅めの高台坏で側面に墨書を見る。土師器には碗、甕A類、B類、塙がある。碗には160~162と浅いものが見られ、中でも162の二重の外開き形態の器壁を持つものは特異である。166~169まで口縁部の細片を図示したが、この内168は塙でありその他は甕である。なお167・170の甕の内部には炭化物が残る煮沸用具とした事が分かる。この他に土師器の甕93点、坏7点がある。

#### SD17号出土遺物 (178~189)

須恵器では坏蓋と坏がある。この内179の坏底部には墨書がある。土師器には坏、碗、甕A類、B類、C類がある。182は形態的に須恵器の坏写しである。184・183はやや深いタイプだが同じく坏とした。189の甕は口縁部に2条の沈線が廻り希少のものと云えよう。この他に土師器の甕120点、坏2点と多量の出土である。

#### SD18号出土遺物 (190~212)

須恵器では坏蓋、坏、碗がある。190の坏蓋の肩部分と192の坏底部に墨書がある。土師器には坏、甕A類、B類、塙がある。201の底部はその形態から坏である。204~209は口縁部の細片であるがいずれも薄手で小型の器でありその形態がバラエティである。この内207の内部に炭化物を見る。211は塙ではほぼ全容を知り得、内部に炭化物を見る。この他に土師器の甕59点がある。

#### SD20号出土遺物 (213~224)

須恵器では坏、碗がある。214、216の坏は内外面共に炭化物の付着を見、灯明皿として使用された物であり、217の坏底部には墨書がある。土師器には坏、碗、甕A類、B類、がある。この内220の坏、221の甕A類は細片であり分類に心許ない。この他に土師器の甕20点、坏2点がある。

## B 遺構外出土の遺物

### 須恵器 (第36図~第38図)

#### 坏蓋類 (225~243)

19点を図示した。口径の大小の差、例えば226の15.5cmに対し237の12.6cmと差がある。同様に器高の大小、撮部分

の形態の異なりなどと実に様々である。また内面にトーンを被せた物は墨痕であり、これらの227・234・240は硬に転用された事が分かる。235の器表面に篋面文が見られ、さらに器内に不明の付着物がある。

#### 坏類 (244～313)

出土量が多いために多数を図示する結果となった。従ってこれらの分類が1～5類に及んだ如くそれぞれの形態は多様である。その中で249の口径が105mmと小型であるものは特異の部類と言えるであろう。墨書のあるものも多数ありそれぞれを図中で示したがそれらは全て底部に記されている。いま273を欠落したが、第34図の21がそれである。269・294は内部に炭化物が付着しており灯明皿として使用された事が分かる。

#### 高台坏 (314～319)

坏の多量さに比して実に少量である。細分類上では1、3類のみであるがそれぞれの形態を異にしている。その様な中で314は器高が低く且つ受口状の口縁を持つ独特の形態と言えよう。

#### 碗類 (320～351)

大型のA類12点、小型のB類18点の他に無分類のもの1点を図示した。形態的には320・325の朝顔形の外開きのものは希に見るものと言えよう。320・332・344に墨書があり前者の2点は底部の高台内にあり、後者は側壁面に記されている。351は高台を持たないもので無分類とした。口径に対し器高の大きいものである。

#### 壺類 (354～365)

第38図の下端に壺類を集めたが縮尺が異なる。354～362は長頸壺で大小を見、また頸部の形態も様々である。363は無分類であるが短頸壺の可能性が大きい。364・365は横瓶である。この内前者は部分的な破片であるがおおよその大きさを知り得る。

#### その他 (352～353)

前後するが353はオハジキである。壺の割部片の周囲を細かく打欠いた物で玩具であろう。352は器種を特定出来ない。細片の為その大きさを求められないが小型の器である。形態的には坏、皿或いはこれを逆に見ての壺蓋が考えられるが、口縁部が厚手で平坦な造り方からこれらとは考えられず未知のものとしておきたい。

#### 土師器 (第39図～第43図)

#### 埴輪 (366～400)

多量の出土量であるが個々の接合や復元は成らず、図示したのもその残存率は低い。そのような中で残存率4/12の367がやや全容を示す事ができる唯一のものである。口唇部の形態によって1～3に分類したがそれぞれが実にバラエティに富む。器面の調整では平行の刷毛目文が主体を成すが394、395の腰部片には叩目文を見る。これらはあながち部所による相違とも言い切れない。形態的には194の内湾気味のものもあり、2次的調整としては377のスリッパ(化粧土)の施されたものがある。

#### 甕類 (401～478)

A類、B類で器形の全容を知り得るもの444の類1点のみであり、2次的調整などを手掛かりとして分類したものが多いため不安定なものがある。また割付け後に修正を加えたものもありやや混乱しているA類の器面には2次的調整として肩部にはロクロによる平行線状の刷毛目文が内外面に施され、胴部から底部にかけては器表面の平行線状叩目文、器内面の同心円文或いは青海波文が施される466・467などに示したものが基本である。しかし少量であるが器表の格子叩目文、器内の花卉状文や刷毛目文の468～470なども見られる。B類は444の如く器面に刷毛目文を持つものもあるが、殆どは2次的調整を加えないものでロクロの水挽痕をそのまま残すものである。なを形態的にはA類の丸底に対してB類は平底であり、製作の技法的には回転糸切が主体を成している。甕類の用途としては言うまでもなく貯蔵用具であるが、A類、B類共に口縁部内側に炭化物が見られこれらが煮沸用具とされた事は明らかである。478は図示した如く形態的に不明である。個々では一応無分類としたが或いは壺状のものとも考えられる。

#### 鉢類 (479～483)

5点を図示したが分類に及んでいない。479・480は口がややつぼまった形態で丸味を持つ。481・483は朝顔形に口を開いた形態である。他の2点はいわゆる碗形である。

#### 碗類 (484～517)

製作技法的には回転糸切が主体を成し、器面はロクロの水挽痕をそのまま残すものであるが、回転糸切底の痕跡を擦り消したのや器面にスリップ（化粧土）を施したのなどが見られる。A類・B類に分類したが、484は鉢の要素を持ち、486は器高が低く487～489底部片も同様と推定され或いは坏類と呼称すべきものかも知れない一群である。496の外表面と504の内外面に炭化物が付着し、前者は二次的のものである事は言うまでもないがその原因は不明であり、後者は灯明皿として使用されたものである。511～517は黒色処理が施されたものである。基本的には内面のみには施されたものであり、いわゆる内黒土器と呼称されるものである。この内514の器内外には漆痕が見られ漆容器であった可能性がある。517の底部には刻線がある。

#### 火器 (518)

高い高台と僅かな底部を残すだけであるが全体に黒色の瓦質土器（瓦質土器）である事から火器であろう。またこの形態が小型の円形である事から火種鉢か手炙りであろう。この時代のものとしては希少のものと言えよう。

#### その他の遺物 (519～533)

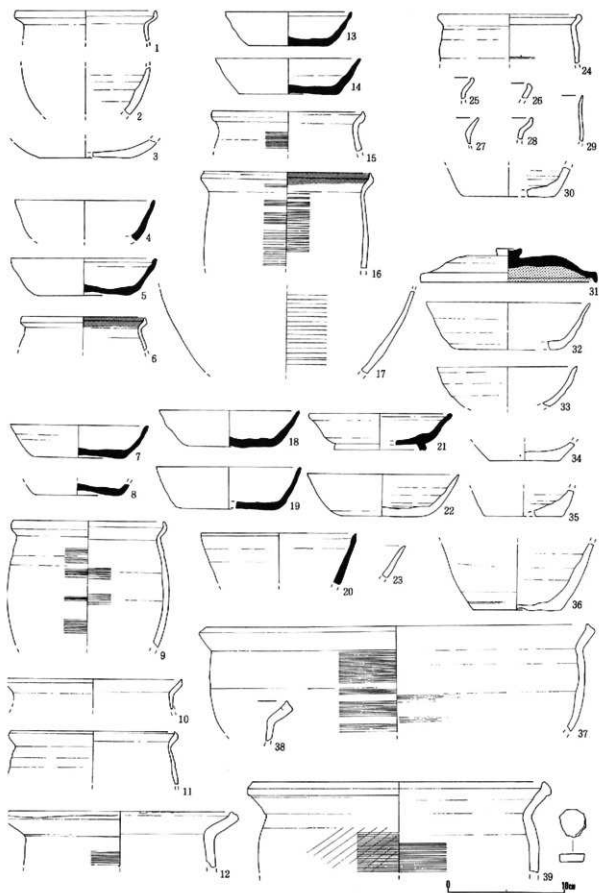
土製品、石製品、木片その他を一括した。519は小型の土鍾で魚網の罾りで土製品である。石製品には次の幾つかがあり、520は泥岩で分銅と考えられるものである。521は軽石製の魚網の浮子であり、522は十文字に紐を掛けた石鍾である。523・524は軽石で前者は方形に成型しさらに12面の角を面取したものであり、後者は自然体のものである。525～528は砥石、529は擦石である。その他530は木炭、531は炭化した板片、532・533は鉄であり後者は生鉄としたが鋼素材のいわゆる鉄金廷であろう。その他図示していないがクルミ（種子）1点がある。

#### 時代の異なる遺物 (534・535)

2点の須恵器系中世陶器の摺鉢である。13～14世紀のものである。

#### C 墨書土器 (第44図)

35点の墨書が検出され、いずれも食器の底部に記されている。1・2は文字の一部分で不明であるが、その他は全て同一と考えられるが、「山」か或いは記号なのかは判断できない。

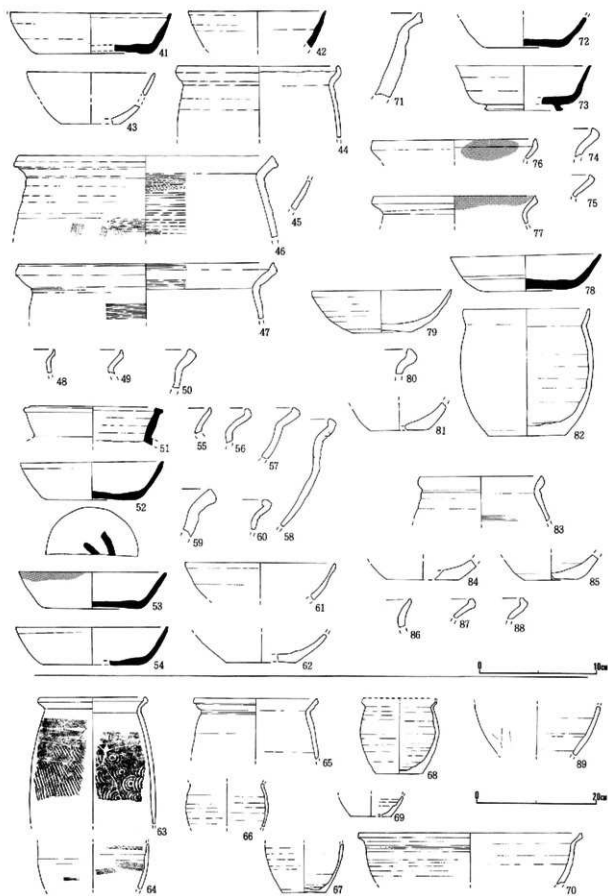


第31圖 遺構土坑出土土器 I

(1~3=SK-1, 4~6=SK-2, 7~12=SK-3, 13~17=SK-4

18~23=SK-5, 24~30=SK-7, 31~38=SK-9, 39・40=SK-10)

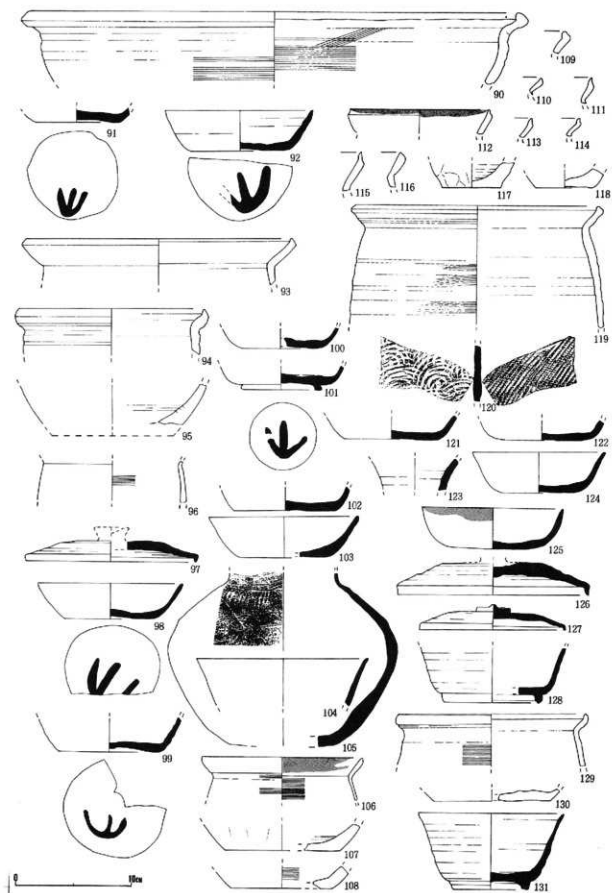




第32圖 遺構土坑出土土器 II

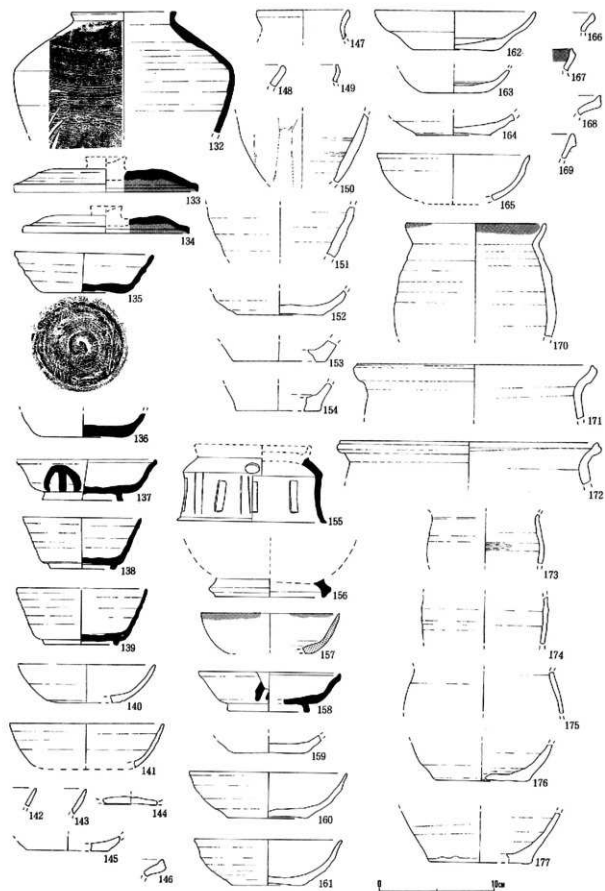
(41~47=SK12, 48~50=SD-1, 51~70=SD 2.

71=SD-3, 72~77=SD-4, 78~82=SD-5, 83~89=SD-6)

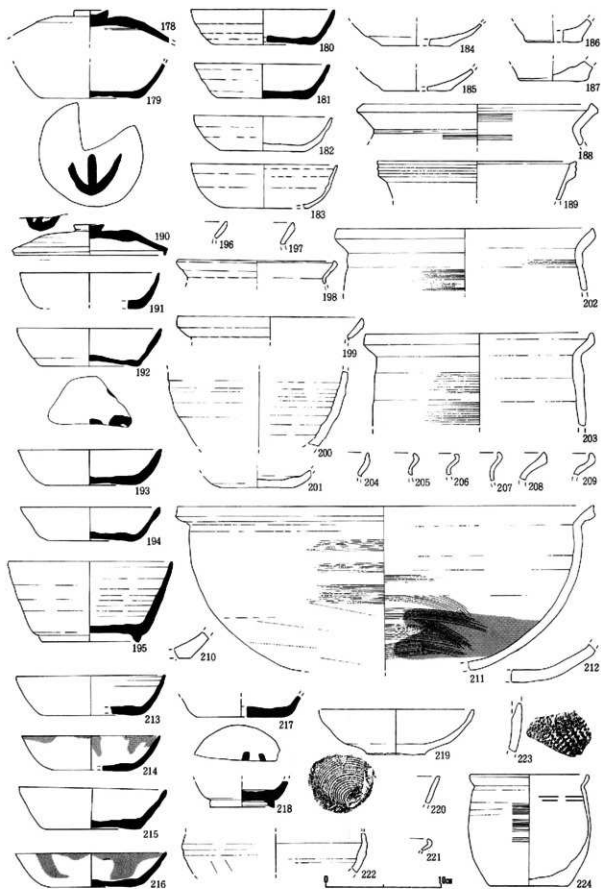


第33圖 遺構土坑出土土器 III

(99 91=SD-7, 92 95=SD-8, 96=SD-10, 97 118=SD-11,  
119 122=SD-12, 123 130=SD-13, 131=SD-14)

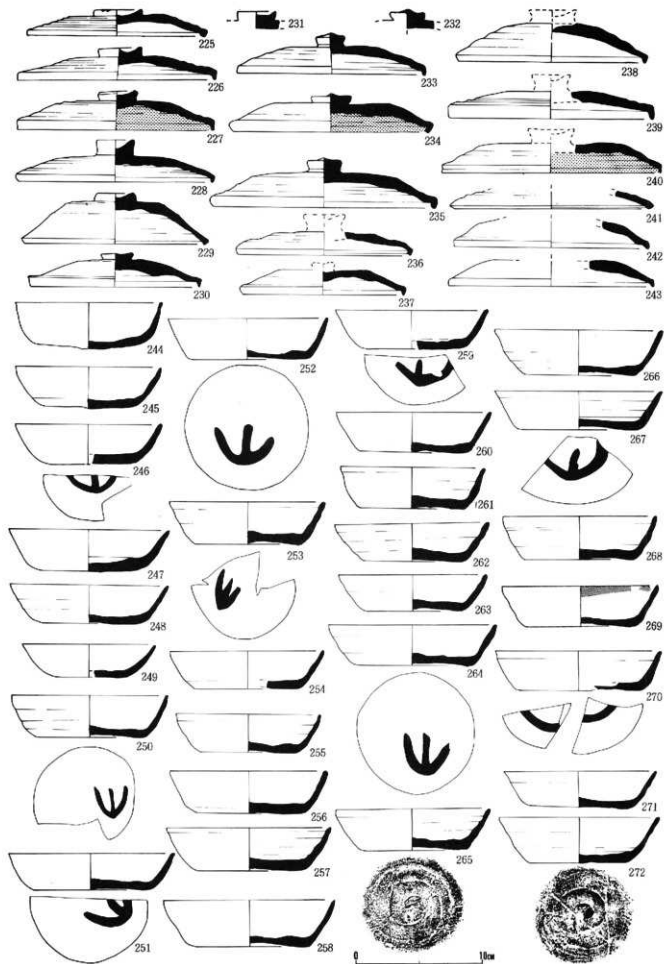


第 34 图 土坑出土土器 IV  
 (132 154=SD-15 155 177=SD-16)

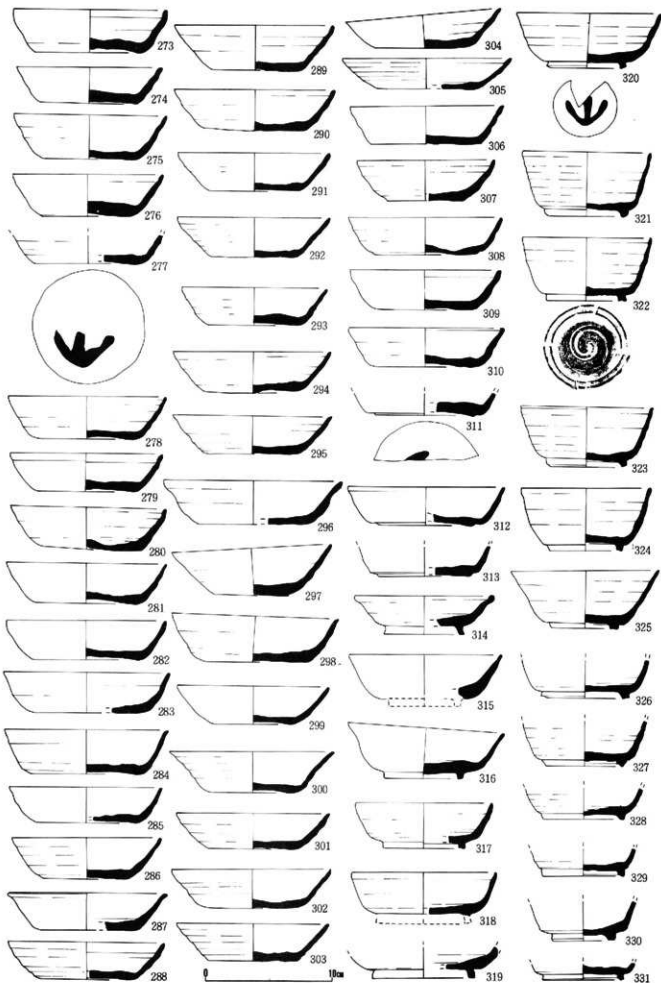


第 36 圖 土坑出土土器 V

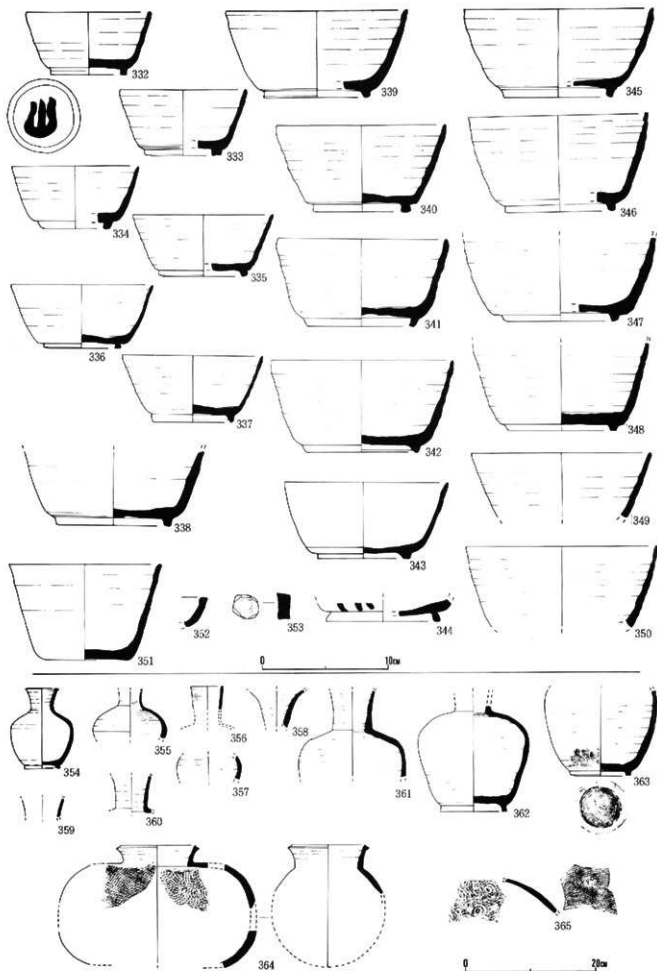
(178~189=SD-17 190~212=SD-18 213~224=SD-20)



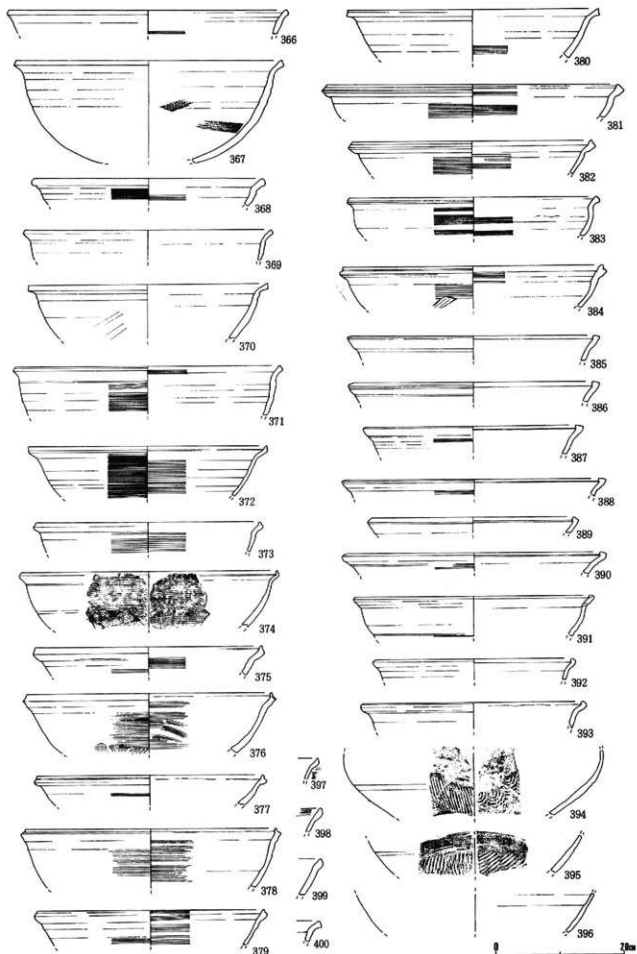
第36図 その他の出土土器 I



第37図 その他の出土土器 II

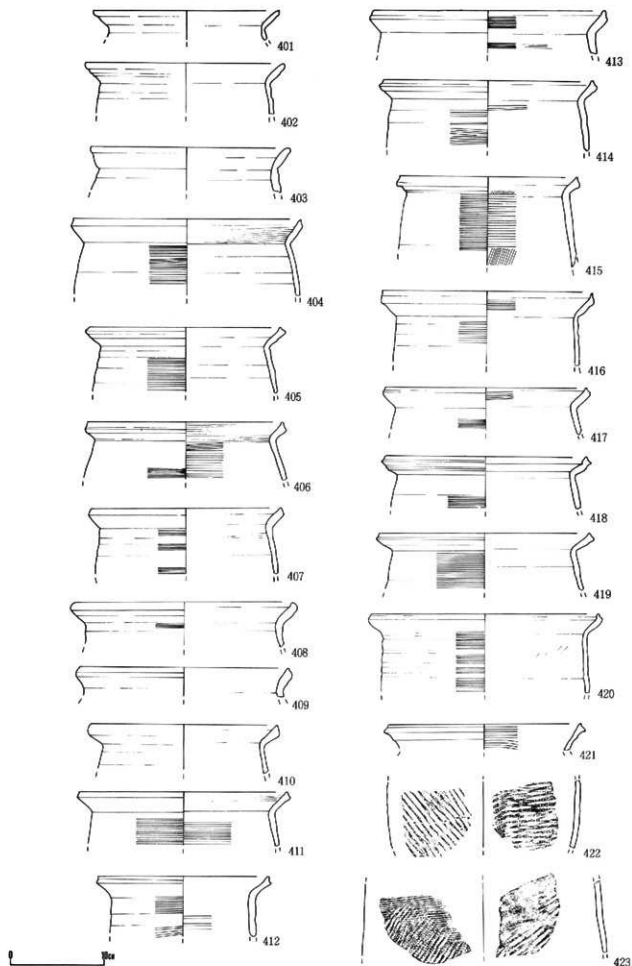


第38図 その他の出土土器 Ⅲ

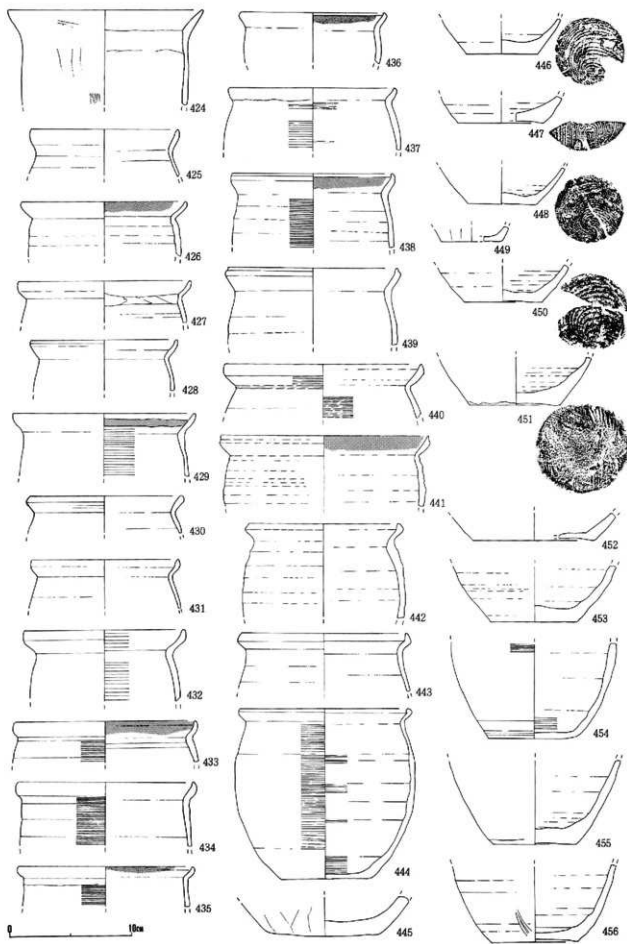


第39図 その他の出土土器 IV

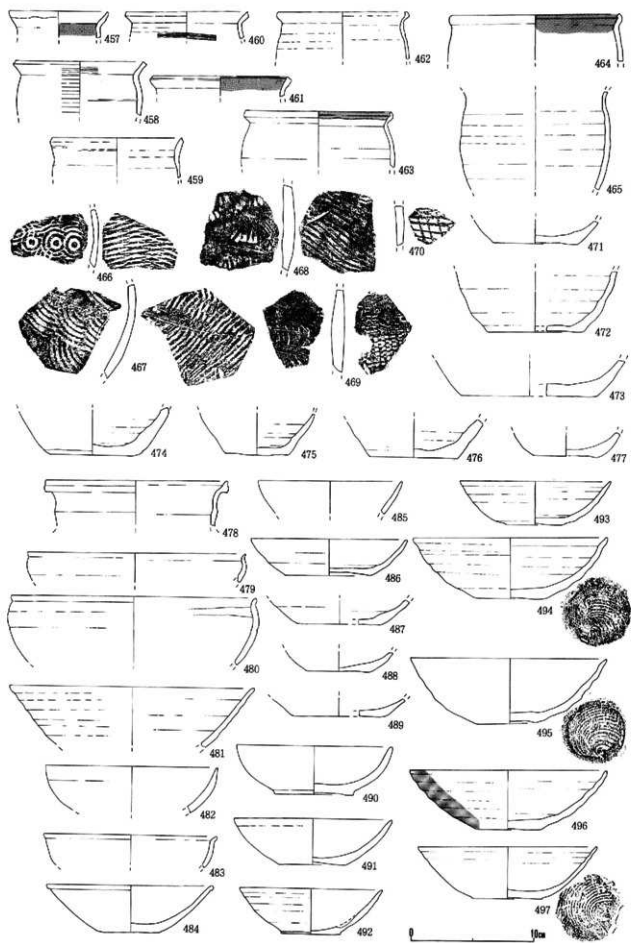




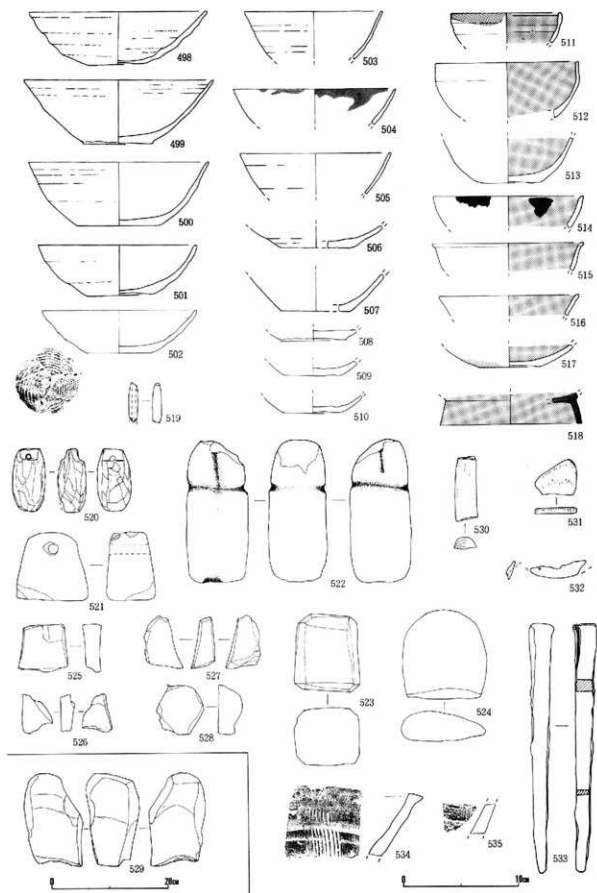
第40図 その他の出土土器 V



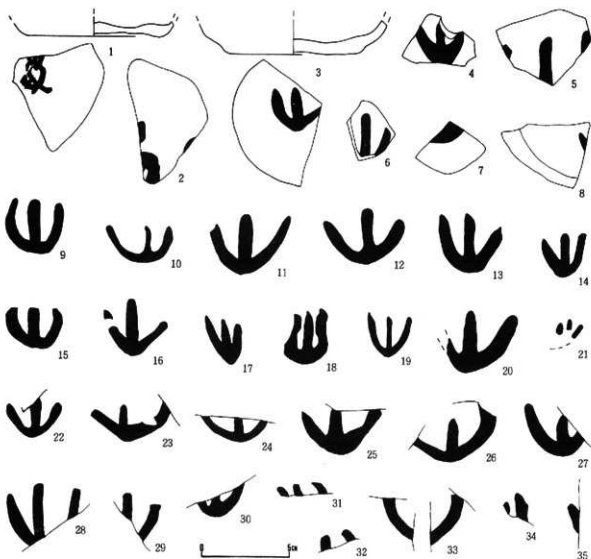
第41図 その他の出土土器 VI



第42図 その他の出土土器 VII



第43図 その他の出土土器 VII・その他の遺物  
 (518=瓦器 519=土垂 520~529=石製品 530=木炭,  
 531=板 532・533=鉄製品 534・535=中世陶器)



第44図 墨書

D 遺物一覧表

図示した遺物を割付順に一覧表に示した。内容に就いてはA地点出土の一覧表と同様なので27頁を参照されたい。

表7 B地点掲載遺物一覧表(単位: mm)

地 点 No	遺 物 No	出土位置	種 別	器 種	計 測				残存率 12分法	手 法	胎 土	焼 成	色		備 考	
					器高	口径	底径	最大径					表	内		
31	1 544	SK 1	土師器	カメA-4類	120				1	水挽	石叢	中	暗茶	黄白		
	2 545			カメB類					3	"	石粗	"	黄白	灰	腹部	
	3 543			カメB類			80		4	"	石叢	不	黄茶	黄茶	蓋化	
4	155	SK 2	須恵器	杯	120				3	"	石・長織	良	明灰	明灰		
5	120	"	"	杯2類	32	124	80		7	" 左ロクロ	"	"	暗茶	暗灰		
6	465		土師器	カメA-4類	110				1	ナダ	石叢	"	焦茶	明茶	灰化物	
7	7 45	SK 3	須恵器	杯3類	28	120	78		9	水挽	長・石叢	"	暗灰	暗灰		
8	119		"	"			75		6	"	石・長織	"	灰	灰		
9	419		土師器	カメB-2類	130		140		11	ハケメ・ハケメ	長粗	多	不	ベシム	黄白	蓋化・歪み
10	542		"	カメA-4類	150				2	水挽	石粗	良	白茶	白茶		
11	541		"	カメA-4類	140				1	"	石・長・雲龍	"	暗茶	明茶		

標記 No.	遺物 No.	出土位置	種別	器種	計測				現存率 12分法	手 法	胎 土	焼 成	色		備 考
					器高	口径	底径	最大径					表	内	
31	12	540	SK 3	土師器	カメA-2類		190		3	ハケメハラ調整・ヨコナデ	石・長粗・燻	良	ベージュ	ベージュ	
	13	74	SK 4	須恵器	坏 3 類	29	110	70	8	水洗	長・石微	中	暗灰	暗灰	
	14	49	"	"	坏 4 類	31	125	87	7	"	長・石微	中	灰	灰	
	15	47	"	土師器	カメB-2類		130		3	ハケメ・ヨコナデ	石・燻微	中	暗茶	明茶	
	16	464	"	"	カメA-4類		145		4	" ハケメ	石・長粗多	"	黒茶	明茶	炭化物
	17	546	"	"	"				3	ハラ調整	石粗・燻多	中	暗茶	白茶	腹部
	18	46	SK 5	須恵器	坏 2 類	32	120	80	6	水洗	長粗	良	灰	灰	
	19	47	"	"	坏 1 類	37	125	90	5	"	長微	"	"	"	
	20	173	"	"	碗 A 類		135		3	" ハラ調整	石・長・燻微	"	"	明灰	自然釉
	21	123	"	"	高台坏	33	124	80	7	" "右ロクロ	長粗・燻	"	"	暗灰	
	22	334	"	土師器	坏	37	130	70	6	"ハラ調整・右ロクロ	石・長・燻微	中	ベージュ	ベージュ	
	23	341	"	"	"				1	"	石・燻微	"	新・シ	新・シ	
	24	561	SK 7	"	カメB-1類		120		2	ヨコナデ	石・長粗多	"	ベージュ	ベージュ	
	25	564	"	"	カメA-5類					"	石粗	"	黒茶	黒茶	
	26	563	"	"	カメ		120		1	ヨコナデ	石微	"	ベージュ	ベージュ	口縁
	27	562	"	"	カメA-5類					" ハケメ	"	良	黒茶	黒	"
	28	566	"	"	カメA-5類					"	"	中	ベージュ	ベージュ	
	29	565	"	"	カメX類					"	"	中	暗茶	黒	腹に肉付片
	30	567	"	"	カメBX類			80	1	水洗	石・燻微	良	"	茶	
	31	133	SK 9	須恵器	坏蓋 1 類	29	156		10	"ハラ調整・左ロクロ	石・長粗	"	灰	灰	転用説
	32	327	"	"	坏	41	140	85	4	"	長・石粗	中	新・シ	新・シ	
	33	342	"	"	碗 2 類		130		2	"	石・長・燻	良	ベージュ	ベージュ	
	34	574	"	土師器	碗			60	3	回転削底・右ロクロ	長粗	中	茶	茶	
	35	573	"	"	カメBX類			65	2	水洗	石・長粗	良	暗茶	"	
	36	463	"	"	カメBX類			75	11	"	長・石粗多	中	ベージュ	明茶	
	37	526	"	"	ナベ 2 類		330		3	ハケメ・ナデ・ハケメ	石粗	"	"	黄白	"
	38	572	"	"	ナベ 2 類				0.5	"	石微	"	黄白	"	
	39	575	SK10	"	カメA-2類		250		2	ハケメ・平字日文	石粗	良	ベージュ	ベージュ	
	40	652	"	"	オハジキ		25		12	欠く	"	"	"	"	カメの腹部
32	41	85	SK12	須恵器	坏 2 類	36	138	100	3	水洗	長粗	中	薄灰	薄灰	
	42	194	"	"	碗B-3類				2	"ハラ調整・右ロクロ	燻・石・長微	良	灰	明灰	
	43	592	"	土師器	碗B-2類		110	50	1	"	石微	中	ベージュ	ベージュ	
	44	420	"	"	カメB-1類		140		3	"	石・長粗	"	"	"	腹化
	45	593	"	"	カメX類				"	"	石微	良	"	"	腹部片
	46	590	"	"	カメA-2類			220	2	ハケメ・ハケメ	石・長微	"	"	"	
	47	591	"	"	カメA-2類			220	1	" "	石・長微	"	"	"	
	48	538	SD 1	土師器	カメA-6類					ヨコナデ	石・長・燻粗	中	暗茶	"	
	49	539	"	"	カメA-6類					"	石微	良	茶	茶	
	50	537	"	"	ナベ 2 類					"	石粗	中	暗茶	黄茶	
	51	219	SD 2	須恵器	蓋 B 類		120		2	水洗	石・長・燻微	良	黒	暗灰	
	52	23	"	"	坏 1 類	33	124	85	11	"	長微	"	灰	灰	墨書
	53	28	"	"	坏 2 類	32	128	85	11	"	"	"	"	"	
	54	27	"	"	坏 1 類	33	130	85	6	"	"	"	"	"	
	55	530	"	土師器	カメA-5類			170	1	"	石・長微	中	ベージュ	薄茶	
	56	533	"	"	ナベ 2 類					ヨコナデ	石粗	"	茶	茶	
	57	535	"	"	ナベ 2 類					"	"	"	ベージュ	ベージュ	炭化物付着
	58	532	"	"	ナベ 2 類					ハケメ・ヨコナデ	石・長粗・燻	"	茶	茶	
	59	536	"	"	ナベ 2 類					ハケメ	石微	"	ベージュ	ベージュ	炭化物付着
	60	534	"	"	ナベ 2 類					ヨコナデ	石粗	"	茶	茶	
	61	340	"	"	碗A-2類		130		2	水洗	石・燻微	"	黒茶	黒茶	

種別	No.	遺物No.	出土位置	種別	新種	計測				残存率 12分法	手 法	胎 土	焼 成	色		備 考
						器高	口径	底径	最大径					表	内	
32	62	322	SD 2	土師器	碗 A 類			60		3	* 回転糸切・右口口	石・長散	良	灰茶	薄茶	
	63	522	"	"	カメB-4類		185		215	3	ヘラ・回転糸切・扇状文	石・長粗	中	暗茶	ベージュ	
	64	528	"	"	"						ヘラ調整・ハケメ	石・小細	中	白茶	黄白	
	65	531	"	"	カメA-2類		210			4	水洗	石粗・雜多	不	黄白	"	
	66	425	"	"	カメB X類				150	5	"	石・長粗	良	ベージュ	赤茶	肉厚
	67	456	"	"	カメB X類			75			* 回転糸切・右口口	石・長粗	中	"	茶	
	68	423	"	"	カメB-2類			80	134	6	" 静止糸切	石・長散	"	暗茶	明茶	
	69	529	"	"	カメB X類			70		2	"	石粗	"	ベージュ	黒茶	
	70	525	"	"	ナベ 2 類		380			2	ヨコナデ	石・長粗	"	黄白	黄白	
	71	527	SD 3	"	ナベ 2 類						ハケメ	"	"	ベージュ	薄茶	
	72	118	SD 4	須恵器	坏 2 類			70		4	水洗	長散	良	暗灰	暗灰	
	73	198	"	"	高台坏2類	39	116	68		2	" ヘラ調整	石・長粗	"	"	"	
	74	548	"	"	カメA-6類						ヨコナデ	石散	"	ベージュ	黒	炭化物付着
	75	551	"	"	カメA-6類						水洗	小雜多	不	黄白	白茶	風化
	76	550	"	"	カメA-3類			140		1	ヨコナデ	石粗・雜	良	薄茶	黒	
	77	549	"	"	カメA-4類			140		1	"	石・雲散	"	暗茶	明茶	炭化物付着
	78	29	SD 5	"	坏 1 類	32	130	80		5	水洗	長粗	中	明灰	明灰	
	79	312	"	土師器	碗A-2類	37	120	50		7	" 右口口	石・長粗	良	赤茶	赤茶	
	80	252	"	"	ナベ 2 類						"	石散	中	ベージュ	ベージュ	
	81	553	"	"	カメB X類			50		3	"	"	"	"	黄白	
	82	422	"	"	カメB-1類	110	108	65	114	8	"	石粗 多	"	黒茶	白茶	
	83	554	SD 6	"	カメA-3類			105		2	" ハケメ	"	良	ベージュ	ベージュ	
	84	557	"	"	カメB X類			60		3	ヘラ切り・ヨコナデ	石散	中	白茶	"	
	85	558	"	"	カメB X類			50		2	ヨコナデ	石粗	"	灰	"	
	86	555	"	"	カメA-5類						水洗	石・雲散	"	白茶	白茶	口縁片
	87	559	"	"	ナベ 2 類						ヨコナデ	石散	"	ベージュ	ベージュ	
	88	560	"	"	ナベ 2 類						"	石・長散	"	"	"	
	89	556	"	"	カメ					3	ヘラナデ上げ・ヨコナデ	石・長粗・雜多	"	"	"	
33	90	568	SD 7	"	ナベ 2 類		420			2	ハケメ・ハケメ	石粗・雜	良	"	"	
	91	5	"	須恵器	坏			88		3	水洗・左口口	長散	"	明灰	明灰	墨書
	92	30	SD 8	"	坏 2 類	36	128	85		7	"	長粗	"	灰	灰	"
	93	569	"	土師器	カメA-2類			230		2	"	石・長散	"	ベージュ	ベージュ	
	94	570	"	"	カメA-4類			160		1	"	石散	"	黒茶	白茶	
	95	571	"	"	カメB X類						ヘラ調整	"	"	薄茶	ベージュ	
	96	576	SD10	"	カメA X類					1	"	石粗	中	ベージュ	白茶	
	97	144	SD11	須恵器	坏蓋 2 類		145			8	水洗・ヘラ調整	石・長・雲粗	良	灰	明灰	
	98	6	"	"	坏 1 類	31	125	75		7	水洗	石・長散	"	"	灰	墨書
	99	10	"	"	坏 2 類			86		9	"	石散	"	"	"	"
	100	116	"	"	坏 1 類			70		6	"	石・長散	"	明灰	明灰	
	101	156	"	"	碗A-1類			70		12	ヘラ調整・左口口	"	"	灰	灰	墨書
	102	230	"	"	坏 1 類			90		5	水洗	長粗	"	"	"	
	103	48	"	"	坏 1 類	36	130	78		7	"	"	中	明灰	明灰	
	104	174	"	"	碗 A 類			150		3	水洗・ヘラ調整	石・長散	良	暗灰	暗灰	
	105	207	"	"	壺			90	200	9	緑色・格子目文・青輪紋文	石・長・雲散	"	黝黒	灰	自然釉・歪み
	106	577	"	土師器	カメB-1類		140			2	ハケメ・ハケメ	石粗 多	中	茶	明茶	炭化物付着
	107	586	"	"	カメB X類			100		2	ヘラ調整	石・長粗多	良	ベージュ	ベージュ	底部
	108	589	"	"	カメB X類			90		2	ハケメ	石粗	中	"	"	
	109	581	"	"	カメA-6類						ヨコナデ	石散	良	暗茶	暗茶	口縁部
	110	584	"	"	カメA-6類						"	"	"	茶	茶	
	111	582	"	"	カメA-6類						ヨコナデ	"	"	白茶	黒	炭化物付着

種別 No.	No.	遺物 No.	出土位置	種別	器種	計測			残存率 12分法	手法	胎土	焼成	色		備考		
						器高	口径	底径					最大径	表		内	
33	112	578	SD11	土師器	カメA-4類		120			1	ヨコナデ	石粗	良	暗茶	黄白	炭化物付着	
	113	585	"	"	カメA-6類							石微	"	ベージュ	ベージュ	"	
	114	583	"	"	カメA-6類						ヨコナデ	"	"	"	黒	"	
	115	580	"	"	カメA-6類						ハケメ	"	中	"	ベージュ	口縁部	
	116	579	"	"	カメA-6類						"	"	良	"	"	"	
	117	587	"	"	カメB X類			50		3	ヘラ削り	"	"	"	"	"	
	118	588	"	"	カメB X類			50		3	ヘラ調整	長粗	"	"	茶	茶	
	119	524	SD12	"	カメA-2類			210		4	ハケメ・ヨコナデ	石微	中	ベージュ	ベージュ	"	
	120	210	"	須臾器	カメ							椅子目文・青海紋文	石・長・雲微	良	灰	灰	
	121	117	"	"	環1類			80		3	水洗	石・長微	"	暗灰	暗灰		
	122	112	"	"	環			80		5	" 右ロクロ	"	"	灰	灰		
	123	217	SD13	"	壺A類					3	"	"	"	中	"	"	
	124	32	"	"	環1類	35	115	80		6	"	長微	不	白灰	白灰		
	125	33	"	"	環1類	35	120	84		8	"	"	"	"	"	"	
	126	140	"	"	環蓋1類		165			10	ヘラ調整・左ロクロ	長・石・雲微	"	灰茶	薄茶		
	127	130	"	"	環蓋3類	22	125			9	"	"	"	良	明灰	明灰	
	128	168	"	"	甕A-2類			80		3	"	雲・石微	"	暗黒	薄灰	自然釉	
	129	594	"	土師器	カメA-4類			160		2	ハケメ	石・雲微多	"	ベージュ	ベージュ		
	130	595	"	"	カメB X類			100		4	"	石・長粗	中	白灰	黄白		
131	172	SD14	須臾器	甕A-2類	66	125	65		6	水洗・左ロクロ	石・長粗・微	良	灰	灰			
34	132	208	SD15	"	壺B類		90		190	4	ハケメ	石・長・雲微	"	暗黒	"	自然釉	
	133	143	"	"	環蓋3類		160		7	" ヘラ調整	石・長微	"	灰	灰	転用痕		
	134	146	"	"	環3類		144			6	"	石粗・微	"	"	"	"	
	135	34	"	"	環4類	32	120	75		10	水洗	長粗	"	"	"	"	
	136	115	"	"	環2類			80		3	回転糸切	石・長粗	不	薄灰	薄灰		
	137	121	"	"	高台環3類	35	124	72		7	ヘラ調整・右ロクロ	長粗・微	良	灰	灰	墨書	
	138	177	"	"	甕B-2類	45	104	56		11	左ロクロ	長・石粗	"	灰	灰		
	139	181	"	"	甕B-3類	49	114	64		6	右ロクロ	石・長粗	"	暗灰	暗灰		
	140	338	"	土師器	甕	34	120	64		2	水洗	"	中	黄白	黄白		
	141	339	"	"	"		40	135	85	5	"	石・長微	良	赤茶	赤茶		
	142	597	"	"	"					"	"	石微	不	ベージュ	ベージュ		
	143	596	"	"	"					"	"	"	"	茶	茶		
	144	319	"	"	"					"	右ロクロ	石・長・雲粗	中	ベージュ	ベージュ		
	145	606	"	"	"			70		3	水洗・回転糸切	石微	良	"	"		
	146	601	"	"	ナベ2類					"	"	"	中	黄白	黄白		
	147	598	"	"	カメA-3類			80		1	水洗	"	"	"	ベージュ	ベージュ	
	148	600	"	"	カメA-5類					"	"	"	"	白茶	白茶		
	149	599	"	"	カメA-5類					"	"	"	"	黒茶	黒茶		
	150	602	"	"	カメA X類					2	ヘラ削り・ハケメ	石・雲粗	良	白茶	白茶	腰部	
	151	603	"	"	カメB X類					2	水洗	石微	"	薄灰	ベージュ	"	
152	336	"	"	"			75		7	回転糸切・右ロクロ	長・石粗	中	ベージュ	ベージュ			
153	605	"	"	カメB X類			80		3	"	石粗	良	茶	茶			
154	604	"	"	カメB X類			75		4	回転糸切	石粗	"	ベージュ	ベージュ			
155	221	SD16	須臾器	甕			130		6	水洗・ヘラ削り	石・長・雲微	"	暗灰	青灰	円面破		
156	222	"	"	壺				108	12	水洗	石・長・雲微	良	黒灰	青灰	高台部		
157	35	"	"	環1類		120	70		2	"	長微	不	白灰茶	白灰茶	炭化物付着		
158	122	"	"	高台環3類	35	124	72		9	ヘラ調整・右ロクロ	長粗・微	中	薄灰	薄灰	墨書		
159	337	"	土師器	環			65		5	水洗 回転糸切	石・長粗	"	ベージュ	ベージュ			
160	329	"	"	甕A-2類	40	137	68		10	"	石・長粗多	"	薄茶	薄茶			
161	317	"	"	甕A-2類	40	130	60		8	水洗・左ロクロ	石・長・雲粗	良	ベージュ	"			



種別 No.	No.	遺物 No.	出土位置	種別	器種	計測				残存率 12分法	手 法	結 土	焼 成	色		備 考	
						器高	口径	底径	最大径					表	内		
34	162	331	SD16	土師器	甕A-2類	36	138	70		3	緑・黒粘・右口ク	石・長・雲散	中	ベージュ	ベージュ		
	163	333	"	"	環			60		5	" ヘラ起シ	石・長・雲粗	"	薄茶	薄茶		
	164	332	"	"	甕			65		12	黒粘・粘・右口ク	石・長散	"	ベージュ	ベージュ		
	165	320	"	"	カメB-1類		130			4	"	石・長散	"	"	"		
	166	611	"	"	カメA-6類					"	"	石散	"	黒茶	黒茶	口縁部	
	167	610	"	"	カメA-6類					"	"	"	"	良	ベージュ	ベージュ	炭化物付着
	168	613	"	"	ナベ2類					"	ヨコナデ	石粗	中	"	"		
	169	609	"	"	カメA-6類					"	"	石散	"	"	"	口縁部	
	170	421	"	"	カメB-1類		120		138	11	水洗	石粗	良	白茶	白茶	炭化物付着	
	171	607	"	"	カメA-2類		200			2	ヨコナデ	"	不	"	ベージュ		
	172	608	"	"	カメA-2類		220			1	"	石・長粗	中	白茶	白茶		
	173	612	"	"	カメB-X類				100	2	水洗・ハケメ	良	ベージュ	ベージュ	靱帯		
	174	614	"	"	カメB-X類				110	"	"	石散	"	黒茶	黒茶		
	175	615	"	"	カメB-X類					3	"	石・長粗	"	灰茶	白茶		
	176	616	"	"	カメB-X類			80		3	"	"	"	暗茶	ベージュ		
	177	617	"	"	カメB-X類			90		4	"	石粗	"	黒茶	黒茶		
	35	178	160	SD17	須恵器	坏蓋					5	" 右口ク	長散	"	灰	灰	上層片
179		24	"	"	坏2類			85		10	"	長粗	中	明灰	明灰	剝離	
180		36	"	"	坏3類	31	125	90		6	"	石・長・雲散	良	灰	灰		
181		101	"	"	坏2類	30	118	80		7	" 左口ク	長散	"	"	明灰		
182		328	"	土師器	坏	30	120	75		5	水洗・粘・粘・右口ク	石・長散	中	ベージュ	ベージュ		
183		343	"	"	"	38	128	74		3	"	石・長・雲散	"	ベージュ	ベージュ		
184		330	"	"	甕			58		3	" 右口ク	石・長散	"	薄茶	薄茶		
185		622	"	"	"			60		3	回転糸切・右口ク	石散	"	ベージュ	ベージュ		
186		621	"	"	カメB-X類			50		2	"	"	"	"	暗茶		
187		620	"	"	カメB-X類			60		2	" 右口ク	石粗	不	黄白	黄白		
188		618	"	"	カメA-2類		200			1	ハケメ・ハケメ	石・長粗	良	ベージュ	ベージュ		
189		619	"	"	カメC類		170			1	緑寄文(沈線)	石・長粗・中	"	"	"	風化	
190		135	SD18	須恵器	坏蓋2類	27	130		135	8	水洗・ハケメ・粘・右口ク	長散	良	肌白	灰	墨書	
191		40	"	"	坏1類	32	120	85		3	水洗	石・長散	"	灰	灰		
192		37	"	"	坏2類	33	125	87		5	"	長粗	"	"	"		
193		38	"	"	坏1類	30	125	80		9	"	長粗	中	"	"		
194		39	"	"	坏3類	29	120	75		6	"	長・石散	良	"	"		
195		158	"	"	甕A-2類	70	142	85		12	" 左口ク	石・長・雲散	"	暗灰	"	自然釉	
196		632	"	土師器	カメA-5類					"	"	石粗	不	薄茶	黒	炭化物付着	
197		627	"	"	カメA-5類					"	ハケメ・ハケメ	石散	中	薄茶	黒	炭化物付着	
198		626	"	"	カメA-4類		180			1	ヨコナデ	石粗	"	黄白	黄白		
199	633	"	"	カメA-4類		160			"	水洗	石散	良	茶	茶			
200	636	"	"	カメB-X類					3	ヨコナデ	石粗・雜	"	黒茶	ベージュ	縁部		
201	335	"	"	坏			60		12	" ヘラ起シ・右口ク	石・長粗	中	黄白	黄白			
202	624	"	"	カメA-2類		220			2	ハケメ・ハケメ	石・長粗・雜	良	白茶	白茶			
203	625	"	"	カメA-2類		195			2	" ナデ	"	中	黄白	ベージュ			
204	628	"	"	カメA-5類					"	水洗	石粗	"	暗茶	白茶			
205	629	"	"	カメA-6類					1	"	石・長粗	良	ベージュ	暗茶			
206	631	"	"	カメA-6類		120			"	"	石散	"	"	茶			
207	630	"	"	カメA-6類					"	"	石・長・雲散	中	暗茶	暗茶	炭化物付着		
208	634	"	"	カメA-6類					"	水洗	石・雲散	良	黄白	ベージュ			
209	635	"	"	カメA-6類					"	"	"	"	ベージュ	"			
210	637	"	"	カメB-X類					"	ヨコナデ	石粗	"	暗茶	"			
211	623	"	"	ナベ2類		360			4	ハケメ・ハケメ・ハケメ	石粗 多	中	ベージュ	"	炭化物		

種別 No.	No.	通物 No.	出土位置	種別	器種	計測			残存率 12分法	手法	胎土	焼 成	色 表 内		備考	
						器高	口径	底径					最大径			
35	212	638	SD18	土師器	カメBX類					“ 甲字回文 ”	石・長粗	良	ベージュ	明茶	丸底	
	213	100	SD20	須恵器	坏 2 類	35	130	85	5	水洗	長粗	“	灰	灰		
	214	41	“	“	坏 1 類	30	120	70	4	“	“	中	“	“	灯明皿に転用	
	215	44	“	“	坏 2 類	35	126	80	9	“	長・石粗	良	“	“	灯明皿に転用	
	216	42	“	“	坏 1 類	30	130	70	6	“	長粗	不	薄灰	薄灰	灯明皿に転用	
	217	17	“	“	坏 2 類			80	6	“	長微	良	灰	灰	墨書	
	218	305	“	土師器	碗	50	160	54	9	“ スリップ・右ロクロ	石・長・雲微	不	ベージュ	薄茶		
	219	307	“	“	碗B-1類	39	132	50	4	“ “	“ 多	良	“	ベージュ		
	220	344	“	“	坏										細片	
	221	639	“	“	カメA-6類					水洗	長微	中	ベージュ	明茶	口縁部	
	222	646	“	“	カメB-X類				162	1	“ ヘラ調整	石微	“	白茶	白茶	
	223	641	“	“	“						指門瓦紋・海城文	“	灰	ベージュ		
	224	416	“	“	カメB-1類	105	65	105		8	ハケ目	石・長粗多	“	白茶	“	小磯多
36	225	137	d57-9	須恵器	坏蓋 2 類	26	137		140	10	水洗・ヘラ調整・左ロクロ	石・長・雲微	良	灰	灰	
	226	132	e59-18	“	坏蓋 1 類	26	155			9	“ “ “	石・長粗	“	“	“	
	227	134	e59-10	“	坏蓋 1 類	32	155			8	“ “ “	“	“	“	転用破	
	228	141	e59-1	“	坏蓋 2 類	34	152		156	8	“ “ “	長・石微	“	“	“	
	229	138	c59-12	“	坏蓋 2 類	39	140		145	5	“ “ “	長・石粗・細	“	明灰	明灰	
	230	136	e59-5	“	坏蓋 1 類	27	132		136	9	“ “ 右ロクロカ	石・長・雲微	“	灰	灰	
	231	149	e57-4	“	“							“	“	“	“	
	232	148	e59-3	“	“							“	“	“	ツマミ部分	
	233	128	e59-21	“	坏蓋 1 類	32	150			8	水洗・ヘラ調整・右ロクロ	石・長粗	“	明灰	明灰	
	234	131	e58-10	“	坏蓋 2 類	31	155		162	6	水洗・ヘラ調整・右ロクロ	石・長・雲微	“	明灰	明灰	転用破
	235	129	e58-7	“	坏蓋 2 類	39	175		180	8	“ “ “	石・長微	“	灰	灰	墨書文・内付墨書
	236	147	e59-7	“	坏蓋 2 類		140			2.5	“ “ “	“	“	“	“	自然輪
	237	139	d58-21	“	坏蓋 2 類		126			6	“ 左ロクロ	長・石粗	“	暗茶	“	“
	238	151	c58-21	“	坏蓋 2 類		145		150	3	“ “ “	長微	不	白茶	灰茶	黒化
	239	145	e58-9	“	坏蓋 1 類		160			5	“ “ 沈線文	“	“	黄白	黄白	
	240	142	e59-8	“	坏蓋 1 類		170			8	“ “ “	長粗	良	灰	灰	転用破
	241	153	上2	“	坏蓋 2 類		150		160	1	“ “ “	長微	“	“	“	細片
	242	154	“	“	坏蓋 3 類		150			1	“ “ “	石粗	“	明灰	明灰	“
	243	152	e58-19	“	坏蓋 3 類		160			2	“ “ “	石・雲・長微	“	“	“	灰・黒
	244	64	d58-5	“	坏 1 類	35	120	85	7	水洗	長・石微	“	灰	灰	歪み	
	245	61	e60-16	“	坏 1 類	34	115	72	7	“	長微	“	暗灰	“	“	
	246	2	c58-5	“	坏 1 類	31	115	70	3	“ 左ロクロ	長・雲粗	中	白灰	白灰	墨書	
	247	97	d59-5	“	坏 1 類	32	125	90	6	“	長粗	“	薄灰	薄灰	“	
	248	66	c57-25	“	坏 1 類	30	125	80	7	“	長微	良	灰	灰	“	
	249	99	e57-4	“	坏 1 類	27	105	60	5	“	石・長粗	“	暗灰	暗灰	小型	
	250	7	d59-14	“	坏 2 類	33	122	85	7	“	長粗	“	暗灰	灰	墨書	
	251	25	d58-10	“	坏 3 類	30	130	90	6	“	石・長微	中	明灰	明灰	“	
	252	15	“	“	坏 2 類	32	125	95	11	“	長・微	良	“	灰	“	
	253	11	e58-17	“	坏 2 類		85		4	“	長微	“	暗灰	暗灰	“	
	254	106	e58-21	“	坏 3 類	30	122	85	7	“	長粗・微	“	灰	明灰	“	
	255	95	d59-10	“	坏 3 類	30	115	75	5	“	長・石微	“	暗灰	灰	“	
	256	60	d59-16	“	坏 2 類	33	125	85	6	“	長微	“	灰	“	“	
	257	89	e59-7	“	坏 2 類	34	130	84	7	“	石・長微多	中	薄灰	薄灰	“	
	258	83	e59-10	“	坏 2 類	37	135	90	8	“	長微	不	白茶	白茶	墨書	
	259	4	c57-17	“	坏 3 類	30	120	80	3	“	長粗	中	明灰	白灰	墨書	
	260	69	d59-9	“	坏 3 類	31	122	85	8	“	長・石粗	良	灰	灰・黒	“	
	261	96	c58-20	“	坏 2 類	32	115	82	2	“ 右ロクロ	長粗	中	薄灰	薄灰	“	

棟 号	No	建物 No	出土位置	種 別	器 種	計 測				現存率 12分法	手 法	胎 土	焼 成	色		備 考
						器高	口径	底径	最大径					表	内	
36	262	94	c 60-21	須恵系	坏 3 類	30	122	76		7	水挽	長・石散	良	灰	黒	蓋み
	263	55	d 59-12	"	坏 3 類	28	117	75		9	"	長粗	"	"	灰	
	264	8	d 59-10	"	坏 2 類	32	132	93		10	"	長・雜	"	"	"	墨書
	265	93	d 68-10	"	坏 2 類	33	120	80		4	"	長・石散	"	"	黒	
	266	80	e 57-24	"	坏 2 類	35	130	88		5	"	"	"	"	灰	
	267	3	c 59-25	"	坏 3 類	30	130	90		3	左口クロ	長・雜粗	明灰	明灰	墨書	
	268	111	c 58-25	"	坏 2 類	34	120	85		6	右口クロ	長・石散	"	灰	灰	
	269	114	d 58-5	"	坏 2 類	31	120	85		6	"	長粗	不	薄灰	薄灰	灯明皿に転用
	270	14	d 59-10	"	坏 1 類	31	130	110		4	"	長微	中	明灰	明灰	墨書
	271	50	d 59-14	"	坏 3 類	31	120	80		12	"	長・石散	良	灰	灰	
	272	84	d 59-15	"	坏 2 類	36	125	80		8	右回転糸切	長粗	不	白茶	白茶	
37	273	70	c 59-22	"	坏 2 類	33	120	85		6	"	長・石散	良	灰	灰	墨書
	274	67	d 59-14	"	坏 3 類	28	115	75		8	"	"	"	"	"	
	275	82	e 59-15	"	坏 2 類	35	120	75		6	"	長微	"	"	暗灰	
	276	63	d 59-9	"	坏 2 類	33	118	70		4	"	長・石散	"	"	暗灰	
	277	9	e 59-10	"	坏 2 類			85		12	"	長粗	"	灰	灰	墨書
	278	98	e 59-10	"	坏 2 類	32	124	80		6	"	"	"	"	"	
	279	79	d 59-12	"	坏 3 類	30	120	80		4	"	長・石散	"	"	"	
	280	76	e 59-7	"	坏 2 類	33	122	80		9	"	長微	中	"	"	蓋み
	281	26	d 59-10	"	坏 2 類	32	125	85		10	"	"	良	暗灰	暗灰	
	282	73	d 58-6	"	坏 2 類	31	125	85		7	"	長・石散	"	灰	灰	
	283	104	e 59-1	"	坏 1 類	32	130	85		5	"	"	"	灰・黒	"	
	284	58	d 59-12	"	坏 2 類	35	128	90		8	"	石灰炭質粒	中	薄灰	薄灰	
	285	109	e 58-7	"	坏 3 類	28	120	78		6	"	長・石散	良	灰	灰	
	286	59	e 58-19	"	坏 2 類	33	118	65		10	"	長粗質	"	"	"	
	287	108	d 59-9	"	坏 5 類	29	125	80		7	"	長・石散	"	"	"	
	288	81	c 59-21	"	坏 4 類	30	132	70		5	"	"	"	"	"	
	289	56	e 58-19	"	坏 4 類	36	125	70		7	"	長粗	"	明灰	明灰	
	290	77	c 59-2	"	坏 2 類	33	126	80		11	"	長・石散	"	灰	灰	
	291	72	d 57-19	"	坏 5 類	30	120	70		4	"	"	"	"	"	
	292	54	e 58-3	"	坏 4 類	31	120	70		7	"	長粗	"	"	"	蓋み
	293	78	d 58-23	"	坏 4 類	29	115	70		1	"	長・石散	"	"	"	
	294	68	c 60-20	"	坏 4 類	34	124	75		12	"	長・石粗	"	"	"	灯明皿
	295	105	d 57-10	"	坏 5 類	30	125	72		7	"	長微	中	薄茶	薄茶	
	296	90	c 59-24	"	坏 4 類	34	140	85		5	"	長粗・雜	"	明灰	明灰	
	297	87	d 57-25	"	坏 4 類	37	125	60		5	"	長微	"	"	"	
	298	57	c 59-22	"	坏 4 類	38	132	85		9	右口クロ	長粗	良	薄灰	薄灰	
	299	102	c 58-13	"	坏 5 類	30	120	65		7	"	長微	"	"	"	薄塗り
	300	52	e 58-19	"	坏 4 類	32	130	75		4	"	"	"	明灰	明灰	
	301	91	c 60-20	"	坏 5 類	28	120	70		7	"	長・石粗・雜	"	灰	灰	
	302	88	d 57-9	"	坏 4 類	32	125	70		6	"	長微	中	明灰	明灰	
	303	53	d 57-14	"	坏 5 類	30	120	70		7	"	長粗	良	灰	灰	
	304	86	d 57-9	"	坏 5 類	25	124	75		11	"	長・石粗少	中	明灰	明灰	
	305	103	c 57-24	"	坏 5 類	24	132	80		7	"	長微	良	"	"	
	306	62	d 58-23	"	坏 3 類	30	120	88		4	"	長・石散	"	灰	灰	
	307	110	e 57-9	"	坏 4 類	32	106	60		5	"	長・石粗	"	"	"	
	308	92	d 59-16	"	坏 1 類	29	120	82		3	"	長・石散	"	"	"	
	309	75	e 59-16	"	坏 2 類	32	118	80		4	"	長微	"	明灰	明灰	
	310	51	e 60-2	"	坏 3 類	31	122	85		12	"	"	"	灰	灰	
	311	20	e 59-10	"	坏 2 類			90		4	"	長・石散	"	"	"	墨書

緯度No	No	遺物No	出土位置	種別	器種	計測				残存率 12分法	手 法	胎 土	焼 成	色		備 考			
						器高	口径	底径	最大径					表	内				
37	312	107	e 59-10	須恵系	坏 3 類	31	122	73		5	水洗	長・石散	良	灰	灰				
	313	113	d 60-1		坏 2 類				84	4	"	長散	"	薄灰	薄灰				
	314	197	d 59-18		高台坏3類	30	110	64		3	"	へら調整	"	石・長粗	"	灰			
	315	126	e 59-3		高台坏1類			120		6	"	"	"	石・長散	"	暗灰	暗灰		
	316	124	c 59-1		高台坏1類	40	122	62		5	"	"	"	長粗	"	灰	一部焼成不良		
	317	127	c 59-17		高台坏1類	36	108	65		3	"	"	"	石・長散	"	暗灰	灰		
	318	199	c 57-4		高台坏1類			112		5	"	"	"	石・長粗	"	明灰			
	319	125	d 57-10		高台坏3類				80	5	"	"	"	石・長散	中	"	明灰		
	320	176	d 59-14		碗B-1類	44	104	62		10	"	右口クロ	實・石・長散	良	灰	"	墨書		
	321	186	e 59-18		碗B-1類	51	100	64		10	"	左口クロ	石・長散	"	明灰	"			
	322	182	d 59-6		碗B-1類	50	100	62		4	"	"	"	"	灰	灰			
	323	178	d 59-14		碗B-1類	47	102	62		9	"	"	"	良	暗灰	暗灰			
	324	183	c 59-22		碗B-2類	49	100	55		5	"	"	"	"	灰	明灰			
	325	180	c 57-24		碗B-2類	47	110	52		8	"	"	"	"	"	"	"		
	326	196	d 59-12		碗B-3類			70		3	"	"	"	"	"	灰			
	327	189	d 58-13		碗B-2類			60		12	"	左口クロ	石・長・雲散	"	薄灰	"			
	328	190	d 58-9		碗B-3類			64		12	"	"	"	"	灰	"			
	329	192	d 57-14		碗B-1類			64		5	"	"	"	石・長・雲粗	"	"	"		
	330	191	d 58-25		碗B-1類			50		6	"	"	"	長・石粗	"	暗灰	"		
	331	193	c 59-17		碗B-1類			64		12	"	"	"	石・長散	"	灰	"		
	38	332	175	c 58-24		碗B-3類	50	97	60		5	"	"	石・長・雲散	"	"	"	墨書	
		333	187	e 57-15		碗B-3類	52	100	60		9	"	"	長・石粗	"	青灰	青灰		
		334	188	c 58-22		碗B-3類	50	100	55		6	"	"	石・長・雲散	"	明灰	明灰	底部欠失	
		335	184	d 58-21		碗B-1類	48	110	70		5	"	"	"	"	灰	灰		
		336	179	c 57-25		碗B-1類	50	112	60		10	"	"	"	石・長散	"	明灰	明灰	
		337	185	d 59-15		碗B-2類	52	110	62		4	"	"	"	"	"	"	"	
		338	166	c 57-17		碗A-3類			90		5	"	左口クロ	長・石・雲散	"	暗灰	明灰	自然釉	
		339	165	e 59-10		碗A-1類	69	144	85		2	"	"	"	長・石粗	"	黒	灰	
		340	164	d 57-20		碗A-1類	68	135	78		6	"	左口クロ	長粗・織	"	暗灰	"		
		341	161	c 59-11		碗A-2類	69	135	85	137	7	"	"	"	石・長・雲散	"	明灰	明灰	
		342	159	d 59-1		碗A-2類	72	145	90		9	"	"	"	長・石散	"	黒・灰	灰	
343		171	c 58-13		碗A-3類	60	128	74		12	"	"	"	長・石・雲粗	"	黝黒	青灰	自然釉・伏焼	
344		157	e 58-7		碗A-1類			90		3	"	"	"	長散	"	灰	灰	墨書	
345		162	e 57-15		碗A-2類	70	148	84		5	"	"	"	石・長・雲散	"	黝黒	明灰	自然釉	
346		163	d 59-3		碗A-3類	81	140	85		5	"	"	"	"	"	暗灰	"	"	
347		167	e 59-4		碗A-3類			90		4	"	"	"	"	"	灰	"	"	
348		160	e 57-9		碗A-2類			85		10	"	"	"	長・石散	"	"	灰		
349		170	d 57-9		碗AX類			140		4	"	"	"	長・石・雲粗	"	"	"		
350		169	d 59-15		碗AX類			150		4	"	"	"	石・長・雲散	"	"	"		
351		200	e 58-16		碗 特殊	75	120	70		6	"	へら調整	"	石・長粗	"	黝黒	黝黒	自然釉・砂カブリ	
352		213	e 59-10								"	"	"	石・長・雲散	"	暗灰	暗灰		
353		214	上 2		オハジキ			22			"	打ち欠	"	"	"	"	"	釜片より	
354		201	c 59-13		釜 A 類	126	55	55	97	12	水洗	へら調整	長・石粗多	"	薄灰	灰			
355		202	d 59-10		釜 A 類				114	9	"	しぼり調整	石・雲粗多	"	黝黒	明灰	灰		
356		212	d 59-6		釜 A 類			50		5	"	ハケメ	石・長・雲散	"	黒	暗灰			
357		220	上 2						102	3	"	"	"	"	"	明灰	灰	網部	
358		216	d 59-24		釜 A 類					3	"	"	"	石・長散	不	暗灰	暗灰		
359	218	d 58-12		釜 A 類					3	"	"	"	良	明灰	明灰				
360	215	d 59-23		釜 A 類					12	"	"	"	"	黒	明灰	黒			
361	203	d 60-1		釜 A 類				170	6	"	"	"	長・石粗・織	"	暗灰・黒	明灰	自然釉		

採 取 No	No	産物 No	出土位置	種 別	器 種	計 測				現存率 12分法	手 法	胎 土	焼 成	色		備 考
						器高	口径	底径	最大径					表	内	
38	362	204	d58-6	須恵器	畫 A 類			105	172	8	ヘラ調整	雲・石・長散	良	靑灰	明灰	
	363	113	d57-20	"	畫 X 類			95	175	12	" 押印	石・長・雲散	"	明灰	明灰	
	364	209	e57-10	"	横 瓶	130				7	水洗・格子目文・背線文	石・長・雲散	"	灰	灰	
	365	211	d57-5	"	"						背印目文・同心目文	"	"	暗灰	"	
39	366	383	d57-15	土師器	ナベ1類	420				1	ハケメ	石・長粗	不	黄白	黄白	風化
	367	503	e59-8	"	ナベ1類	420				4	ナデ	石・長粗多	"	ベージュ	ベージュ	
	368	381	d59-16	"	ナベ1類	360				1	ハケメ・ハケメ	石散	良	"	"	
	369	372	e58-16	"	ナベ1類	390				1	"	石・長粗多	中	黄白	黄白	風化
	370	506	d59-16	"	ナベ3類	380				1	ヘラ調整・ヨコナデ	石散 多	"	ベージュ	ベージュ	
	371	365	e57-9	"	ナベ3類	420				1	ハケメ・水洗	石・長粗	不	白灰	白灰	
	372	364	d58-22	"	ナベ2類	370				2	水洗・ハケメ	石・長・雲粗	"	茶	茶	
	373	382	d58-22	"	ナベ3類	355				1	ハケメ	石・長粗	良	ベージュ	ベージュ	
	374	363	d58-10	"	ナベ2類	408				1	" 平行印目文	石・長・雲粗	不	ベージュ	ベージュ	
	375	380	d57-19	"	ナベ2類	360				1	" ハケメ	石粗	中	"	"	
	376	360	d57-4	"	ナベ2類	390				3	" 平行印目文	石・長粗	不	黄茶	黄茶	
	377	367	c60-20	"	ナベ3類	360				1	" スリップ	石・長・雲粗	"	白灰	黄白	
	378	361	c57-15	"	ナベ3類	400				1	" ハケメ	石・長粗	"	黄白	"	
	379	366	d57-14	"	ナベ3類	360				1	水洗	石・長・雲粗	"	白茶	白茶	
	380	362	d59-16	"	ナベ3類	400				1	"	石・長粗	"	ベージュ	薄茶	
	381	505	e57-4	"	ナベ3類	460				2	ハケメ	石・長・雲散	中	ベージュ	"	
	382	368	"	"	ナベ3類	380				1.5	"	石・長・雲粗	"	"	"	
	383	371	d57-10	"	ナベ3類	390				1	"	石散	"	黄白	白茶	
	384	504	d57-24	"	ナベ3類	410				1	"	石・長粗	良	ベージュ	ベージュ	
	385	376	d59-9	"	ナベ3類	400				1	ヨコナデ	石・長・雲粗多	"	白茶	白茶	
	386	377	c59-10	"	ナベ3類	400				1	"	石・長・雲粗多	"	良	薄茶	薄茶
	387	373	d59-5	"	ナベ3類	350				1	" ハケメ	" 多	中	"	"	
	388	374	"	"	ナベ3類	420				1	ハケメ・ヨコナデ	"	良	"	"	
	389	375	c59-5	"	ナベ3類	320				2	ヨコナデ	"	中	ベージュ	ベージュ	
	390	369	d59-5	"	ナベ3類	400				1.5	ハケメ・ハケメ	石・長・雲粗	"	薄茶	薄茶	
	391	370	e58-9	"	ナベ3類	370				1	" ヨコナデ	"	"	ベージュ	ベージュ	
	392	378	d58-13	"	ナベ2類	320				1	水洗	石・長散	良	"	"	
	393	379	e58-5	"	ナベ2類	360				1	ヨコナデ	石粗	中	"	"	
	394	388	e58-9	"	ナベX類			420		2	羽調目文・ナメ・縦溝文	石・長・雲粗	不	ベージュ	スス	
	395	389	d57-9	"	ナベX類					2	平行印目文・ハケメ	石・長粗	良	"	"	
	396	390	e58-11	"	ナベX類					2	ハケメ・ヘラ調整・ハケメ	"	"	黒	スス	
	397	387	e58-9	"	ナベ3類						ハケメ	"	"	白茶	赤茶	内面スス
	398	385	e57-9	"	ナベ1類						ハケメ	石・長粗	中	ベージュ	ベージュ	
	399	386	d58-11	"	ナベ1類						ハケメ	石・長散	"	ベージュ	"	内面スス
	400	384	d57-20	"	ナベ1類						ハケメ	石・長・雲散	"	黄白	黄白	風化
40	401	493	d59-5	"	カメA-2類	195				2	水洗	石・長・雲粗	"	暗茶	薄茶	
	402	485	"	"	カメA-2類	210				2	"	石粗	良	黄白	黄白	
	403	486	上 2	"	カメA-2類	200				2	"	石散	不	"	"	
	404	496	d58-21	"	カメA-2類	240				2	ハケメ・ハケメ	石粗・小粒	良	ベージュ	暗茶	
	405	494	d58-11	"	カメA-2類	200				2	"	石・長・雲粗	中	"	ベージュ	
	406	495	c58-20	"	カメA-2類	210				2	ハケメ	"	"	"	"	
	407	481	d58-12	"	カメA-2類	200				2	ハケメ・ナデ	石粗	不	"	"	風化
	408	482	c58-25	"	カメA-2類	230				2	ナデ	石・雲粗多	"	黄白	黄白	
	409	484	d57-20	"	カメA-2類	220				2	水洗	石粗	良	明茶	明茶	
	410	488	d59-6	"	カメA-2類	198				1	"	石散	中	白茶	白茶	
	411	501	d59-9	"	カメA-2類	220				1	ハケメ・ハケメ	石粗	良	黄茶	ベージュ	

標 記 No.	No.	遺物 No.	出土位置	種 別	器 種	計 測				残存率 12分法	手 法	胎 土	焼 成	色		備 考	
						器高	口径	底径	最大径					表	内		
40	412	499	c 57-24	土師器	カメA-2類	180				1	ハケメ・ハケメ	石粗	不	黄白	黄白		
	413	483	d 57-25	"	カメA-2類	240				2	ナデ・ハケメ	石・長微	良	黄白	黄白		
	414	498	d 59-21	"	カメA-2類	220				1	ハケメ	石・長微	中	薄茶	薄茶		
	415	479	e 58-10	"	カメA-2類	185				3	ハケメ	"	"	黄茶	黄白		
	416	480	d 58-12	"	カメA-2類	220				2	ハケメ・ハケメ	石・長粗	不	黄白	黄白		
	417	487	d 59-15	"	カメA-2類	210				1	"	石・長・雲微	中	"	"		
	418	491	d 57-24	"	カメA-2類	210				2	"	石・長粗	"	"	"		
	419	497	d 58-11	"	カメA-2類	220				3	"	石・長粗多	"	薄茶	薄茶		
	420	478	c 57-14	"	カメA-2類	240				2	ナデ	石・長・雲微	良	"	薄茶		
	421	492	d 58-7	"	カメA-2類	200				2	ハケメ	"	中	茶	"		
	422	516	d 57-24	"	カメA X類						平行印目文	石微	"	薄茶	灰茶		
	423	518	c 57-14	"	カメA X類						ハケメ	石・長微	"	薄茶	薄茶		
41	424	418	d 58-6	"	カメ X類	160				4	へう調整	雲・石微多	良	黒茶	黒茶	風化	
	425	407	c 59-21	"	カメA-3類	120				2	水洗	石微	"	薄茶	薄茶		
	426	402	d 59-6	"	カメA-3類	135				2	水洗	"	"	"	"	炭化物	
	427	403	e 54-2	"	カメA-3類	140				2	へう削り	石・長粗	中	"	"		
	428	405	e 59-9	"	カメB-1類	120				2	"	石・長微多	良	黒茶	黒茶		
	429	396	e 58-25	"	カメA-3類	150				2	水洗・ハケメ	石・長・雲微多	中	薄茶	白茶	炭化物	
	430	412	e 57-9	"	カメA-3類	124				2	水洗	石・長微	"	薄茶	薄茶		
	431	401	e 59-10	"	カメB-1類	120				2	"	石・長粗	中	黄白	黄白		
	432	397	d 58-5	"	カメA-3類	130				2	ハケメ	石・長・雲微	"	薄茶	黄白	風化	
	433	409	e 58-7	"	カメA-4類	150				2	沈 締	石・長粗	"	薄茶	薄茶	炭化物	
	434	408	d 58-25	"	カメA-4類	140				3	ハケメ・ヨコナデ	石・長・雲粗	"	薄茶	薄茶		
	435	462	c 60-21	"	カメA-4類	145				5	"	石・長・雲微	"	"	"	炭化物	
	436	404	e 59-7	"	カメB-2類	120				1	水洗	石微 多	"	黒茶	白茶	"	
	437	410	表 採	"	カメB-1類	140				3	ハケメ・ハケメ	石・長・雲粗	"	薄茶	薄茶		
	438	417	d 57-20	"	カメB-2類	135				4	"	工具調整	石・雲粗	良	暗茶	薄茶	炭化物
	439	490	d 59-21	"	カメA-4類	140				2	水洗	"	不	黄白	黄白		
	440	489	d 59-6	"	カメA-3類	160				2	ハケメ・ハケメ	石微	"	薄茶	薄茶		
	441	395	d 58-25	"	カメA-4類	150				2	水洗	石・長・雲微多	"	薄茶	白茶	炭化物	
	442	415	e 58-16	"	カメB-2類	130				5	水洗	石・長微 多	"	"	薄茶		
	443	400	e 58-4	"	カメB-2類	135				1	水洗	石微	"	黄白	黄白	炭化物	
	444	414	d 59-14	"	カメB-2類	140	140	70	145	12	ハケメ ハケメ	石・長・雲微	"	暗茶	赤茶		
	445	468	d 59-19	"	カメB X類	90				8	へう調整	石・長粗	"	黄白	薄茶	風化	
	446	474	d 57-19	"	カメB X類	58				12	縁・面縁切・右ノコ	石微	良	暗茶	"		
	447	477	d 57-9	"	カメB X類	70				5	右ノコ	石・雲微	"	薄茶	"		
	448	475	c 60-10	"	カメB X類	55				12	右ノコ	石・長・雲微	"	"	"		
	449	645	c 59-17	"	カメB X類	50				2	へう削り	石・雲微	中	黒茶	"		
	450	476	d 59-16	"	カメB X類	63				11	縁・面縁切・右ノコ	石粗 多	良	薄茶	"		
	451	467	表 採	"	カメB X類	75				7	"	石・長微	"	"	"		
	452	644	c 59-17	"	カメB X類	100				2	"	石微	中	"	"		
	453	457	c 58-13	"	カメB X類	70				9	縁・面縁切・右ノコ	石・長微	良	"	"		
	454	466	e 59-9	"	カメB X類	75				12	ハケメ・ハケメ	石微	不	薄茶	"		
	455	460	d 57-20	"	カメB X類	70				12	水洗・左ノコ	石・長・雲粗多	良	薄茶	"		
	456	458	c 59-16	"	カメB X類	72				"	石・長粗	"	"	黄白	"		
42	457	642	c 59-17	"	カメA-3類	80				1	"	石・長・雲微	中	"	薄茶	炭化物	
	458	406	d 57-15	"	カメA-4類	105				3	"	石・長微	良	暗茶	黄白		
	459	411	d 57-9	"	カメA-4類	110				2	水洗	石・長微	"	茶	薄茶		
	460	500	d 59-1	"	カメA-4類	200				2	"	石・長微・小礫	中	薄茶	薄茶		
	461	643	c 59-17	"	カメA-4類	110				1	"	石微	良	暗茶	"	炭化物	

種別	No	遺物No	出土位置	種別	器種	計測				現存率 12分法	手法	胎土	焼成	色		備考	
						器高	口径	底径	最大径					表	内		
42	462	424	d59-6	土師器	カ/B-2類		110			3	"	石・長敷多	良	ベージュ	黄茶	肉薄	
	463	398	"	"	カ/B-2類		120			2	"	水洗	石・長・雲祖	"	黒茶	薄茶	炭化物
	464	399	e60-2	"	カ/B-2類		135			1	"	"	石祖多	"	"	"	"
	465	413	d57-24	"	カ/BX類				120	3	"	"	石・雲祖	"	茶	黄茶	
	466	519	e59-5	"	"						"	和州紋・麻目・ナメ	石・雲祖	"	茶	茶	
	467	517	e59-6	"	"						"	背海紋文	石・長・雲祖	中	薄茶	薄茶	
	468	521	表採	"	カ/B						"	平印目文・押花文	石・長祖	"	白茶	ベージュ	
	469	520	e59-3	"	"						"	熊子印目文・ハナノ・縁線文	石祖	良	黒茶	"	
	470	523	d59-4	"	"						"	格子文・ナゲ	石・長祖	中	ベージュ	"	
	471	472	e59-12	"	カ/BX類			70		12	"	水洗	石・長祖	多	良	暗茶	"
	472	459	d57-24	"	カ/BX類			80		4	"	目転糸切・右コクロ	石・雲祖	"	黒茶	明茶	
	473	473	c57-20	"	カ/BX類			110		5	"	"	石・長祖	多	不	ベージュ	黄茶
	474	469	e59-10	"	カ/BX類			90		12	"	右コクロ	石祖	中	"	"	
	475	461	e59-10	"	カ/BX類			55		12	"	へう調整	石・雲祖	"	"	ベージュ	
	476	471	d58-9	"	カ/BX類			70		12	"	水洗・右コクロ	石・長・雲祖多	良	"	黄茶	
	477	470	e60-2	"	カ/BX類			54		11	"	"	石祖	多	良	"	"
	478	502	e57-14	"	カ/BX類			150		2	"	ヨコナゲ	石・長・雲祖	中	黄白	黄白	
	479	511	表採	"	鉢			140		1	"	水洗	石祖	良	黒茶	暗茶	
	480	508	c59-14	"	"			200		1	"	"	"	中	ベージュ	ベージュ	
	481	507	d57-15	"	"			200		2	"	"	長祖	中	"	"	
	482	509	e57-4	"	"			140		2	"	"	"	"	"	"	
	483	510	c58-20	"	"			140		1	"	"	長祖	"	"	"	
	484	316	d59-1	"	甕A-2類	39	136	50		12	"	右コクロ	雲・石・長敷多	良	黄ベージュ	黄ベージュ	
	485	356	d58-14	"	甕A-2類			120		2	"	"	石・長敷	不	ベージュ	ベージュ	
	486	345	e57-9	"	甕A-2類	30	130	72		6	"	目転糸切・右コクロ	"	良	"	"	
	487	348	e58-11	"	甕A-2類			70		2	"	"	"	中	黄ベージュ	黄ベージュ	
	488	346	d58-15	"	"			65		6	"	"	"	"	黄ベージュ	ベージュ	
	489	347	e59-5	"	"			75		4	"	"	"	"	"	"	
	490	308	d58-23	"	甕B-1類	40	130	65		5	"	"	石・長・雲祖	良	ベージュ	"	
	491	313	c58-11	"	甕A-2類	38	132	58		6	"	"	"	中	黄ベージュ	黄ベージュ	
	492	314	d57-9	"	甕A-2類	38	118	50		5	"	"	"	中	"	"	
	493	315	e59-13	"	甕A-2類	37	122	45		4	"	左コクロ	石・長敷	"	ベージュ	ベージュ	
	494	303	c60-13	"	甕A-1類	50	156	54		8	"	焼・スリップ・右コクロ	石・長・雲祖	不	黄白	黄白	
	495	304	"	"	甕A-1類	52	160	45		7	"	"	"	"	薄茶	薄茶	
	496	305	"	"	甕A-1類	50	160	54		9	"	"	"	"	ベージュ	"	炭化物
	497	309	e57-5	"	甕A-2類	44	145	55		10	"	"	"	"	赤茶	赤茶	
	498	302	c60-13	"	甕A-1類	46	153	50		9	"	スリップ	"	不	ベージュ	ベージュ	
	499	311	d57-5	"	甕A-1類	55	164	60		4	"	左コクロ	石・長敷	中	黄ベージュ	黄ベージュ	
	500	310	d58-16	"	甕A-1類	55	155	70		6	"	"	石・長祖	良	薄茶	薄茶	茶み
	501	301	d58-6	"	甕A-2類	45	137	55		10	"	スリップ・右コクロ	石・長・雲祖	不	黄白	"	
	502	306	c59-12	"	甕A-2類	37	134	54		3	"	左コクロ	"	"	ベージュ	ベージュ	
	503	512	d59-9	"	甕B-2類			120		2	"	"	石祖	良	黒茶	暗茶	
	504	514	d59-10	"	甕A-2類			140		3	"	"	石祖	不	白茶	白茶	灯明皿転用
	505	513	"	"	甕A-2類			130		3	"	"	"	中	灰茶	灰茶	
	506	321	d59-1	"	甕A-2類			60		5	"	目転糸切・右コクロ	石・雲・長敷多	良	"	薄茶	
	507	323	d58-15	"	甕A-2類			60		3	"	"	石祖	中	黄白	黄ベージュ	
	508	325	c59-12	"	甕A-2類			58		12	"	左コクロ	石・長祖	"	"	黄白	
	509	326	d60-6	"	甕A-2類			90		11	"	"	石・長・雲祖	"	茶	茶	
	510	324	d59-5	"	甕A-2類			50		12	"	右コクロ	石・長・雲祖	不	黄白	黄白	
	511	351	d59-1	"	甕B-2類			95		3	"	黒色処理	雲・石敷多	中	緑茶	黒	内庫

博物館 No	遺物 No	出土位置	種別	器種	計測			残存率 12分法	手 法	胎 土	焼 成	色		備 考		
					器高	口径	底径					最大径	表		内	
43	512	350	"	土師器	縄B-2類		125		3	水浸・黒色結核	雲・石散多	中	薄茶	"	内黒	
	513	349	d 59-15	"	" B-2類			55	12	"回転糸切・左口クロ	雲・石・長層多	"	"	"	"	
	514	355	d 58-19	"	" A-2類		130		1	"	"	良	灰	"	継行書	
	515	353	"	"	" B-2類		130		3	"	"	中	白灰	"	"	
	516	354	"	"	" A-2類		120		2	"	"	"	ベージュ	"	"	
	517	352	d 59-24	"	碗 底			50	6	"回転糸切・右口クロ	"	"	薄茶・黒	"	"底都刻線	
	518	651	d 57-25	瓦 器	火 器			120	3	ヨコナテ黒色処理	長・雲散	"	黒	"	"	
	519	653	"	土師器	土 織	38			8	欠く	石・長・雲散	良				
	520	655	c 58-18	石 製	分 刷	54			28	削る・挟る	泥 岩	25 g	一部欠損			
	521	656	d 59-22	"	浮 子	59			62	"	軽 石	35 g				
	522	654	d 59-1	"	石 織	123			53	刻む	粗面岩	450 g				
	523	665	d 58-24	"	面取石	66×55×50					削る・挿る	軽 石	75 g	18面		
	524	661	c 60-16	"	軽 石											
	525	657	d 57-7	"	底 石								両端欠失			
	526	666	d 60-6	"	"	36×26×10					挿る					
	527	667	"	"	"	43×30×20					"					
	528	668	"	"	"	42×41×20					"					
	529	669	c 59-16	"	スリ石	163×98×90					"		4面摩り			
	530	660	c 60-16	木 炭		56×18×12							白炭			
	531	659	c 58-25	板		35×30×5							板の炭化物			
	532	658	"	鉄		50×17×4							編カ			
	533	664	"	生 鉄												
	534	662	c 57-15	中世陶器	鉢		330						須恵器系			
	535	663	"	"	"								"			
	536		c 59-15	種子	クルミ	35×28×28										



## IV ま と め

### 1 上浦遺跡とその時代

上浦A遺跡の調査を終えてここに曲がりなりにもその遺構と遺物の報告を終える事ができた。一昔前、新津市史編纂事業に携わり遺跡の分布調査を行った頃、新津市はおろか越後平野の沖積地に遺跡が展開している事は殆ど考えられない事であったし、また遺跡の発見や報告もごく希な事であった。その頃、新津市に関しては巻頭で記した如く川根遺跡などのごく限られた遺跡を知るのみに止まっていた。その頃から今日に至る僅かな期間に越後平野の低湿地に夥しい数の遺跡が発見される事となり、その殆どが古代の遺跡であり、この時期、この地域が爆発的な勢いで開発が進んだ事が伺われる。

第1章に記した様に上浦地域内のいわゆる上浦遺跡と称する遺跡の範囲は、それぞれ各地域に分離しているがその内容は必ずしも同一遺跡とは言い兼ねるが、広大な面積に展開していることは否めない。私たちの調査区域である「上浦2期遺跡」が本稿の最後に至って「上浦A遺跡」の名称に変更された。従って当調査以前に開始されていた隣地の「上浦1期遺跡」も「上浦B遺跡」に改名された。よって文章の記述や遺物の取扱いなどに混乱を来しているが了承を願いたい。さらにその前年より開始された磐越自動車道関連の「上浦遺跡」のA地区・B地区もあり混乱を深めている。ところで当調査である「上浦A遺跡」もA地点、B地点の2か所に分かれ、南北に140mの距離をもつ。そして「上浦A遺跡」と「上浦B遺跡」では400m「上浦遺跡」は約500mの距離にある。

当調査の結果、A地点、B地点では共に多量の土器を検出しているがこの組成に異なりを見る。ここに図示した土師器と須恵器の比率はB地点で土師器が多くなるが、遺物の全体量を比較する時、表4に示した如くB地点での土師器が断然に多い。この事は土器の持つ容器としての機能と遺構との関連も考えに入れなければならないが、時代が降りるに従って土師器の量が多くなる事が近年の各地での調査から分かってきた。またB地点での遺構が土器と直接結び付かない土坑や溝遺構である事からも、ここでは2地点の遺構や土器に時間差が有るものとした。現時点で「上浦B遺跡」や「上浦遺跡」の詳細については不明であるが、少なくとも前者は「現地説明会資料」に基づけば、周溝を持つ数基の建物群と、須恵器、土師器、奈良三彩などから「9世紀中葉～後葉の集落」とある。これはともかく当調査区域のA地点では須恵器の壺、壺、瓶などの形態を踏まえて8世紀後半にはその営みが始まっていたと考えられ、B地点では9世紀中葉以降にその中心があるものと考えられる。この様な事から上浦遺跡全体を見たとき各地点で多少の時間差を持った事も考えられ、また機能的な異なりも夫々分散していたきらいも考えられるところである。A地点、B地点の性格を考える時、まづ高床式建物の存在がある。この事は炊事場を持たない事から生活の場でない事を物語っている。遺物の中に墨書土器や硯、または転用硯などを見る。この事は識字階層の遺跡であったことは言うまでもなく単なる集落址に止まるものではない。しかしながら同様な遺跡が次々に発見されていく現在、いづれもが「郡内関連」に係わる遺構と考えられるきらいがある。この時期、越後平野は爆発的な勢いで開発が進んだ事が伺われると前述したが、この事は自然発生的な事とは考えられず、中央政権の政策に因るものであり、官民挙げての開発の最前線であったと考えられないであろうか。当然の事ながらここには貧しい民びとの生活は見えて来ず、支配者層の遺構のみが残った事は容易に納得されるのではなからうか。

当遺跡で検出された遺物の殆どは在地窯から供給されたものと考えられる。この時期ここ新津丘陵には巻頭で記述した如く七本松窯、滝谷窯、草水窯を始めとして山崎窯等の須恵器窯址群が展開し、周辺の遺跡へ供給した事は当然であろう。また東方の五頭山窯も県内最大規模の須恵器窯址群である事から、その地の製品も当然の事ながら含まれている。一方、土師器の生産も草水窯で報告されており [1993; 渡辺]、在地での供給物がその主流であった事と考えられる。

A地点、B地点のいづれからも多数の墨書土器が検出されている。A地点では17点、B地点では35点がある。これらはいづれも坏、坏蓋、碗の食器に限られている。一般にはそれらの器物の所属を示すものであり、特定の個人のもであったり或いは建物自体の所属を表わすものであったりし、近年の発掘調査に見られる八幡林遺跡でその好例が知られると

当調査に於ける墨書で明らかに判読できるものは無いが、A地点では強いてこじつければ2が「教」3が「板井」と見られる他、4～12は「川」または「小」であろうか。15～17は記号であろう。B地点では1・2は不明であるがその他は全て同一のものである。これが「山」なのか或いは記号なのかは判断できない。このような中で記号も含めて単独のものは個人の所属と見ることもできるが、複数なのは建物など公に所属するものと考えられる。

表8 出土遺物総数

	須 恵 器				土 師 器				合 計
	甕	坏類	碗	瓶	甕・埴	坏・碗	鉢	土製品	
A地点	700	980	273	134	1043	84	-	4	3218
B地点	73	1202	9	-	5341	64	5	16	6710
合 計	773	2182	282	134	6384	148	5	20	9928

## 2 おわりに

当調査では遺跡の外周部に当たり多くを語り得なかったが、それでも建物址や多量の遺物に接する事ができた。現地調査から今日の報告書の発刊まで長い時間を費やしたが、空白の時間が多く実際に与えられた整理作業やその後の時間に余裕を持たなく、従って図引、図版は勿論の事、調査、データ、論考共に不備な事を率直に認めるものである。なお今後報告されるであろう「上浦遺跡」や「上浦B遺跡」の報告が遺跡の本体に触れてくれるものと期待している。

私たちが最初に新津市の遺跡に直面したのは1982年の「平遺跡」の調査に始まる。その後「八幡山遺跡」、「居村B遺跡」、「居村D遺跡」、「川口甲遺跡」、「舟戸遺跡」の調査報告を終了し、そしてこの度、漸くにして「上浦A遺跡」をここに終了する事ができた。またこの間には10余年に亘る市史編纂に携わり、市内の遺跡を踏査しそれなりの報告をする機会にも恵まれてきた。この間に市教育委員会では専門調査員を始めとする調査体制が充実され、八幡山遺跡公園に隣接して新潟県埋蔵文化財センターも開設し、新津市に於ける調査活動は磐石のものとなり隔世の感余りある。

この間、県内外の多くの研究者から御指導、御鞭撻を頂いた。市内小口や古津の方々やシルバー人材センターの方々、また近隣町村を含めた多くの方々の暖かい御支援を頂いて今日を迎えられる事ができた。これらの方々を始め教育委員会、市立図書館、そしてかつての市史編纂室の方々へ心より謝辞を表すものである。（1996.12/川上貞雄）

## 参 考 文 献

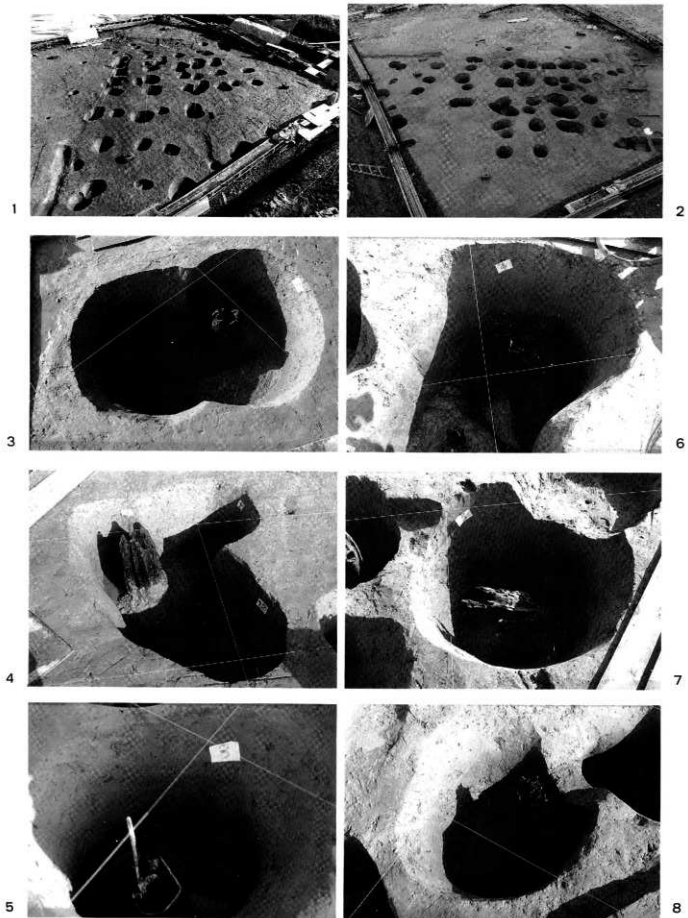
- 新 潟 県 1979：新潟県遺跡地区、新潟県教育委員会
- 抽 書 1992：川口甲遺跡発掘調査報告書、新津市教育委員会
- 小池義人 池 1994：船池遺跡：寺遺上遺跡、磐船自動車道関係発掘調査報告書、新潟県教育委員会：(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 抽 書 1996：居村B・D地区、金津丘陵製鉄遺跡群、新津市教育委員会
- 中川茂夫 池 1956：新津市田家七本松尾墓塚址発掘調査報告書、北方文化博物館
- 坂井秀弥 池 1984：今池遺跡、上野バイパス関係発掘調査報告書 Ⅰ、新潟県教育委員会
- 石川智紀 池 1994：沖ノ羽遺跡Ⅰ(A地区)、磐船自動車道関係発掘調査報告書、新潟県教育委員会：(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 北 村 亮 1991：上浦遺跡、新潟県埋蔵文化財調査だよりNo.7、新潟県教育庁文化行政課
- 渡 辺 朝 和 1992：上浦遺跡現地説明会資料、新津市教育委員会
- 渡 辺 朝 和 1992：車水町2丁目発掘現地説明会資料、新津市教育委員会
- 抽 書 1989：考古、新津市史、資料編一巻、新津市史編纂委員会
- 抽 書 1981：山崎須惠塚址、五泉市教育委員会



上 遺跡全景（B地点より） 中 A地点全景 下 発掘作業風景

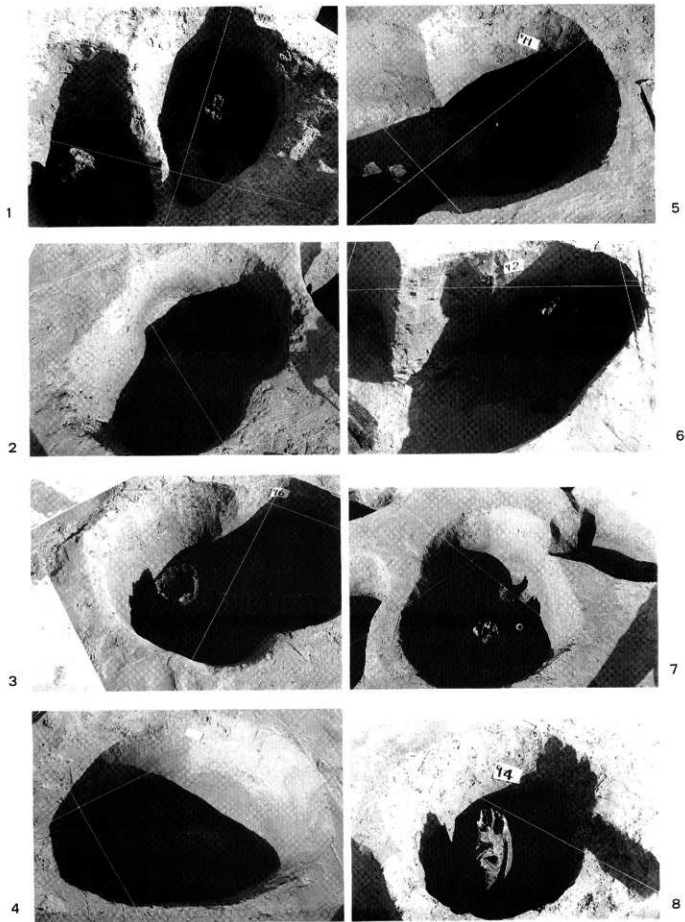


A地点 土器出土状況 1~3 = SD-1号  
4 = SD-1号上层 5·7 = U53-12 6 = U53-17



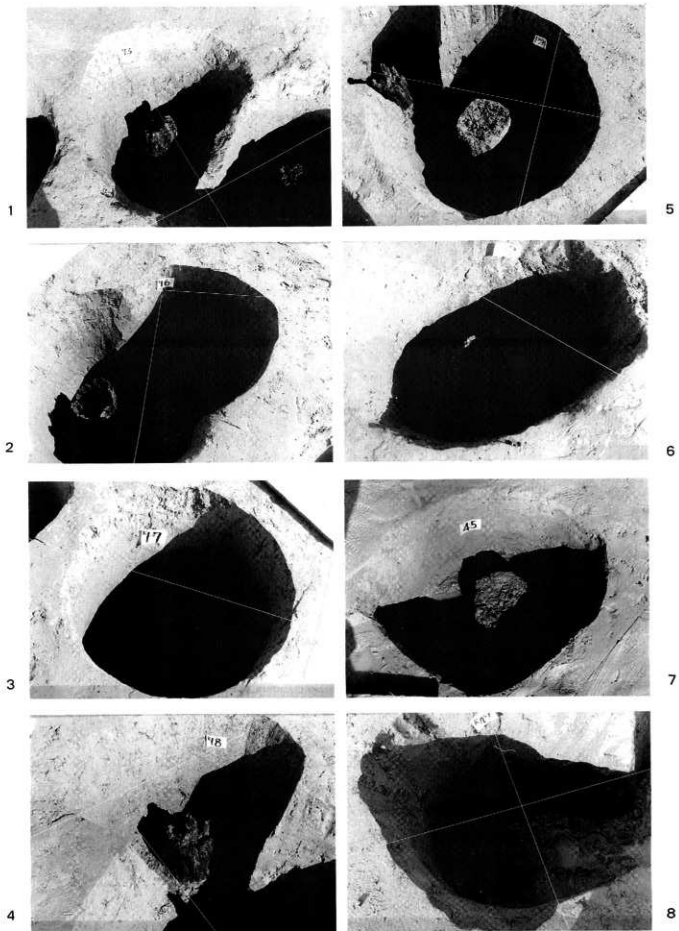
A地点 1·2掘立建物柱穴群

3~8柱穴 (3=P<sub>1</sub>, 4=P<sub>2</sub>, 5=P<sub>3</sub>, 6=P<sub>4</sub>, 7=P<sub>5</sub>, 8=P<sub>6</sub>)



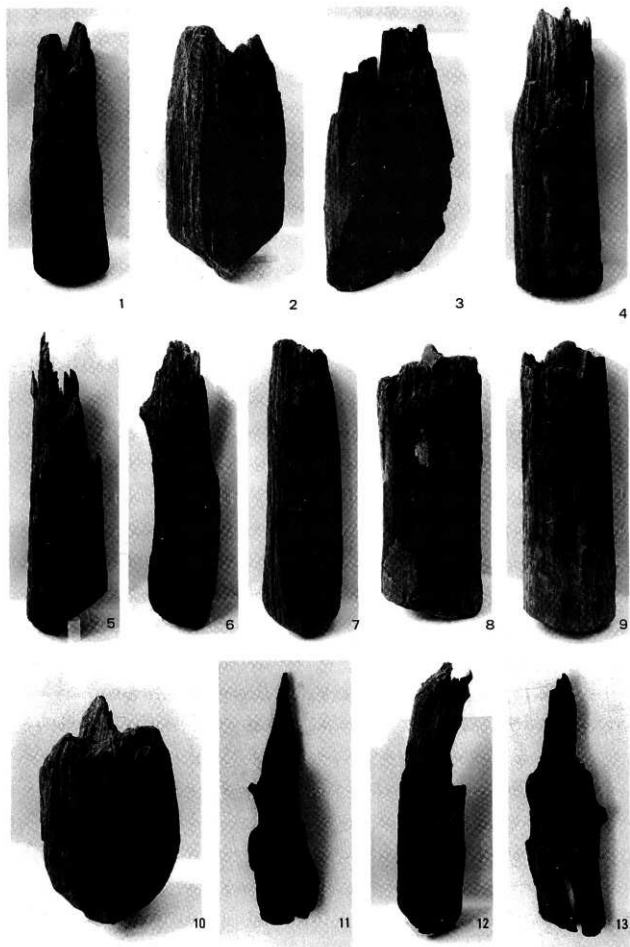
A地点 柱穴

(1 = P<sub>7</sub>, 2 = P<sub>8</sub>, 3 = P<sub>9</sub>, 4 = P<sub>10</sub>, 5 = P<sub>11</sub>, 6 = P<sub>12</sub>, 7 = P<sub>13</sub>, 8 = P<sub>14</sub>)



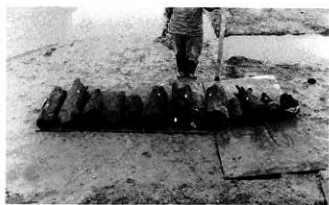
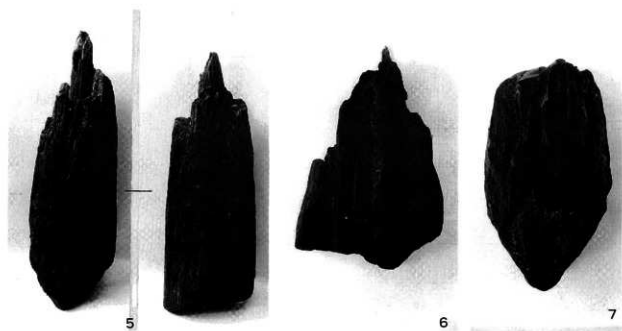
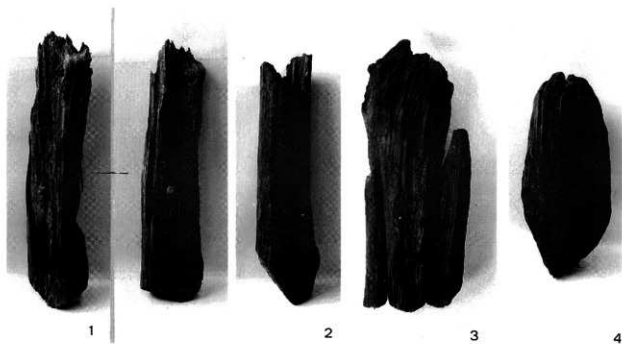
A地点 柱穴

(1 = P<sub>15</sub>, 2 = P<sub>16</sub>, 3 = P<sub>17</sub>, 4 = P<sub>18</sub>, 5 = P<sub>20</sub>, 6 = P<sub>22</sub>, 7 = P<sub>45</sub>, 8 = P<sub>47</sub>)



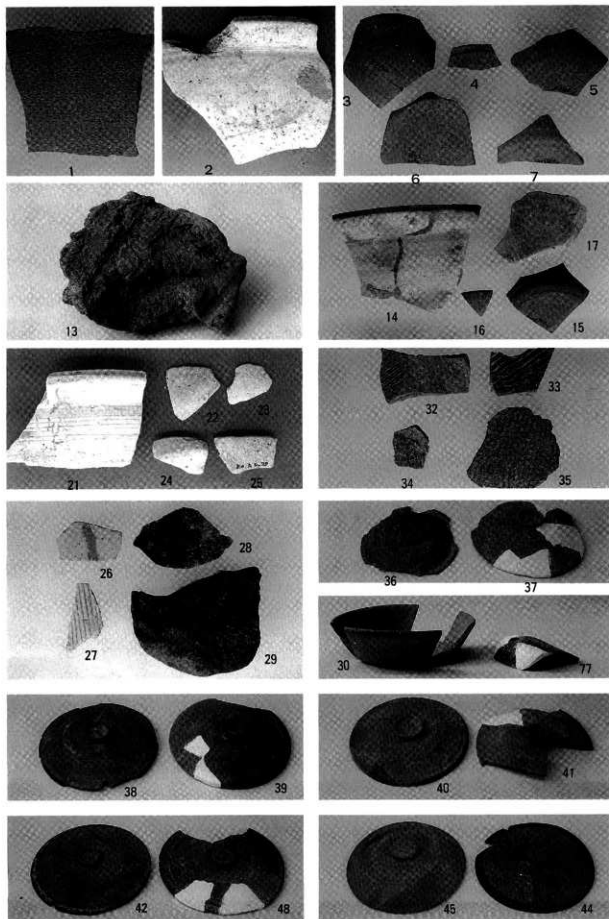
A地点 柱根 (1=P<sub>1</sub>, 2=P<sub>2</sub>, 3=P<sub>3</sub>, 4=P<sub>4</sub>, 5=P<sub>5</sub>, 6=P<sub>6</sub>, 7=P<sub>7</sub>, 8=P<sub>8</sub>,  
9=P<sub>9</sub>, 10=P<sub>10</sub>, 11=P<sub>11</sub>, 12=P<sub>12</sub>, 13=P<sub>13</sub>)

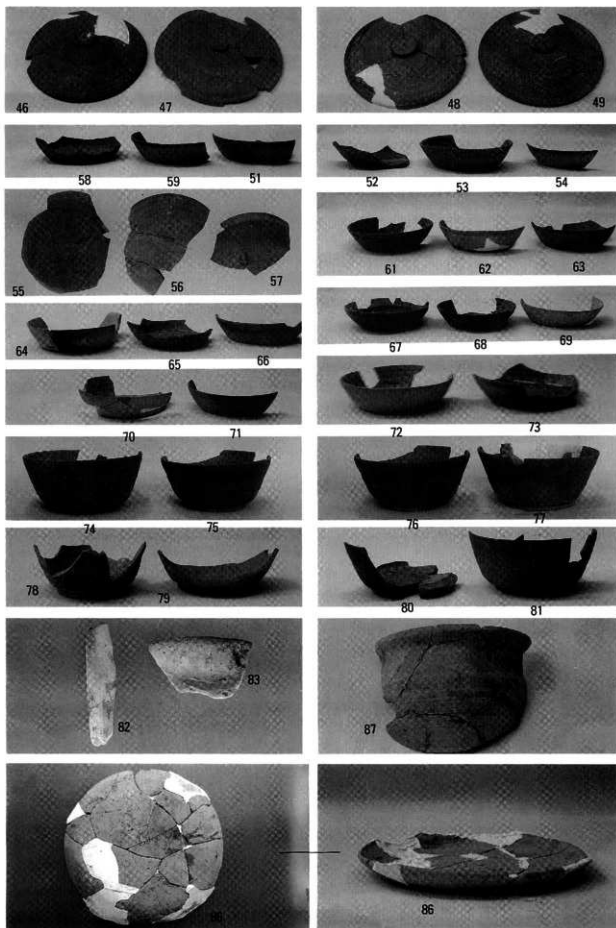


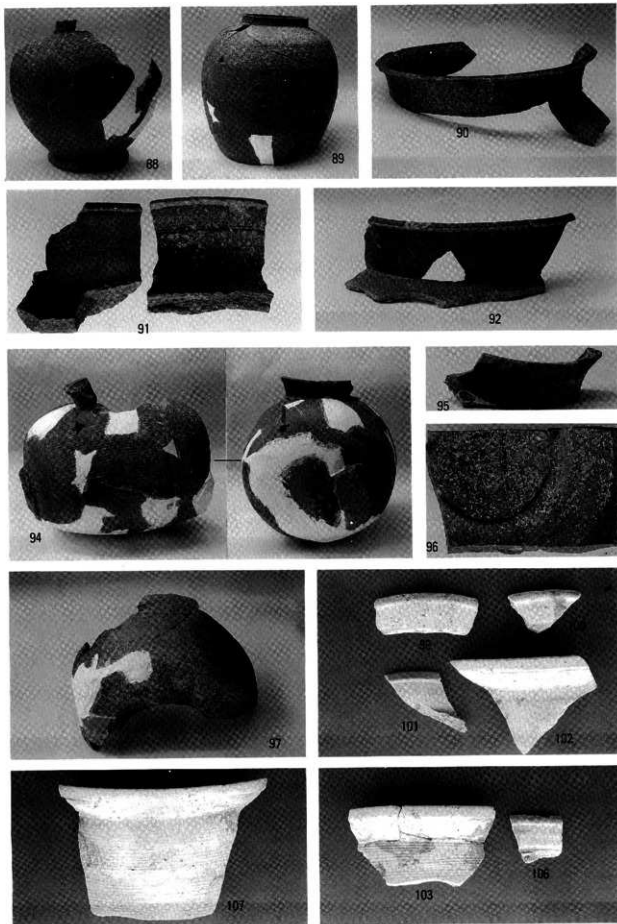


A地点 柱根

(1 = P<sub>14</sub>, 2 = P<sub>15</sub>, 3 = P<sub>16</sub>, 4 = P<sub>17</sub>, 5 = P<sub>18</sub>, 6 = P<sub>17</sub>, 7 = P<sub>18</sub>, 8 = P<sub>18</sub>)



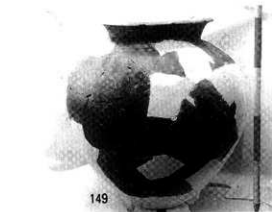
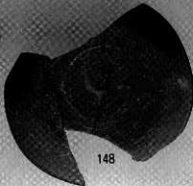
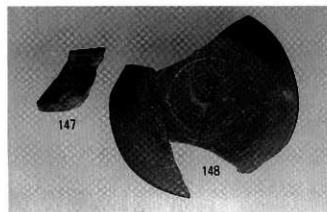
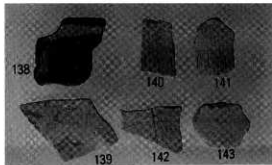
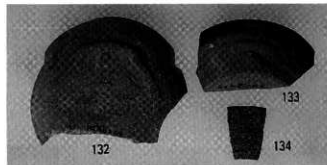
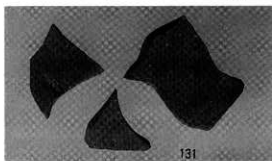
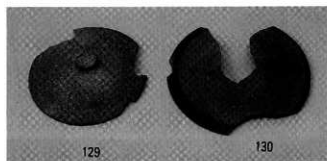
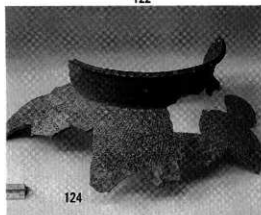
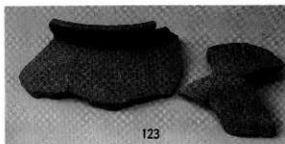


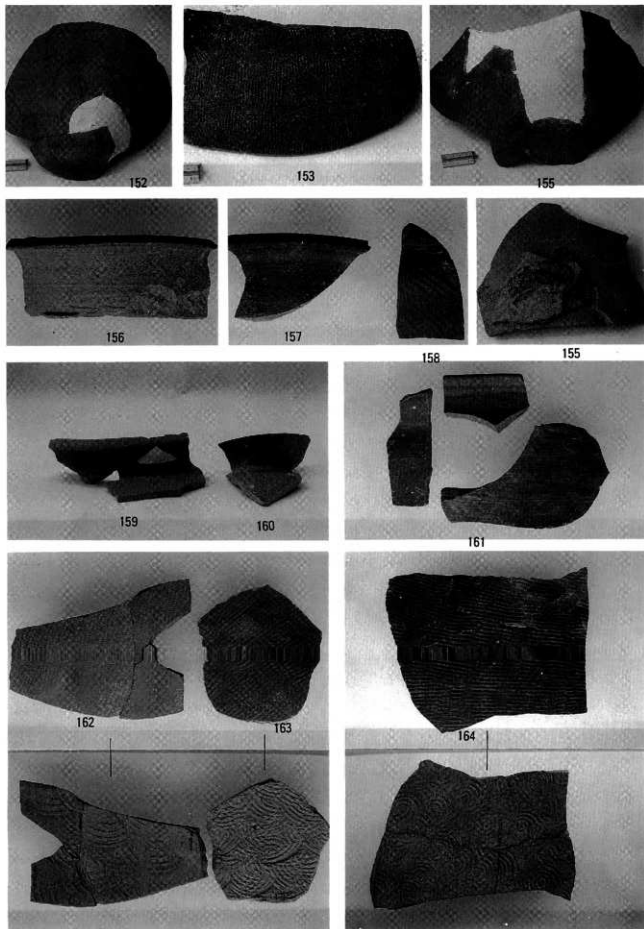


A地点 土器 III

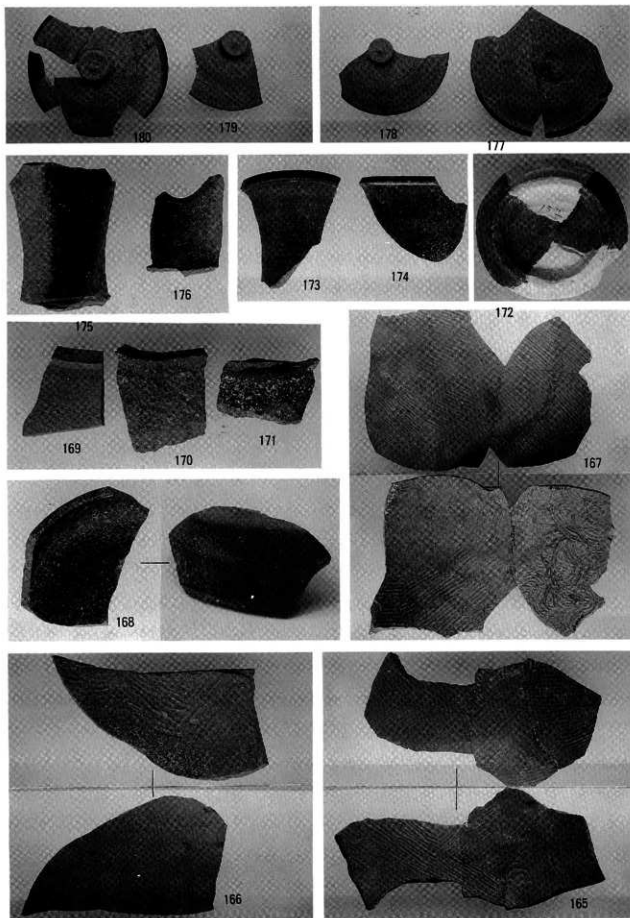


A地点 土器 IV

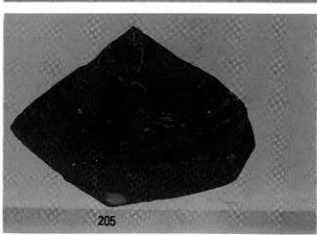
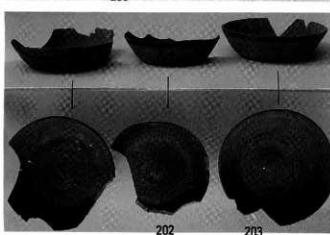
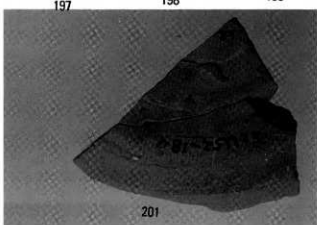
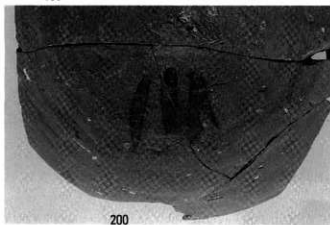
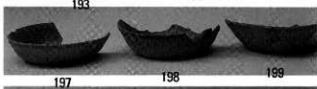
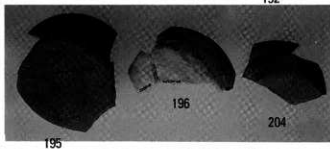
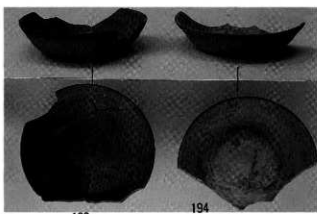
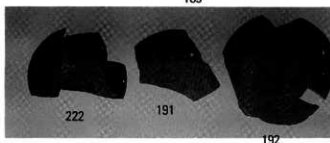
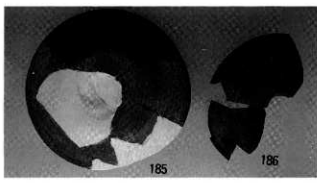
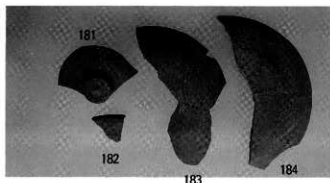




A地点 土器 VI



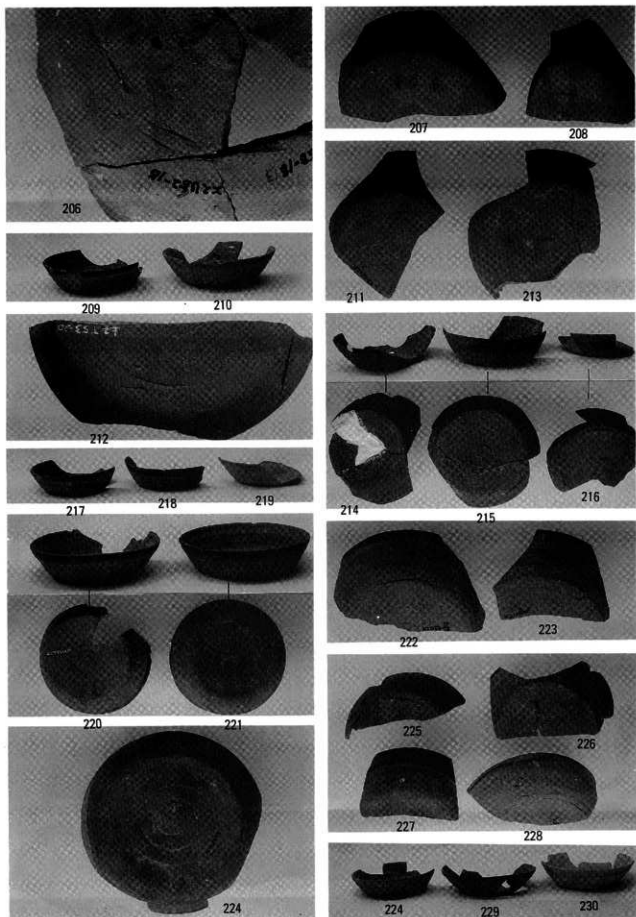


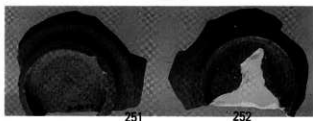
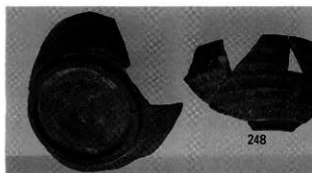
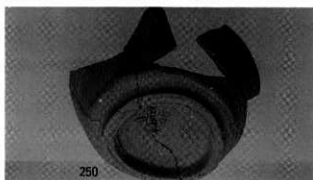
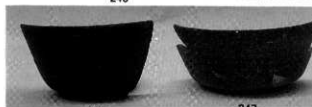
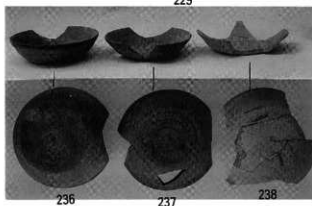
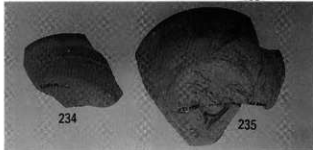
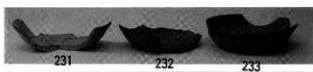


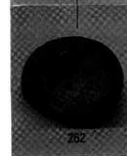
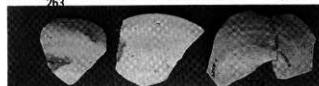
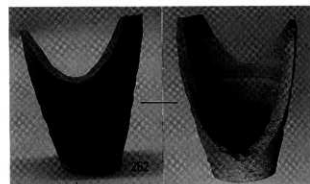
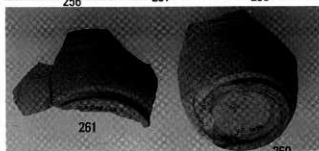
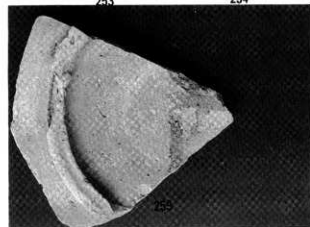
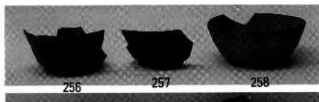
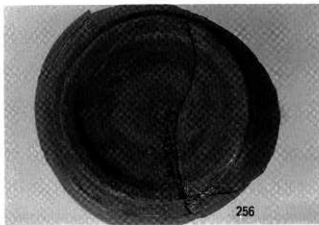
200

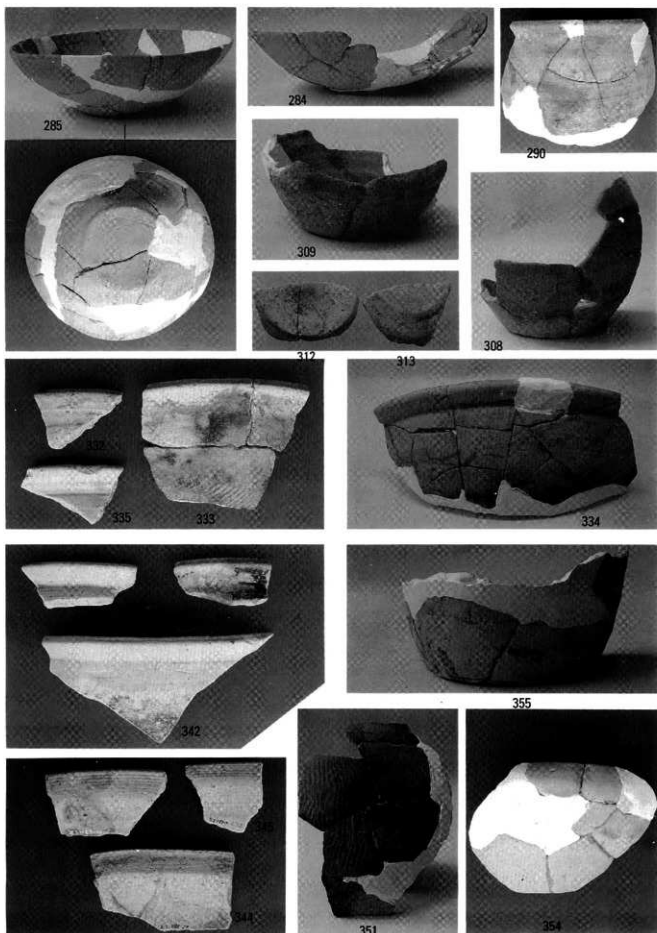
202

203





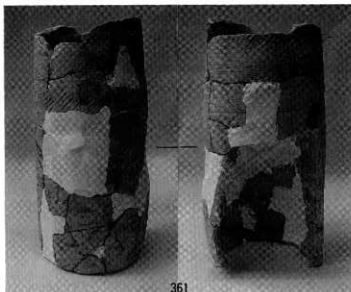




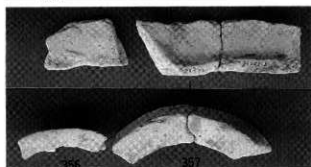
A地点 土器 Ⅱ



355

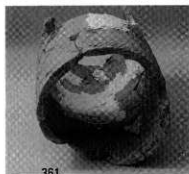


361



356

357



361



410



360



362

363

364

365

366

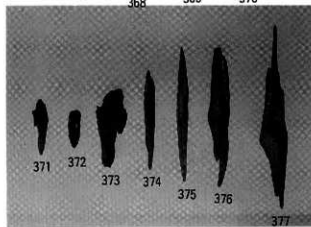
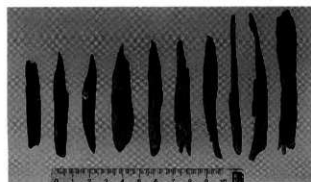
367

367

368

369

370



371

372

373

374

375

376

377



1



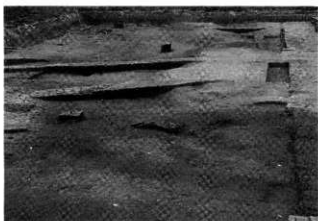
2



3



4



5



6



7



8

B地点 1 = 全景 2 = 発掘作業風景 3・4 = 地層断面  
5・6 = 上層完掘 7・8 = 下層完掘



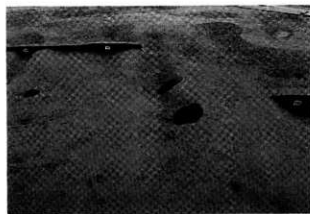
1



5



2



6



3



7



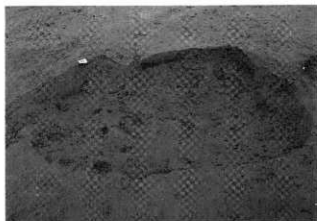
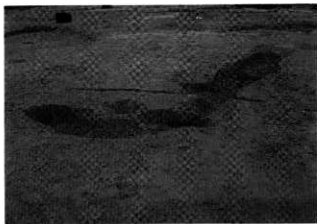
4



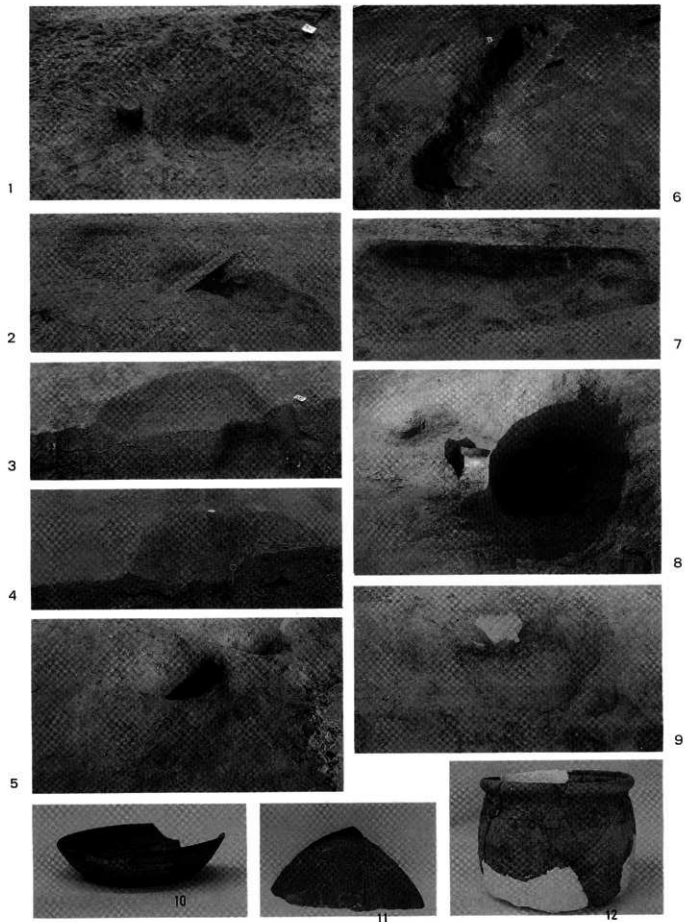
8

B地点 孟構 (1 = 溝列, 2 = S D-1, 3 = S D-2, 4 = S D-11,  
5 = S D-3-5, 6 = S D-3, 7 = S D-9·8, 8 = S D-16)

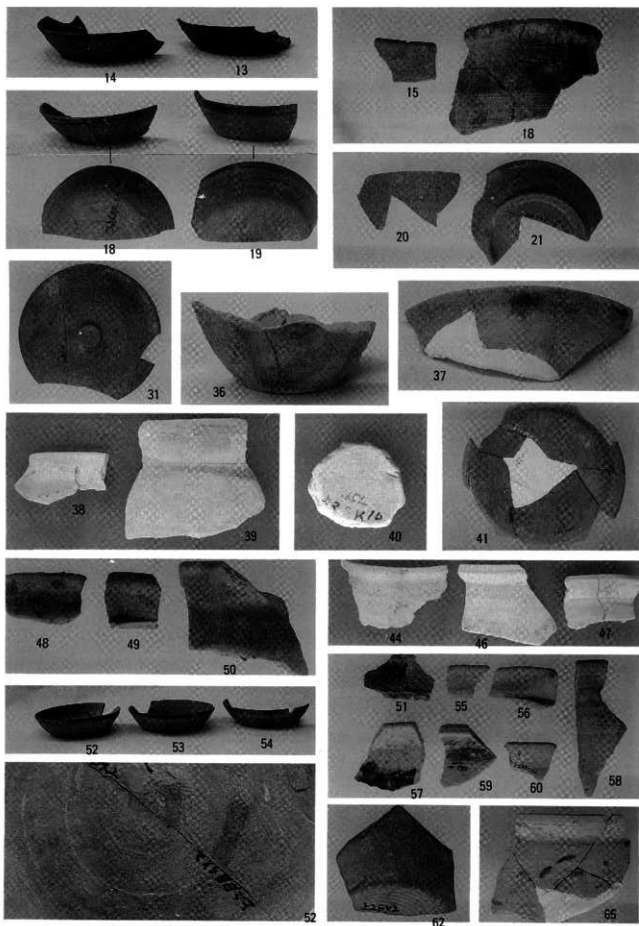


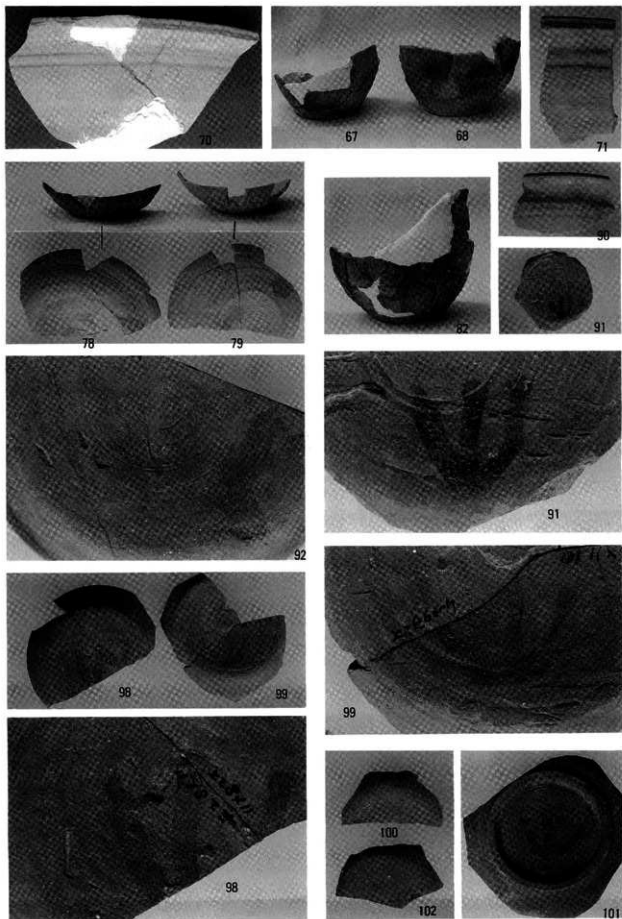


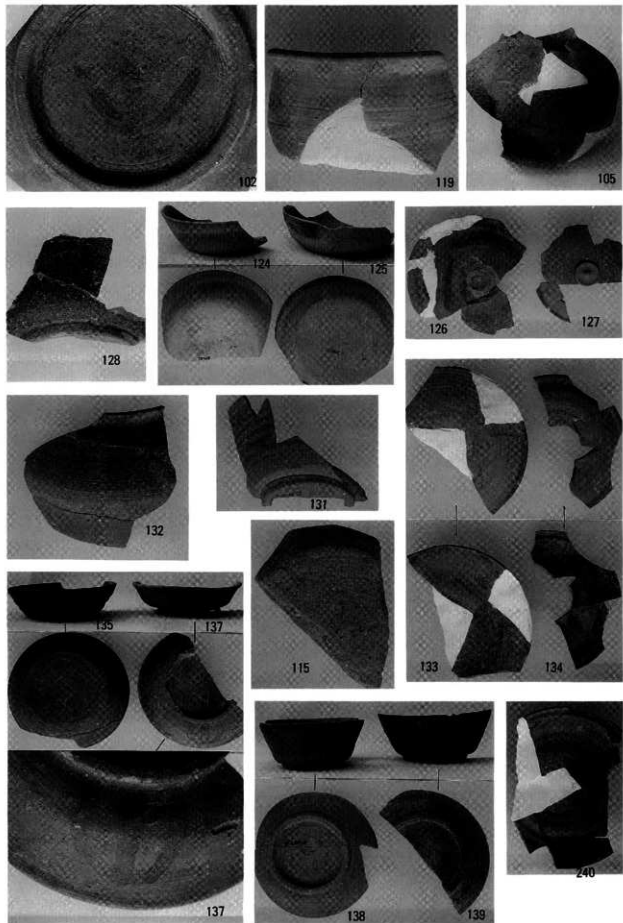
B地点 遺構 (1 = SD-11, 2 = SD-14, 3 = SD-13・15・7, 4 = SD-19, 5 = SK-1, 6 = SK-2, 7・8 = 土器出土状況)



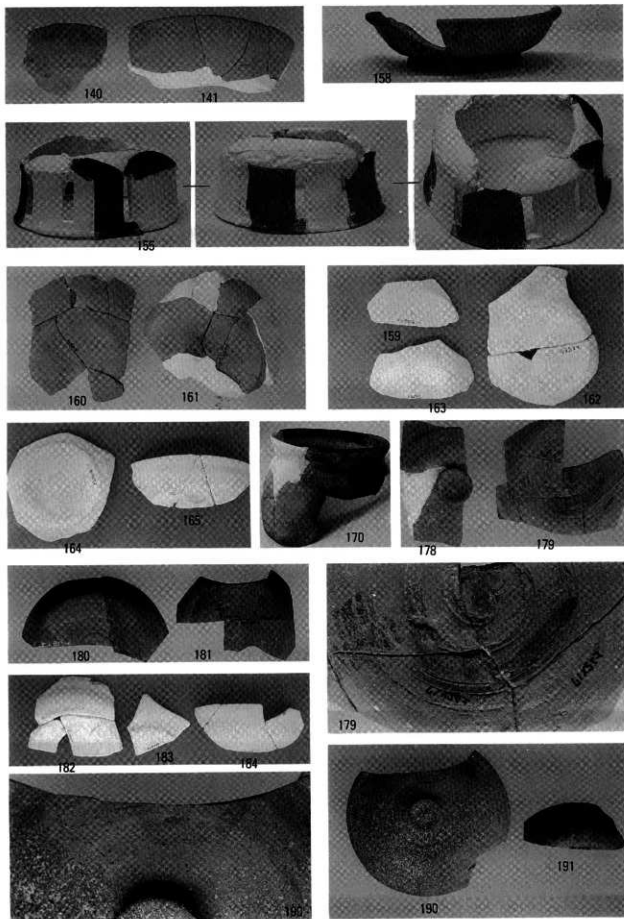
B地点 遺構 (1 = SK-3, 2 = SK-4, 3 = SK-5, 4 = SK-6, 5 = SK-7, 6 = SK-8, 7 = SK-9, 8 = SK-10, 9 = SK-11, 10~土器)

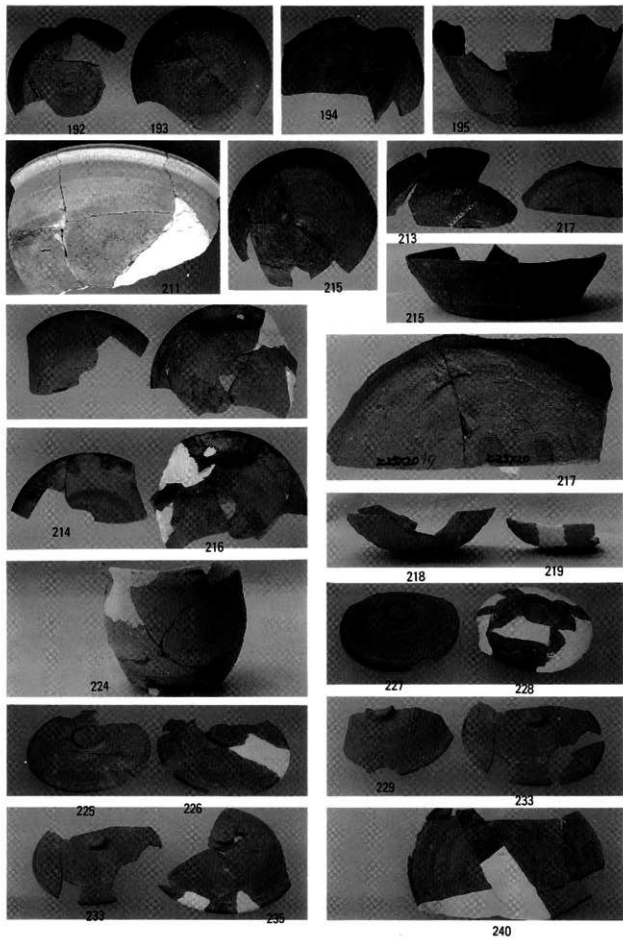


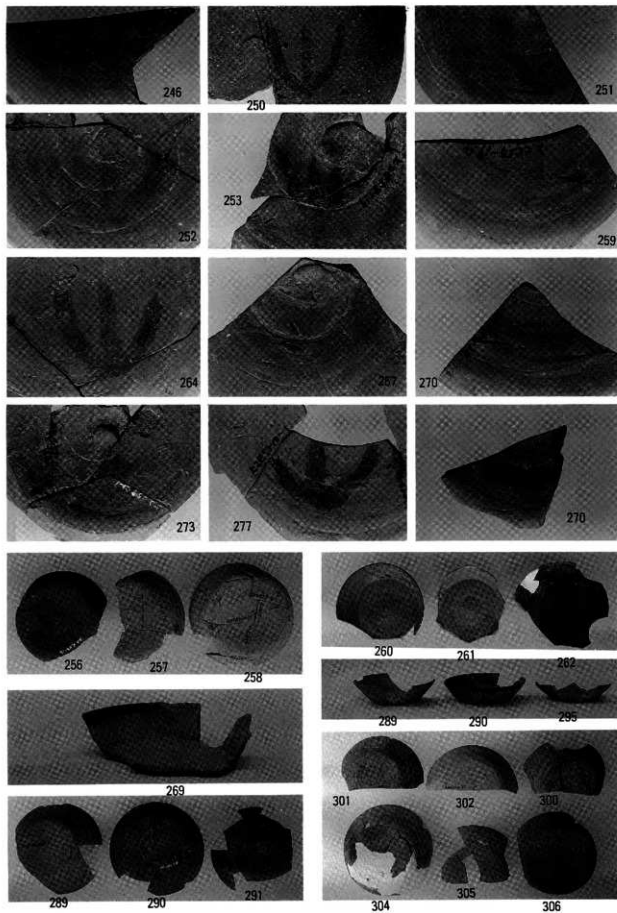




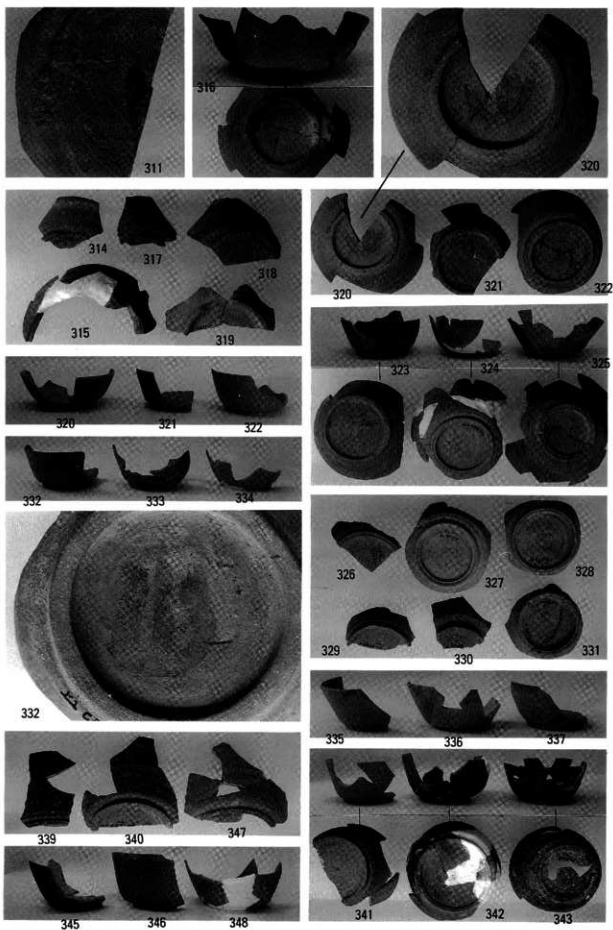
B地点 土器 Ⅲ

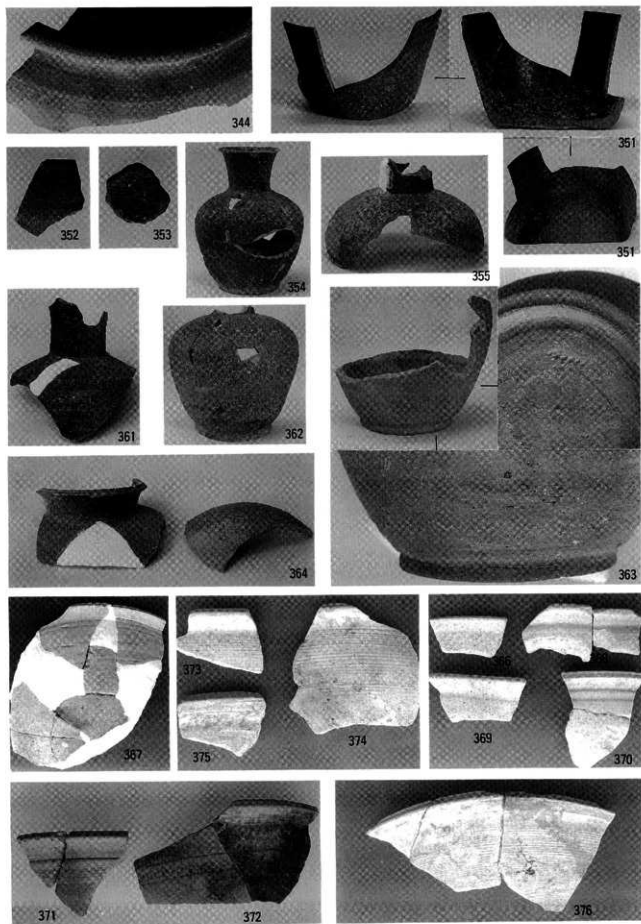


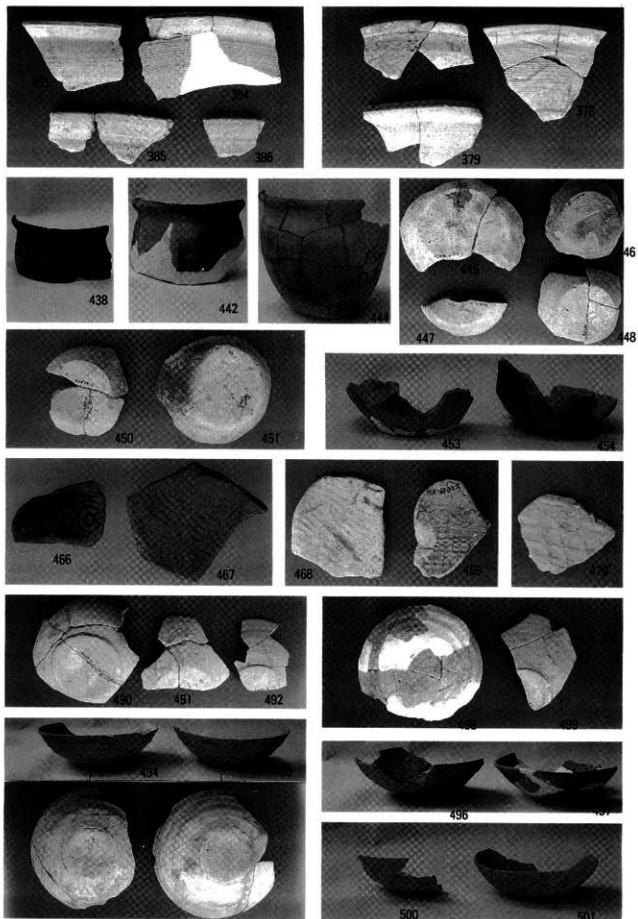




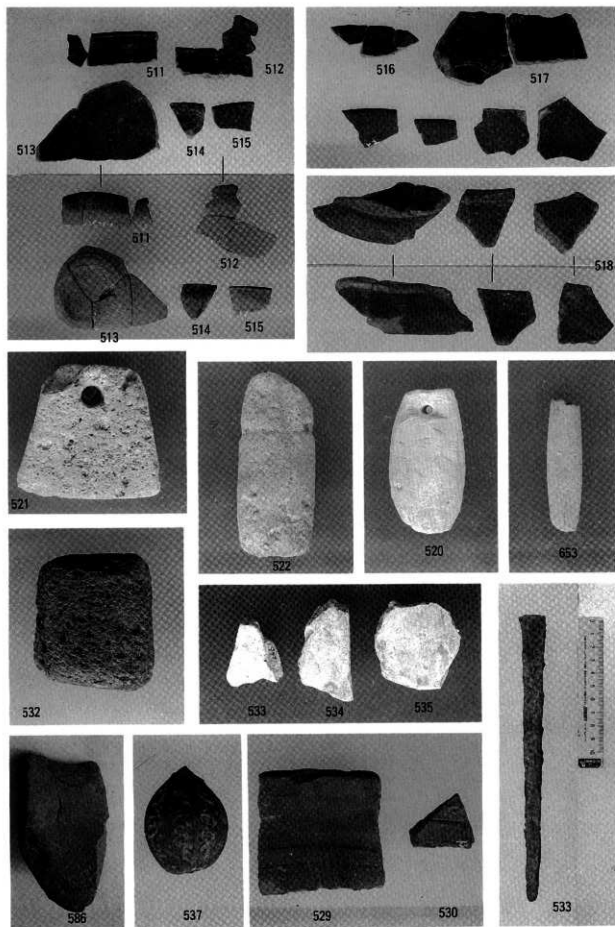




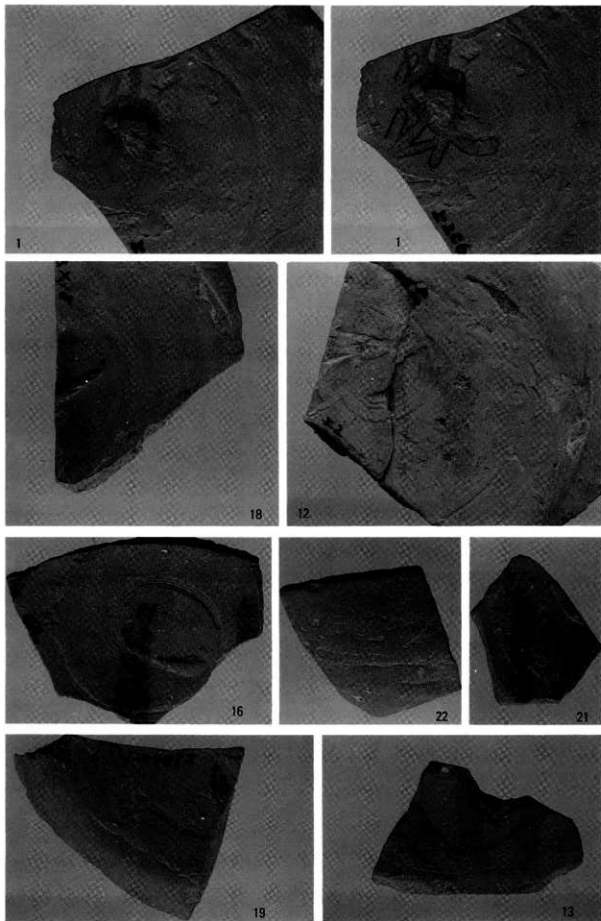




B地点 土器 IX



B地点 土器 X・その他の遺物



B地点 鬲書土器

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	かみうらえいせい							
書名	上浦 A 遺跡 (工業団地 2 期区域)							
副書名								
巻次								
シリーズ名	新津市文化財調査報告書							
シリーズ番号								
編著者名	川上 貞雄							
編集機関	新津市教育委員会							
所在地	〒 新潟県新津市大字川口乙 693-2 他 瓦							
発行年月日	西暦 年 月 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東径 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみうら 上浦遺跡	かみうら 上浦遺跡	207		37° 48' 49"	139° 06' 12"	1992 08. 20 ~1992 12. 05	3,900㎡	工業団地 造成工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
かみうら 上浦遺跡	集落址 又は 地方都市	奈良・平安 時代	建物址 溝遺構	須恵器 土師器 柱残欠		数回に亘って建 替えが行なわれ た掘立柱建物・ 柱穴群		

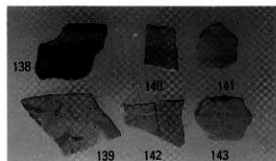
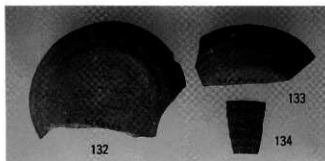
## 発掘調査参加者名簿

藤田 良平	小柳 実	吉田 良雄	青島 正子
今井 スイ	田中 ナツ子	斎藤 ミツ子	横山 ミネ
大橋 シズ	柏木 トミ	佐藤 サチ	湯田 ハル
渡辺 キョ	荻部 ナカ	長谷川 ハツエ	平川 スイ子
古田 一男	三浦 春夫	高橋 嘉一郎	舟山 辰雄
斎藤 興二郎	佐々木 正男	渡辺 修二	齋 昂
斎藤 登志之	石井 カネ子	浦 美栄子	田中 トキエ
森田 ヨキエ	山田 セツ	若佐 フジ	諸橋 スミ子
西郎 洋子	斎藤 範子		

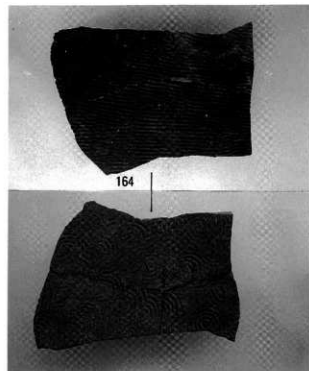
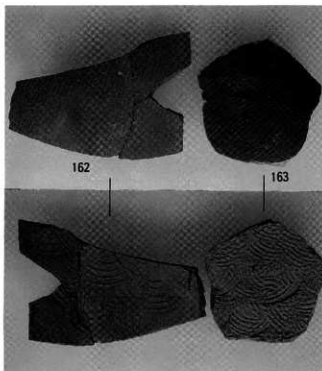
## お詫びと訂正

下記の図版（図版12 132, 133, 138, 140, 141）（図版13 162, 163, 164）は写真スキャナのブレのため、お手数ですがお差し替えくださるよう、訂正してお詫びいたします。

図版12



図版13



# 上 浦 A 遺 跡

新津市工業団地第2期工事地内

発 掘 調 査 報 告 書

1997年2月28日印刷・発行

発行 新津市教育委員会

〒956 新津市大字程島2009番地

TEL 0250-24-2111

印刷 有限会社 亀田プリント社

新潟県中蒲原郡亀田町亀田工業団地1丁目3-5

TEL 025-382-4601(代)